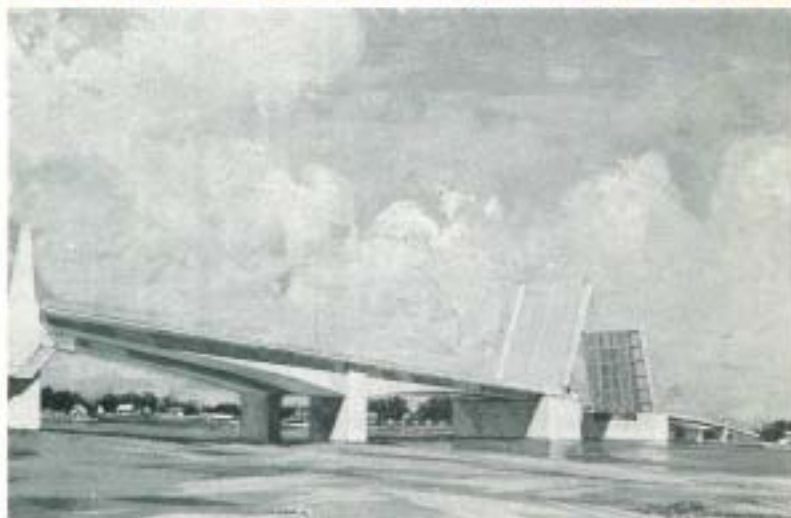
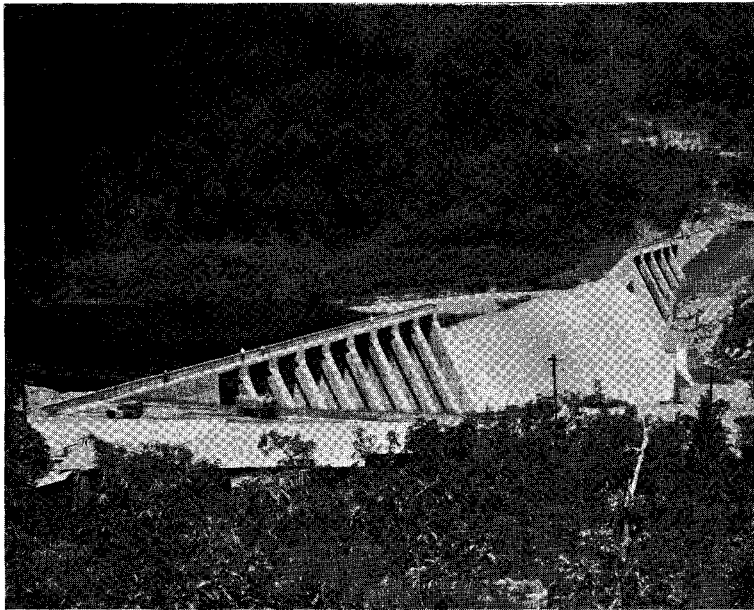
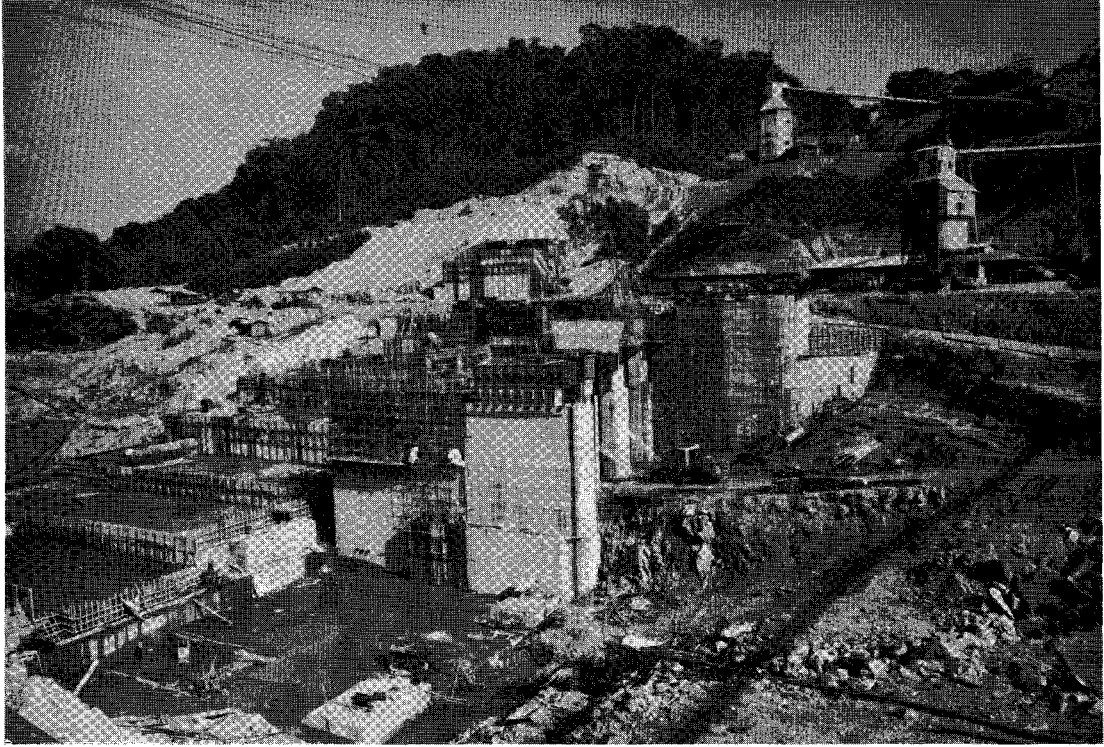


1



2

土木学会海外活動委員会が中心となって編集した、土木技術の海外進出期を中心活動とする特集をお届けする。これからますます急増すると考えられる海外工事を有利に展開するための一助となってくれることを願い、関係各位のご助力をいただいた次第であります。また、口絵ページには現在すすめられている代表的な工事を観せ、異国の地で働く土木技術者の姿をお伝えすることとしました。



写真説明

1. タイ国 Lam Dom Noi プロジェクトの工事現場。ダムは中央遮水型ロックフィルで、発電所は地上式である。
2. タイ国メナム河に架設されるサトン橋の完成予想図。
3. ラオス国ビエンチャン北方約 70 km地点に建設中のナグムダム。多目的ダムで重力式コンクリート形式を採用している。写真は下流側から発電所放水路を写したものである（1970年5月）。
4. マレーシア国ムダ河プロジェクトに建設されたムダダム。工期は1966年4月から1969年3月。

**土木学会昭和45年度全国大会
講演概要集・見学会・懇親会・宿泊申込書**

黒インクまたは黒鉛筆ではっきりお書き下さい

◎申込期間：9月30日（水）（期限厳守して下さい）1人1枚とし不足のときはこの用紙をコピーして下さい。

氏名	ふりがな							年 令 才	
勤務先							電	勤務先 自宅	
連絡先 勤務先 自宅	郵便番号（	—							話
概 要 集	I	応用力学・構造力学・橋梁など	1 200 円×	部=	円				
	II	水理・水文・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生など	1 100 円×	部=	円				
	III	土質・基礎・土木機械・施工・トンネルなど	900 円×	部=	円				
	IV	道路・鉄道・都市計画・交通・測量など	600 円×	部=	円				
	V	土木材料・施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など	700 円×	部=	円				
	期限内申込みに限り送料は学会が負担します							①小 計	円
現 場 見 学 会	定員になり次第、締切ります。				○印をご記入下さい。				
					第1希望	第2希望	第3希望		
	第1コース (高速道路めぐり)	6日午後	定員50名	参加費 300 円前納					
		8日午前	"	"					
	第2コース (高潮対策)	8日午後	"	"					
		7日午前	"	"					
	第3コース (高速電気軌道)	7日午後	"	"					
		7日午前	"	"					
	第4コース (臨海開発)	8日午後	"	"					
		8日午前	"	"					
第5コース (寝屋川下水道)	8日午後	"	"						
	8日午前	"	"						
				② 参加費前納金	300 円×	回=	円		
旅 行 見 学 会	定員になり次第、締切ります。				○印をご記入下さい。				
					第1希望	第2希望	第3希望		
	Aコース (美浜原子力)	11月9日	定員50名	参加費 2 000 円前納					
	Bコース (防災研,琵琶湖)	"	"	参加費 1 500 円前納					
	Cコース (山陽新幹線,ポート)	"	"	参加費 1 500 円前納					
				③ 参加費前納金			円		
懇 親 会	11月7日	参加費 1 000 円前納	④ 参加費前納金				円		
宿 泊	定員になり次第締切ります。				○印をご記入下さい。				
					第1希望	第2希望	第3希望		
	第1日(11月5日)	1泊朝食付	定員 30 名	宿泊費 1 400 円前納					
	第2日(11月6日)	"	定員 135 名	"					
	第3日(11月7日)	"	定員 135 名	"					
	第4日(11月8日)	"	定員 10 名	"					
				⑤ 宿泊費前納金	1 400 円×	泊=	円		
送金合計 ①+②+③+④+⑤								円	

◎必要事項を記入のうえ、代金・前納金を添えて、現金書留で下記あてお送り下さい。

申込先 郵便番号 541 大阪市東区船場中央2丁目2番地 船場センタービル4号館409号
土木学会関西支部内 全国大会講演係あて 電話 大阪(06)271-6686番

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

特集・土木技術者の海外活動／海外活動委員会

土木学会誌第 55 巻第 8 号, pp. 2~52, 昭和 45 年 8 月(Aug. 1970)

1969 年 8 月土木学会に海外活動委員会が設置され、国際化時代にそなえて土木技術者の海外活動はいかにあるべきか、その問題点を明らかにすべく、数多くの討論、講演会、座談会をくりかえしてきた。その成果の一部はすでに土木学会誌上にも発表してきたが、今般、今日まで多くの人によりいろいろところで明らかにされている問題点を再整理して問題意識を明確にするため本特集をとりまとめるに至ったのである。

本特集の第 1 編では、まず海外活動委員会を代表して委員長(太田尾広治)が総括的、かつ示唆的に海外活動の重要性、影響性の多岐性を説き、日本土木の特異性から海外活動を実施する際に必ず遭遇せねばならぬ問題点を明示したが、解決の容易ならぬことを論述している。

第 2 編では、政府機関(新家義雄)、コンサルタント業(吉田良三)、建設業(日本建設業団体連合会)を代表して、それぞれの分野における海外活動の歴史、現況、成果などについて述べた。

第 3 編では、土木技術者の海外活動と関連が深い官庁(外務省)(岡田靖夫)、金融機関(高瀬国雄)、商社(浅見信)などの各界からの意見をいただいた。

第 4 編は、海外活動委員会が、政府機関、国際機関、コンサルタント業、建設業などに従事して海外で活躍された土木技術者の方々と討議した成果を再整理し、重要な問題点を改めて提起したものである。

第 5 編は、海外への窓口としてどんな機関があるかについて参考のためまとめたものである。

申込先：土木学会

土木計画学講習会テキスト ③

〈新刊発売中〉 B5判 132 ページ 定価 1200 円 会員特価 1100 円(〒90 円)

都市計画の数学的手法—将来道路交通量推定理論(北大 五十嵐日出夫) / 観光計画の手法
東工大 鈴木忠義 / 建設工事のための割当て問題(京大 吉川和広) / 待ち行列の理論と
シミュレーション(東大 越正毅) / 工程管理のためのネットワーク手法—PERTの実施
例を中心として(奥村組 河原畑良弘) / PPBSと公共施設計画(建設省 倉島収)

土木計画学講習会 テキスト ①
800 円 会員特価 700 円(〒70 円) 6編を収録

土木計画学講習会 テキスト ②
1200 円 会員特価 1100 円(〒70 円) 5編を収録

申込先：土木学会

土木工事の積算

〈新刊発売中〉 B5判 230 ページ
定価 1800 円 会員特価 1600 円(〒100 円)

1. 積算概論(神戸製鋼 若木三夫)
2. 工事の実績と積算(道路公団 山崎八郎)
3. 材料および労務単価(建設省 宮内章)
4. 機械経費と稼働率(建設省 川崎迪一)
5. 仮設計画と仮設費(鹿島建設 宮原春樹)
6. 間接経費の考え方(国土開発 竹内道郎)
7. 安全対策費のみかた(国鉄 清水正男)
8. 積算の自由化(水公団 小寺隆夫)
9. アメリカ合衆国における積算(大林組 横山義雄)

明日の国土を築く力 <高校土木教育白書>

土木学会土木教育白書編集小委員会編

A5・308

700円(〒80円)

目次

論説

問題提起 若い土木技術者に期待する 工業高校卒業生に望むこと

1. 国土を豊かにする

1.1 今までの国土開発のあゆみ 1.2 豊かな国土とは 1.3 国土の条件 1.4 豊かな国土と土木技術 1.5 国土開発に挑んだ土木家

2. 高校卒土木技術者の活躍

2.1 アンケート調査の概要 2.2 調査の方法 2.3 卒業後の進路 2.4 中堅土木技術者の活躍 2.5 仕事と生活 2.6 卒業生から高校土木教育に対する要望

3. 高校における土木教育

3.1 学校調査の概要 3.2 土木科設置校の変せん 3.3 教育課程 3.4 施設設備と経営 3.5 職員 3.6 就職・進学 3.7 在学生の状況 3.8 定時制教育 3.9 私学教育

4. 職場における卒業生の活躍

4.1 官公庁における高校卒土木技術者の活躍 4.2 企業における高校卒土木技術者の活躍

5. これからの高校土木教育

5.1 工業教育の目的 5.2 教育課程 5.3 教育の現代化 5.4 進路指導

6. 高校土木教育の歩み

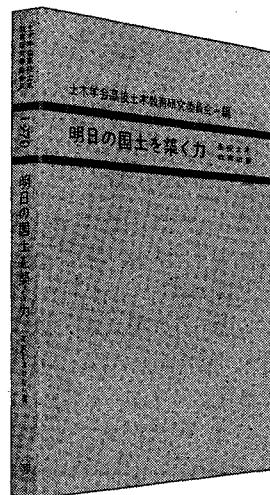
6.1 土木教育のはじまり 6.2 土木教育の成長 6.3 施設設備の変せん 6.4 教育内容の変せん

7. これからの土木技術の発展と建設業

付録1 私の歩んできた道

付録2 座談会—これからの高校土木教育に何を期待するか—

付録3 統計



内 容 紹 介

土木学会に高校土木教育研究委員会が設置されたのは昭和36年である。以来、研究会、講演会、実験実習指導書類の発刊など意欲的な活動を行ってきた。また昭和41年、工業高校における土木教育の状況や高校卒土木技術者の実態を調査し、潜在する問題を把握して、今後の高校土木教育のあり方を考えてゆく際の指針となり、同時に、土木技術者が国土建設の中で果している役割や実態を平易にのべ、一般の人々にも土木教育および土木技術者の正しい姿を理解できるような冊子を編集する企画をもった。

以来約4年にわたる調査、集計、検討、執筆などの作業の結果、今回発刊するに至ったのが本書である。

本書は、132の工業高校を対象にしたアンケート調査をはじめ卒業生1,433名、官公庁、企業を対象に広範な調査を行ない、これを分析整理したものを中心にまとめたがさらに大局的な立場から土木教育に対する学会、企業そして高校教育に長く従事されてこられた先輩諸氏の論説、卒業生各位からの貴重な体験談、土木工事の現場で活躍されている方々をまじえて教育現場の幹事が語り合った座談会、そして諸統計なども加えて、内容の豊かなものにすることができたと思っている。

本書の本文は目次のとおり7つの章より成っており、わかりやすくコンパクトな編集を心がけた。

定評ある
土木学会
のトンネル
工学書

昭和44年改版 土木学会編

トンネル標準示方書解説

A 5判・160ページ 800円

昭和44年制定 土木学会編

シールド工法指針

A 5判・152ページ 800円

トンネル工学シリーズ 1 第1回トンネル工学シンポジウム

B 5判・106ページ
400円

トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について／長大トンネルの地質／トンネル工事における災害の実情について／高熱トンネルの施工について／名古屋高速鉄道シールド工法について／わが国トンネル施工のすう勢と問題点について

トンネル工学シリーズ 2 最近のトンネル工学 — 工事の実例と話題 — 〈第2回トンネル工学シンポジウム〉

B 5判・136ページ
500円

トンネル標準示方書制定について／青函トンネルについて／国鉄新丹那トンネルについて／羽田海底トンネルについて／富士川用水導水トンネル工事について／AN-FO爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3 第3回トンネル工学シンポジウム

B 5判・146ページ
1000円

トンネル土圧／トンネル土圧の測定方法と現況／トンネル用鋼アーチ支保工の強度について／トンネル掘削における余掘りの実態について／セグメントの設計について／栗子トンネルの工事計画と施工実績について／国鉄親不知トンネルの施工実績について／青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル掘削機の掘削試験について／大阪地下鉄線複線型と単線型シールドの実施例と問題点／シールド工法による駅部の施工計画について／わが国における中小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4 わが国シールド工法の実施例・第1集

B 5判・338ページ
2200円

第I部 工事概要／第II部 設計および実績／第III部 セグメント／第IV部 シールドおよび付属機械／第V部 工事中機械その他／第VI部 主な図表類／付録、鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信・地下道その他に分類158件を収録

トンネル工学シリーズ 5 第4回トンネル工学シンポジウム

B 5判・268ページ
1800円

ソ連の地下鉄／アメリカのトンネル工事を視察して／アメリカにおける山岳トンネル工法／アメリカにおけるトンネル掘さく機／アメリカにおける都市トンネル／アメリカにおけるコンサルタント業務／アメリカにおける請負工事の諸事情について／アメリカのトンネル施工に関する新技術／欧州のトンネル工事を視察して／欧州におけるトンネル請負工事の諸事情について／欧州における山岳トンネル工法／欧州におけるトンネル掘進機について／欧州のシールド工事／欧州における地下鉄工事／欧州における沈埋工事

トンネル工学シリーズ 6 第5回トンネル工学シンポジウム〈最新刊〉

B 5判・124ページ
1000円

六甲トンネルの碎破帯突破について／トンネルの掘さくに伴う地表沈下測定例について／牧の原地すべり地区のトンネル施工について／紅葉山線・新登川トンネルの蛇紋岩区間の施工法と膨張土圧の測定結果について／京葉線・多摩川河底沈埋トンネルについて／大阪地下鉄の沈埋管工事—堂島川と道頓掘川の施工例について—／近鉄難波線の大型機械化シールドの施工例について

欧文論文集 TRANSACTIONS OF JSCE 刊行のお知らせ

土木学会では従来の論文集の名称を論文報告集 (Proceedings) と改め、内容の充実にあたるとともに従来の欧文要旨を発展的に解消し欧文論文集を年2回刊行することになり、その第1冊目として今回 Vol. 1, Part 1, 1969 を刊行しました。つづいて近く Vol. 1, Part 2 を刊行し、45年度分として Vol. 2, Part. 1, Part 2, 1970 を刊行します。国際情報化が緊密化する今日わが国の研究水準を広く海外に紹介する意味において一人でも多くの方々に御購入方をおすすめし、多数の論文を海外へ紹介できるよう御協力下さるようお願いいたします。

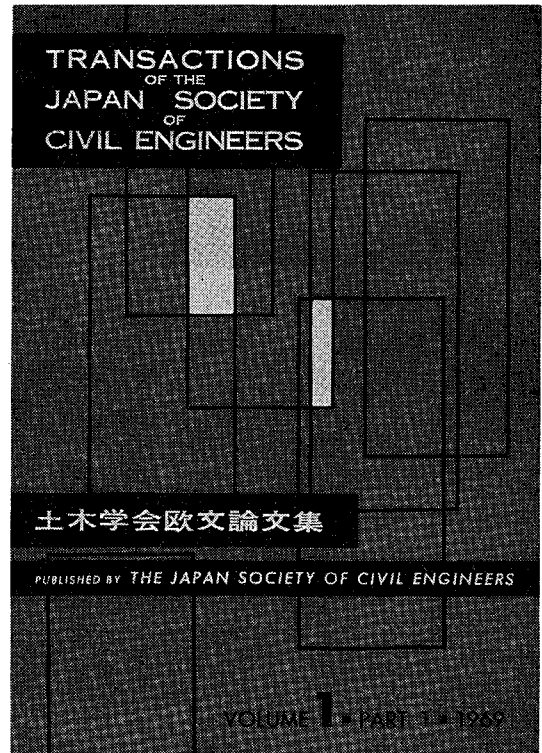
体 裁：B5判 180~200 ページ

論 文 数：13~25 編，ほかに要旨

定 価：1冊 1500 円，年間購読：2500 円
(送料とも)

申 込 先：土木学会へ

<欧文論文集の表紙>⇒



Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan. 1968 B5・140 1600円(〒70)

わが国の耐震工学に関する研究は今や世界の注目を集めている。本書は世界地震工学会議を記念して編集され、今回改訂された英文による耐震規定。土質工学会，国際大ダム会議，日本水道協会，運輸省港湾局などが協力した国際版。

Civil Engineering in Japan, 1969 A4・148 1500円(〒110)

新刊

学会編集の英文年報の最新版。昨年で7冊目を刊行。日本の土木技術を広く海外へ紹介するため、豊富な写真、図版を盛り込み、各種工事のトピックス、専門分野の展望などを解説。海外旅行のお土産に好適。バックナンバーあり。

Coastal Engineering in Japan, Vol.11 1968 B5・190 1500円(〒90)

海岸工学講演会の発表論文の中から、その年度の代表的研究と見られる論文を委員会が選定し、英訳したもの。日本の海岸工学の業績は今や国際的であり、広く海外との技術交流のために刊行している英文刊行物。

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	8月20日(木)	昭和45年度夏期講習会	東 京	8号会告2 参照
	8月21日(金)			
	9月14日(月)	第6回トンネル工学に関するシンポジウム	同	8号会告3 "
	9月16日(水)			
	11月6日(金)			
11月8日(日)	昭和45年度全国大会	大 阪 市	8号会告3 "	
11月26日(木)	第17回海岸工学講演会	新 潟 市	8号会告6 "	
北海道支部	8月21日(金)	見学会 特別講演会	札幌地区市	7号会告10 "
	9月11日(金)			8号会告8 "
	9月18日(金)	見学会 見学会 講演	札幌地区市	8号会告10 "
	10月9日(金)			8号会告10 "
	10月28日(水)			8号会告8 "
関東支部	8月24日(月)	映画会	新 潟 県	8号会告9 "
	8月26日(水)			
	10月15日(木)	見学会	同	8号会告9 "
10月16日(金)				
中部支部	8月21日(金)	技術講座 第2回見学会	名古屋市 名古屋市, 外	8号会告10 "
	9月11日(金)			8号会告10 "
関西支部	8月24日(月)	講習会 研究発表会	大 阪 市	8号会告10 "
	8月26日(水)			8号会告11 "
西部支部	8月21日(金)	夏期講習会 見学会	雲 仙 長 崎	7号会告13 "
	8月23日(土)			7号会告14 "
	8月20日(木)	映画会	雲 仙	7号会告14 "
	8月21日(金)			
そ の 他	9月1日(火)	第14回材料研究連合講演会	京 都 市	8号会告8 "
	9月2日(水)			
	10月23日(金)	第20回応用力学連合講演会	東 京	8号会告12 "
	11月17日(土)			
	11月17日(火)	第3回日本地震工学シンポジウム	同	8号会告4 "
11月20日(金)				
11月26日(木)	第3回岩の力学国内シンポジウム	京 都 市	8号会告4 "	
11月27日(金)				
お 知 ら せ	■第4回国土開発映画コンクール作品募集			8号会告2 "
	■第7回災害科学総合シンポジウム講演募集			8号会告6 "
	■第17回橋梁・構造工学研究発表会論文募集			8号会告6 "
	■第7回衛生工学研究討論会論文募集			8号会告7 "
	■第15回水理講演会講演募集			8号会告7 "
	■アルミナセメントに関するシンポジウム			8号会告7 "

映画会開催について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画会を行なっておりますので、多数お誘い合せのうえご観賞下さいませようご案内致します。

記

- 場 所：土木図書館講堂（東京都新宿区四谷一丁目 国電・地下鉄四谷駅下車）
- 日 時：毎月第2土曜日 13.00～17.00 9月は12日（土）です。
- 上映映画：「よみがえる」「砂防」「水—この資源」その他公害関係のフィルムを予定しております。
なお、上映映画は都合により変更することがありますのでご了承下さい。
- 参加費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。
- 共 催：土木学会関東支部

昭和 45 年度夏期講習会—土木工事の積算—

◀ 8 月 20 日 (木)~21 日 (金) ▶

本年度の夏期講習会は土木工事の基本である積算をテーマに下記により実施いたします。
 世界発展のため多数の技術者・研究者の方々の参加を希望します。

1. 期 日：1970 年 8 月 20 日 (木)~21 日 (金) の 2 日間
2. 会 場：杉並公会堂 (杉並区上荻 1 の 23 の 15・国鉄, 地下鉄, 荻窪駅下車徒歩 10 分)
3. 参加費：(テキスト代を含む) 会費 3 500 円, 非会員 4 000 円
4. テキスト：土木工事の積算
5. テー マ：同 上
6. 題 目, 講師および日程：

第 1 日：8 月 20 日 (木)

9.45~10.00	開 会 挨拶	土木学会会長	大 石 重 成
10.00~11.00	(1) 積 算 概 論	建設省	若 木 三 夫
11.00~12.00	(2) 工事の実績と積算	道路公団	山 崎 八 郎
12.00~13.00	昼 食 休 憩		
13.00~14.00	(3) 材料および労務単価	建設省	宮 内 章
14.00~15.00	(4) 機械経費と稼働率	建設省	川 崎 迪 一
15.00~16.00	(5) 仮設計画と仮設費	鹿島建設	宮 原 春 樹

第 2 日：8 月 21 日 (金)

10.00~11.00	(6) 間接経費の考え方	日本国土開発	竹 内 道 郎
11.00~12.00	(7) 安全対策費のみかた	国 鉄	清 水 正 男
12.00~13.00	昼 食 休 憩		
13.00~14.00	(8) 積算の自由化	建設省	小 寺 隆 夫
14.00~15.00	(9) アメリカ合衆国における積算	大林組	横 山 義 雄
15.00~15.15	閉 会 挨拶		

7. 申 込 方 法：学会誌 6 月号添付の申込書に必要事項をご記入のうえ, 参加費を添えて 7 月末日までにお申込み下さい。なお, 満員の際はお断りすることがありますのでなるべく早目をお願いします。また, 受け付けは着金の順になりますのでご了承下さい。
8. 申 込 先：郵便番号 160 番 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会事業課

第 4 回 国土開発映画コンクール作品募集

土木学会は過去 3 回にわたり「国土開発映画コンクール」を開催いたしておりますが, この業績にかんがみて, 今年も映画コンクールを開催し, 土木技術者および土木以外の人達にも最近の土木技術普及のあゆみを広く周知させ, あすの国土開発に寄与したいと考えておりますので, ふるってご応募下さるよう, また, 関係の向きにおすすり下さいますようお願い申し上げます。

これまでの優秀作品は土木学会「フィルムライブラリー」として活用しており, 年間の視聴者は 1 万名以上にのぼっております。今後も今回の優秀作品を含め土木学会はもちろん, 一般の活用を推進する予定であります。

コンクール応募要領

1. 内 容：国土開発に関し, 主として土木事業の P R および土木技術を中心としたもの
 2. 規 格：16 mm フィルム (1968 年 10 月以降完成の作品に限る)
 3. 締 切：1970 年 9 月 30 日
 4. 申 込 先：社団法人 土木学会編集課宛 (申込書は請求して下さい) (東京都新宿区四谷 1 丁目 電話 東京 351-5130)
 5. 審 査：土木学会内 映画審査委員会
 6. 賞：入賞作品約 6 編を選びその内から最優秀賞 1 編, 優秀賞 2 編, 準優秀賞 3 編を決定し, 賞状ならびに賞牌を贈る (ただし該当作品のない場合は変更することがあります)。
 7. 発表会：1970 年 11 月 20 日
- 追 記：① 作品は完成次第ご連絡下さい。審査期日は追ってご連絡いたします。② 選定映画審査会におきまして「選定」されたフィルムのうち, 応募要領に合致するものにつきましては, コンクール候補作品と致したいと思います。コンクール審査過程におきましてフィルムを再提出して頂きますので, よろしくご配慮下さい。

第6回トンネル工学に関するシンポジウム (国際シンポジウム)

—Tunnel Symposium '70—

第6回トンネル工学に関するシンポジウムは、既報の通り、世界各国からのトンネル専門家の参加を求めて「セミ」国際シンポジウムの形式で下記のプログラムにより、9月14日～16日の3日間にわたり東京上野の東京文化会館において開催されます。

6月末現在までの外国からの申込み状況は予定されております6名の報告者である外国専門家のほかに、わが国にも知名の各国の専門家、たとえばドイツのシュミット・パウアー教授、オーストリアのアングラ―技師、オランダのシヨイラー技師(チョック社)、イギリスのウィリヤムス技師(スコット・ウイルスン社)、アメリカのマシニュー社社長等々、すでに40数名の方々が参加の申込みをされております。

土木学会が兼ねてから強く願っていたしております、各国専門家との情報意見の交換をはかり、相互協力の体制を固め、もってトンネル工学一般の進歩発展に貢献いたそうとしているところは、予期以上に果し得るものと存じます。

現在までの参加申込み状況に鑑み、この好機会をさらに有力に利用するため、プログラムの一部を変更し、第2日目の午後3時半から、5時半までを、各国専門家との対論のために割くことといたし、『急速掘削』および『工費節減』を主要テーマとする Panel discussion を催すことにいたしました。

外国の専門家の参加も求めてトンネル工学を中心とする専門家の会同はわが国において、今回のシンポジウムが始めての試みであり、この意味において、本シンポジウムは、画期的な企画であると信じます。

このシンポジウムにより多くの国内の方々が、参加されて、多くの学ぶべきことを十二分に吸収して頂きたいと切に考えますので、ここに多数各位の参加を改めて招請いたします。

1. 期 日：1970年9月14日(月)、15日(火)、16日(水)
2. 会 場：東京文化会館小ホール(東京都台東区上野公園1の2)
3. 会 費：会員 7000円 非会員 8000円(テキスト代含む)
4. 公用語：日本語・英語(同時通訳)
5. 懇親会：1970年9月14日(月) 18.00～20.30/会場：パレスホテル(千代田区丸の内1番1号)/会費：3000円/申込方法：参加希望者はシンポジウム参加申込みとともに懇親会参加と明記のうえ会費3000円を添えてお申込み下さい。
6. 申込方法：氏名・勤務先・連絡先を明記のうえ、参加費を添えて現金書留で土木学会事業課(〒160 東京都新宿区四谷1丁目・電話(03)351-5138)あて8月15日までお申込み下さい。定員がありますので満員の際はお断りすることもありますのであらかじめご了承下さい。

7. プログラム

第1日目(14日)

9:30	受付、資料配布	
11:00～12:00	映画	
13:00～13:15	開会の挨拶	土木学会長 大石重成
13:15～14:45	特別講演：日本におけるトンネル工事	トンネル工学委員会委員長 藤井松太郎
14:45～15:00	休憩	
I 岩石トンネル掘進機の現状と将来		
15:00～16:00	アメリカにおける岩石トンネル掘進機の現状と将来 Bechtel Overseas Corporation Engineers-Constructors	J. George Thon, Vice President (U.S.A.)
16:00～17:00	わが国における岩石トンネル掘進機の現状と将来	建設機械化研究所 三谷 健
18:00～20:30	レセプション	

第2日目(15日)

II 山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法		
9:30～10:30	イタリアの山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法 Concessioni E. Costruzioni Autostrade S.P.A. Dr. Ing. Diego Vanoni (Italy)	
10:30～11:30	わが国の山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法	国鉄山陽新幹線建設部 島田隆夫
11:30～12:15	膨張性地山におけるトンネルの施工法	鉄道建設公団工務第1部 足立貞彦
12:15～13:30	昼食・休憩	
13:30～14:30	アメリカの不良地盤におけるトンネル掘削 Boyles Bros Drilling Company Victor L. Stevens, Vice President (U.S.A.)	
14:30～15:15	トンネル土圧の時間依存性	京都大学防災研究所 村山朔郎
15:15～15:30	休憩	
15:30～17:30	パネルディスカッション	

第3日目(16日)

Ⅲ 市街地の軟弱地盤におけるトンネル工法	
9:30~11:30	イギリスにおける含水地下水層地盤のシールド工法について Mott, Hay & Anderson Consulting Civil Engineers T.M. Megaw, Director (England)
10:30~10:30	わが国における都市トンネルの現状と特異性について 帝都高速度交通営団建設本部 西嶋 国造
11:30~12:15	東京駅における軟弱地盤の大規模開削 国鉄東京第1工事局 横山 浩雄
12:15~13:30	昼食・休憩
13:30~14:30	ドイツの軟弱地盤における地下切り掘げについて Philipp Holzmann Aktiengesellschaft Hauptniederlassung Berlin Dr. Ing. Wilfrid Krabbe (Germany)
14:30~15:15	軟弱地盤における地下切り掘げ工法の問題点 東京都交通局 遠藤 浩三
15:15~15:30	休憩
Ⅳ 沈埋工法の現状と将来	
15:30~16:30	オランダにおける沈埋工法の現状と将来 Rukswaterstaat Directie "Sluizen En Stumen H.C. Wentink (Netherlands)
16:30~17:30	わが国における沈埋工法の問題点 鉄道建設公団東京外環状線部 大平 拓也
17:30~17:45	閉会の挨拶 トンネル工学委員会委員長 藤井 松太郎

第3回岩の力学国内シンポジウム

◀ 11月26日(木)~27日(金) ▶

共催：土木学会・土質工学会・日本鉱業会・日本材料学会

1964年に第1回岩の力学国内シンポジウムが東京で開催されてより、その第2回が1967年に同じく東京で、また、今回第3回目が下記のように京都で開催されることとなりました。その間1970年にはベオグラードにおいて第2回国際岩の力学会議が開かれるなど、岩の力学分野の調査、研究は国の内外を問わずますます活発となっております。このときに当り第3回国内シンポジウムを催し、わが国の岩の力学の分野における研究者、技術者の交流ならびに研鑽、情報交換の場といたしたく存じます。つきましては、このシンポジウムの成果を高めるため各位にはふるってご応募くださるようご案内いたします。なお、土木学会において毎年開催しております「岩盤力学に関するシンポジウム」は、本年度は開催いたしませんのでご了承下さい。

記

1. 期 日：1970年11月26日(木)、27日(金)
2. 会 場：京都会館第1会議場(京都市左京区岡崎公園内)
3. シンポジウムの形式と応募論文の取り扱い

本シンポジウムでは、課題論文ならびに自由論文の発表を行なう。本会告による応募論文は自由論文として扱う。その講演時間は、応募論文数より1題当り15分程度となることもありうる。

第3回日本地震工学シンポジウム(1970)

◀ 11月17日(火)~20日(金) ▶

主催：地震学会・土質工学会・土木学会・日本建築学会

日本地震工学シンポジウムは、1962年に第1回が開催され、1966年の第2回について、本年秋その第3回が開催されることになりました。このシンポジウムは、世界地震工学会議の中間年ごとに開催され、わが国において広い分野にわたる研究集会としての大きい意義をもつと同時に、そのプロシーディングスは、国際的にもきわめて高水準にあるものとして高く評価されております。

今回の第3回日本地震工学シンポジウム(Third Japan Earthquake Engineering Symposium—1970)は、つぎのような要領によって開催し、海外研究者の有志にも参加できるよう門戸を開くとともに、国内の地震工学研究者、技術者の研鑽および研究情報交換の場にいたしたいと存じますので、会員各位には下記要領をご参照のうえ、ふるってご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 程：1970年11月17日(火)、18日(水)、19日(木)、20日(金)の4日間
 - 11月17日(火) 研究発表会、パネル討論会、懇親会
 - 11月18日(水) 見学会
 - 11月19日(木) 研究発表会

11月20日(金) 研究発表会

2. 会 場：11月17日(火), 19日(木), 20日(金) 第一生命ホール(東京都千代田区有楽町1の9・電 03-216-3810)
 11月19日(木), 20日(金) 東京商工会議所ホール(東京都千代田区丸の内3の2の2
 ・電 03-211-4411)

3. 定 員：第一生命ホール 700名 東京商工会議所ホール 600名

4. 参加費：一般 3000円
 学生 2000円(ただし、締切期日までに申し込んだ者に限る)

5. 懇親会費：2000円

6. 見学会費：350円

7. 申込要領：

(1) 申込締切：1970年10月31日

(2) 官製はがき大の用紙に「第3回日本地震工学シンポジウム(1970)参加申込」と必ず明記し、氏名、勤務先、連絡先、所属学会、参加項目(シンポジウム、懇親会、見学会の別を明記)を記載し、所要の費用(現金または銀行送金)を添えて幹事学会へお申込み下さい。学生の場合は、とくに、在学校、学科、学年を明記して下さい。

幹事学会：社団法人 土質工学会(東京都港区西新橋1の13の5 東亜別館内・電 03-502-6256)

銀行送金：振込銀行 住友銀行日比谷支店

口 座 普 通 預 金

口座名義 第3回日本地震工学シンポジウム(1970)

(3) プロシーディングスは10月末日頃印刷できる予定です。参加者には無料で配布いたします。10月末日～11月16日は幹事学会で、開催期間中は会場で、それ以後は幹事学会(前掲)で引換券と引換えにお受取り下さい。引換券は、お申込み入金のあるしだい参加票とともに送付いたします。

(4) 締切期日前でも定員になりたい申込みを締切りますので、なるべく早目にお申込み願います。

8. プロシーディング：B5判、オフセット印刷、発表論文を掲載。会場における質疑応答、討論内容は後日印刷のうえ、参加者に送付いたします。

9. 懇親会：

日 時：11月17日(火) 17.0～19.00

会 場：糖業会館2階ホール(東京都千代田有楽町1の7・電 03-281-3351)

会 費：2000円

定 員：120名(ただし、申込み順により満員になりしだい締切ります)

10. 見学会：

日 時：11月18日(水)

会 費：350円

見 学 先：国立防災科学技術センター大型耐震実験装置(筑波)

(茨城県新治郡桜村栗原字鳥居先 4472 電 大穂局 029864 (179))

日 程：13.00 国鉄土浦駅前集合^{バス}→13.30 防災センター着—見学—15.30 防災センター発^{バス}→国鉄土浦駅前着
 解散

11. 日 程：{ 第一生命ホール 9.00～16.30
 東京商工会議所ホール 9.00～16.00

	第1日(11月17日)	第2日(11月19日)	第3日(11月20日)
第 一 生 命 ホ ー ル	○開会のことば ○地震時における地盤の挙動および地盤と構造物との相互作用に関する論文発表とパネル討論	○土の動的性状に関する論文発表 ○地震動に関する論文発表	○地下構造(基礎、くいなど)の動的性状に関する論文発表 ○耐震実験、実測に関する論文発表 ○開会のことば
東 議 所 商 工 会 ホ ー ル		○構造物の地震応答に関する論文発表	○構造物の耐震性状に関する論文発表 ○耐震設計法に関する論文発表 ○震害に関する論文発表 ○開会のことば

第17回海岸工学講演会

◀ 11月26日(木)～27日(金) ▶

第17回海岸工学講演会を下記により開催致します。講演申込みを行ない論文の採用の通知のあった方は、期日までに必ず原稿をご提出下さい。

1. 開催時期：1970年11月26日(木)～27日(金)
2. 場 所：新潟市
3. 講演原稿締切：1970年8月15日(土)
4. 講演原稿送付先および連絡先：
〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会海岸工学委員会 電(03)351-5138(代表)

第7回災害科学総合シンポジウム講演募集

文部省科学研究費特定研究(災害科学)の災害科学総合研究班(研究代表者 長谷川万吉氏)が中心となり、下記により災害科学総合シンポジウムを開催いたしますので、本学会はこれを後援することいたします。ふるってご参加下さるようご案内します。

記

1. 期 日：1970年11月9日(月) 10.00～17.00
10日(火) 10.00～17.00
2. 場 所：宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所
3. 講演申込要領：
 - (1) シンポジウム・テーマ：下記テーマを取り上げますから、それに沿った講演を募集します。
(A) 集中豪雨と災害、都市化と自然災害、湾奥、河口災害、交通雪害、地すべりの予測、強風、強震に対する地盤、構造物の応答、地震予知論について、その他。
(B) 災害資料の収集と解析(災害調査、資料の解析法、資料の規格化等)
 - (2) 講演申込締切：8月10日、講演題目、氏名、勤務先および講演内容の概要(200字以内)を記し下記宛に申込むこと。
 - (3) 講演原稿の提出：締切9月21日 所定の用紙2枚または4枚(図表を含む)の講演原稿を下記宛提出のこと。申込用紙、原稿用紙は請求次第送付する。
 - (4) 申 込 先：宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所 芦田和男教授 電話(0774)32-3111・内線 555

“新材料・新工法を用いた構造物における諸問題”に関する研究発表論文募集 (第17回橋梁・構造工学研究発表会)

例年行なわれております橋梁・構造工学研究発表会を、本年度は下記により標題のテーマのもとで開催致します。本年度は申込み締切までに多少余裕をもたせましたので、多数の方がふるって論文提出にご応募下さい。

1. 期 日：1970年12月4日(金)
2. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目)
4. 申込要領：
 - (1) 論文内容：つぎの2項目に関する独創的な実験的、理論的研究あるいは考察を対象とする。
(a) 構造工学における新材料、新工法の提案とその裏付けとなる研究成果
(b) 近年、構造工学の分野で提案され、あるいは実用に供されつつある新材料、新工法に対する批判、反省およびそれらに関する経験的報告
 - (2) 申込方法：8月31日までに論文題目、発表者氏名(連名の場合は登壇者に○印をつける)、勤務先および連絡先、100字以内の内容梗概を添えて所属学会にお申込み下さい。採否は日本学術会議構造研究連絡委員会におまかせ願います。採用のうへは、10月15日までに講演原稿の提出方をお願い致します。

第7回 衛生工学研究討論会論文募集

土木学会衛生工学委員会は、下記により研究討論会を実施しますので、論文提出希望者はふるってご応募下さいませようご案内いたします。

記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1971年1月30日(土)、31日(日)の2日間
3. 場 所：九州大学工学部(福岡市)
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：10月末日までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会まで提出下さい。なお、原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙(申込次第送付)を使用して下さい。原稿枚数は10枚以内とし、期日以後は受け付けをお断りしますのでご注意下さい。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会(東京都新宿区四谷1丁目)
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。
8. 懇 親 会：第1日目(30日)終了後懇親会を予定しております。

第15回 水理講演会講演募集

◀ 2月21日(金)~13日(土) ▶

第15回水理講演会を下記により開催致しますので、講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1971年2月12日(金)~13日(土)
2. 会 場：発明会館(東京都港区芝西久保明舟町17番地・地下鉄虎ノ門下車徒歩3分)
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 課 題：A. 移動河床の水理
B. 混相流の水理
C. 水理現象の確率・統計的シミュレーション
5. 申込方法、その他：
10月30日までに講演題目、講演者氏名(連名の場合は登壇者に○印をつける)、勤務先、連絡先住所を明記のうえ、土木学会水理委員会までお申込み下さい。折り返し当学会所定の原稿用紙をお送り致します。
6. 講演原稿締切期日：1970年12月5日(土)(厳守)

アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム

土木学会コンクリート委員会ではアルミナセメントの使用法に関する各種試験研究を行なっておりますが、これらの成果を中心に下記によりシンポジウムを開催する予定ですのであらかじめお知らせいたします。

1. 期 日：1971年4、5月頃
2. 場 所：東 京

なお、詳細については決定次第本欄お知らせいたします。

第1回土木計画学シンポジウム	B5判	134頁	定価 700円	送料 70円
第2回土木計画学シンポジウム	B5判	120頁	定価 700円	送料 70円
第3回土木計画学シンポジウム	B5判	132頁	定価 700円	送料 70円
土木計画学講習会テキスト 1	B5判	122頁	定価 800円	送料 80円
土木計画学講習会テキスト 2(新刊)	B5判	152頁	定価 1200円	送料 80円

上記図書購入ご希望の方は代金に送料をそえて土木学会へお申込み下さい。

第14回材料研究連合講演会

◀ 9月1日(火)~2日(水) ▶

例年のとおり、標記の講演会が関係 24 学協会の共催によって、下記要領で開催されます。プログラムをご希望の方は、土木学会総務課あてはがきでお申込み下さい。

場 所：京都府立勤労会館 第1会議室

あいさつ：日本学術会議材料研究連絡委員会委員長

京都大学教授 石原 藤 次 郎

特別講演：「材料研究長期計画について」

東北大学教授 横 堀 武 夫

「材料の開発科学」

東京大学名誉教授 牧 島 象 二

一般講演：91 題

シンポジウム：12 題

パネルディスカッション：5 題

講演前刷集：1100 円（予約申込みに限り 1000 円）代金を添えて 8 月 12 日（水）までに、郵便番号 606 京都市左京区吉田泉殿町 1-101 日本材料学会あてお申込み下さい。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南1条西2丁目・勸銀ビル5階) 電 0122-25-7038

(1) 第3期北海道総合開発計画——特別講演会—— ▶ 9月11日(金) ▶

——新出発する本道開発の基本的問題として、建設技術者諸氏の聴講歓迎——

1. 日 時：1970 年 9 月 11 日(金) 13.10~16.00
2. 会 場：札幌市婦人会館3階ホール(北4西7・道警向い)
3. 演題と講師：

第3期北海道総合開発計画について

北海道企画部開発第2課長 石 倉 健 治

(2) 第3回見学会(帯広地区) ▶ 9月18日(金) ▶

1. 期 日：1970 年 9 月 18 日(金) 日帰り、保安帽携帯のこと
2. 参加費：会員 700 円、学生会員 500 円、会員外 1000 円、学生 700 円 申込みと同時に前納のこと
3. 定 員：50 名(申込着順に締切る)
4. 申 込 先：支部事務局
5. 見学スケジュール：帯広駅前 8:30 集合~出発(観光バス)~新登川トンネル工事~国道 237 号線三岩橋 1 号橋~4 号橋
~帯広駅前解散 17:00

(3) 第4回見学会(札幌地区) ▶ 10月9日(金) ▶

1. 期 日：1970 年 10 月 9 日(金) 日帰り、保安帽携帯のこと
2. 参加費 } 第3回と同じ
3. 定 員 } 第3回と同じ
4. 申 込 先 }
5. 見学スケジュール：大通テレビ塔北側集合 8:30~同出発 9:00 新川下水処理場~札幌新道高架橋工事~石狩川河口橋工
事~月寒川築堤泥炭地工事~札幌駅地下鉄工事~解散 17:00

(4) 最近の海外技術——講演会—— ▶ 10月28日(水) ▶

1. 期 日：1970 年 10 月 28 日(水) 13:10 開会
2. 会場予定：札幌市婦人会館三階ホール
3. 演題と講師：

- ① 13.10~14.30 西部アメリカヒルダムについて
- ② 14.30~15.50 国際水理学会と北欧の水力開発

北電新冠発電所建設所 酒 井 賢 一
北海道大学工学部 教授 工博 山 岡 敷

(5) 研究発表会論文・報文原稿募集

標記の原稿をつぎの要領で募集しています。ふるってご応募下さい。

1. 発 表：1971年3月4日(木)札幌市民会館において口頭発表するほか、事前に“論文集第27号”として本印刷刊行し、会員ならびに全国主要研究機関に配付する。
2. 内 容：土木工学・土木技術・工事報告文など
3. 応募方法：はがきまたは電話で支部事務局へお申込み下さい。
ただちに原稿用紙・起稿要領をお届けします。
4. 応募資格：北海道支部所属の会員を原則とし、会員外の方は入会を条件として認められます。
5. 申込締切：1970年10月25日
6. 原稿締切：1970年11月20日必着
7. 支部奨励賞：すぐれた論文には、支部奨励賞として賞状、メダル、賞金1万円を贈呈し表彰されます。

関東支部行事案内 (郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会総務課内 電話 03-351-4133)

(1) 新潟市周辺主要工事見学会

◀ 10月15日(木)～16日(金) ▶

今回の見学会は支部発足以来はじめての試みとして、新潟市周辺の海岸・河川・発電所を、おもな対象とし企画いたしました。多数の方々のご参加をおすすめいたします。

[見学内容]

- ・新潟海岸：日和山、寄居浜附近における海岸侵食対策工事
- ・関屋分水：新潟市の洪水防禦と新潟西港の土砂埋没を防止し、同海岸を維持するとともに、河川維持用水の確保を図る信濃川治水の画期的な工事
- ・加 治 川：昭和41、42年の両年にわたり連続災害を受け、目下行政訴訟中の災害復旧助成事業
- ・新潟東港：日本海沿岸・振興対策の基盤をなす工業港(掘込港)の新設と大臨海工業地帯の造成工事
- ・新潟火力発電所：新技術を投入し、出力75kW万の発電所で日本海沿岸におけるわが国最大の新鋭火力発電所

1. 日 時：1970年10月15日(木)、16日(金)
2. 集 合：10月15日14.30 新潟駅前集合
3. 行 程：15日—新潟海岸(14.50～15.30)、関屋分水(15.45～16.15)、新潟市・新潟会館泊、懇親会(18.00～20.00)
16日—新潟会館(8.30 出発)、加治川(9.50～10.20)、新潟東港(11.10～11.40)、新潟火力発電所(12.10～13.30)、中食後新潟駅前解散(14.00)
4. 定 員：50名(満員になり次第締切りますから、早目にお申込み下さい)。
5. 参加費：4000円(宿泊費、貸切バス代および中食代を含む)
6. 申 込 み：勤務先、氏名、年令、連絡先を明記して、参加費を添えて、土木学会関東支部あてお申込み下さい。参加券をお送りいたします。

参 考：行き・上野発 9.04(急行佐渡2号)新潟着 13.39
 " 10.00(特急とき2号) " 14.00
 帰り・新潟発 15.00(特急とき4号)上野着 19.05

(2) 映画会(新潟県)

◀ 8月24日(月)～26日(水) ▶

1. 日時・場所：24日(月)13.00～新潟市・建設会館
25日(火)13.00～高田市・日報ホール
26日(水)13.00～長岡市・中越婦人会館
2. 上映映画：1) 比の地すべり/2) 名神高速道路/3) 海岸線を拓く/4) 砂防/5) 梓川開発の記録/6) 江東の地下を掘る/2) 五霞村引堤工事
3. 参加費：無料

中部支部行事案内 (郵便番号 460 名古屋市中区三ノ丸・名古屋市役所土木局道路部建設課内)
052-961-1111, 内線 2464

(1) 昭和 45 年度技術講座

◀ 8 月 21 日 (金) ▶

1. 日 時: 1970 年 8 月 21 日 (金)
2. 場 所: 愛知建設業会館 (名古屋市中区栄 3-28-21)
3. 題 目: 橋梁工学講座
4. プログラム:

① 9.30~9.40	開会あいさつ	支 部 長	谷 重 幸
② 9.40~11.40	構造解析に関する最近の進歩	名古屋大学教授	成 岡 昌 夫
	昼 食		
③ 13.00~14.40	鋼橋に関する最近の進歩	京都大学教授	小 西 一 郎
④ 14.50~17.30	FIP-CEB コンクリート設計施工指針 (1970) について	名古屋大学講師	猪 股 俊 司
5. 定 員: 200 名
6. 会 費: テスキト代 200 円
7. 申込方法: 8 月 15 日 (土) までに中部支部へ会費をそえてお申込みください。なお期限内でも定員になり次第しめきります。

(2) 昭和 45 年度第 2 回見学会

◀ 9 月 11 日 (金) ▶

1. 日 時: 1970 年 9 月 11 日 (金)
2. 場 所: 矢作ダムおよび矢作第一, 第二発電所
3. 集合場所: 名古屋テレビ塔北 観光バス発着所
4. 集合時刻: 9.00
5. 行 程: 9.00 出発~18.00 頃, 名古屋テレビ塔解散の予定
6. 定 員: 50 名
7. 会 費: 300 円
8. 申込方法: 9 月 4 日 (金) までに中部支部へ, 会費をそえてお申込みください。なお期限内でも定員になり次第しめきります。

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市東区船場中央 2 丁目 2 番地)
船場センタービル 4 号館 409 号
電話 大阪 06-271-6686 番 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 「材料の疲労破壊と安全設計」講習会

◀ 8 月 24 日 (月)~25 日 (火) ▶

- 主 催: 日本材料学会関西支部 協 賛: 土木学会関西支部ほか 8 学協会
1. 日 時: 1970 年 8 月 24 日 (月), 25 日 (火) 9.30~16.30
 2. 場 所: 日経ホール 7 階 電話大阪 (06) 231-8201
大阪市東区高麗橋 1-1 (地下鉄御堂筋流屋橋地下道東に徒歩 12 分)
 3. 題目と講師

(第 1 日) 疲労に対する設計概説			
9.30~10.40	① 疲労に対する設計と安全率	神 戸 大 中	川 隆 夫
10.55~12.25	② 実働荷重の解析と寿命設計	立 命 館 大 田	中 道 七
13.30~14.50	③ 低サイクル疲労における累積損傷と寿命設計	阪 大 菊 翁	川 真 一
10.05~16.25	④ 疲労亀裂の発生と進展	東 工 大 中	沢 一
(第 2 日) 疲労破壊の実例と対策			
9.30~10.50	⑤ 車軸の疲労の問題点と対策	住友金属中研	西 岡 邦 夫
11.05~12.25	⑥ 自動車における耐疲労設計の現状と問題点	豊 田 中 研	青 山 成 恒
13.30~14.50	⑦ 船舶における低サイクル疲労の実例と対策	東 大 飯 田	田 園 広
15.05~16.25	⑧ 圧力容器の低サイクル疲労破壊とその対策	神 戸 大 山	田 稔

4. 定員: 150名
 5. 参加費: 主催, 協賛学協会会員 5000円 } テキスト代を含む
 会員外 6000円 }
 6. 申込期限: 1970年8月15日(土)
 7. 申込方法: 参加希望者は勤務先, 連絡先, 氏名および所属学協会名を明記し上記参加費を添えてつきへお申し込み下さい。
 申込先: 日本材料学会関西支部 電話(06)441-5531
 大阪市西区靱1丁目118 大防科学技術センター6階(郵便番号550)

(2) 第3回業務研究発表会(昭和45年度)

◀ 8月26日(水) ▶

- 主催: 建設コンサルタンツ協会大阪支部 後援: 土木学会関西支部
1. 日時: 1970年8月26日(水) 10.20~16.40
 2. 場所: 中央電気倶楽部4階ホール 電話大阪(06)362-6251
 大阪市北区堂島中2丁目9番地
3. プログラム:
- | | | | |
|-------------|---|--------------------|-------------|
| 10.20~10.30 | 開会挨拶 | 建設コンサルタンツ協会大阪支部長 | 藤田 駿 五 |
| 10.30~11.00 | ① 橋りょうの部分構造についての考察 | 日本建設コンサルタント(株)大阪支所 | 小崎 威・石崎 巖 |
| 11.00~11.30 | ② 橋りょうのたわみについて(既設橋りょうの実測たわみ) | (株)修成建設コンサルタント | 岩井 健二・菅原 武之 |
| 11.30~12.00 | ③ 曾生海岸における推算波浪と実測波浪の相関について | 日本建設コンサルタント(株)大阪支所 | 深谷 新・市原 伸一 |
| | 特別講演 13.00~13.45(題目未定) | 大阪市総合計画局長 | 福 山 真 三 郎 |
| 13.45~14.15 | ④ 街路網計画の方法論的研究に関する一考察 | 中央復建コンサルタンツ(株) | 朴 性 辰 |
| | | 京都大学工学部大学院 | 春 名 攻 |
| 14.15~15.00 | ⑤ 小型電子計算機の構造設計への適用性および建設コンサルタント「設計プログラム集」について | 技術研究委員会電子計算機分科会 | 山 田 博 之 |
| 15.15~15.45 | ⑥ 長大スパントラス橋の横倒れび屈理論の紹介と計算 | 大和配計(株) | 柳 茂 樹 |
| 15.45~16.30 | ⑦ PERTによる工程管理(その3) | 技術研究委員会施工管理分科会 | 三 浦 利 夫 |
| 16.30~16.40 | 閉会挨拶 | 業務研究発表会実行委員会 | 大 家 康 昭 |
4. 定員: 300名
 5. 聴講: 無料, 資料当日先着200名無料贈呈(それ以外の取扱いはいたしません)
 その他お問合せについて下記へご連絡下さい。
 連絡先: 建設コンサルタンツ協会大阪支部 電話大阪(06)351-9369
 大阪市北区与力町1丁目15番地 北末広ビル(郵便番号530)

(3) テキスト頒布について

物理探査の土木工事への応用	頒価 1000円	送料 80円
都市廃棄物の処理と処分	" 800円	" 60円
土木工事における土中水の扱い方	" 1500円	" 80円
工程管理(演習問題解答付)	" 1500円	" 100円
工事の安全対策	" 1000円	" 80円
近畿開発と大型土木プロジェクト	" 600円	" 60円
建設工事に伴う騒音, 振動の調査報告(騒音振動委員会編)	" 200円	" 45円
公害振動測定法(案)	" 無料	" 35円
騒音・振動公害	" 1500円	" 100円
シールド工法研究会資料(地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点の2点1組)	" 150円	" 55円
写真測量とその応用	" 1200円	" 80円
土木工学における動的現象の計測とデータ処理	" 1000円	" 80円(残部僅少)
水理学・水文学における最近の進歩	" 1500円	" 100円
プレストレスト コンクリート最近の進歩	" 1200円	" 80円
45年度関西支部年次学術講演会 講演概要	正会員	" 200円
	学生会員	" 100円
	非会員	" 500円
		" 100円(残部僅少)

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

第 20 回 応用力学連合講演会

◀ 10 月 23 日 (金)~24 日 (土) ▶

例年のとおり、標記の講演会が関係 9 団体の共催によって、下記要領で開催されます。プログラムをご希望の方は、土木学会総務課あてはがきでお申込み下さい。

1. 場 所：機械振興会館（東京都港区芝公園 21 号地 1 番 5 号）
2. 講 演：a) シンポジウム 18 題
b) 一般講演 74 題
3. 講演論文抄録集：1,700 円（予約に限り送料学会負担）
4. 参加登録料：300 円（講演会の経費の一部にあてるため、講演会参加者から登録料を申し受けることにいたしました）
5. 申込締切：10 月 5 日（月）必着（抄録集代、登録料と明記のうえ、代金を添えて土木学会総務課あてお申込み下さい）

第 13 回 国際水理学会会議のプロシーディングス頒布のお知らせ

昨年（'69）8 月 31 日～9 月 5 日、京都市で開催された標題のプロシーディングスの残部が少しありますので、購入希望者は至急土木学会図書頒布係へお申し出下さい。

Proceedings	Vol. 1 (Subject A)	A 5 判	580 頁
"	Vol. 2 (" B)	"	368
"	Vol. 3 (" C)	"	406
"	Vol. 4 (" D)	"	520
"	Vol. 5-1 (Seminars)	"	302
"	Vol. 5-2 (General Reports ほか)	"	688
"	Vol. 5-3 (General Lectures ほか)	"	251
計	7 冊		3115 頁
頒 価			10000 円
送 料			300 円

トンネル標準示方書解説

内 容

第 1 編 総 則

第 2 編 調 査

第 1 章 通則／第 2 章 概略調査／第 3 章 精密調査

第 3 編 設 計

第 1 章 通則／第 2 章 トンネルの線形、勾配および内空断面の設計／第 3 章 荷重／第 4 章 巻厚線および支払線／第 5 章 支保工の設計／第 1 節 通則／第 2 節 鋼アーチ支保工／第 3 節 ロックボルト／第 4 節 吹付けコンクリート／第 6 章 覆工の設計／第 7 章 裏込め注入／第 8 章 その他の設計

第 4 編 施 工

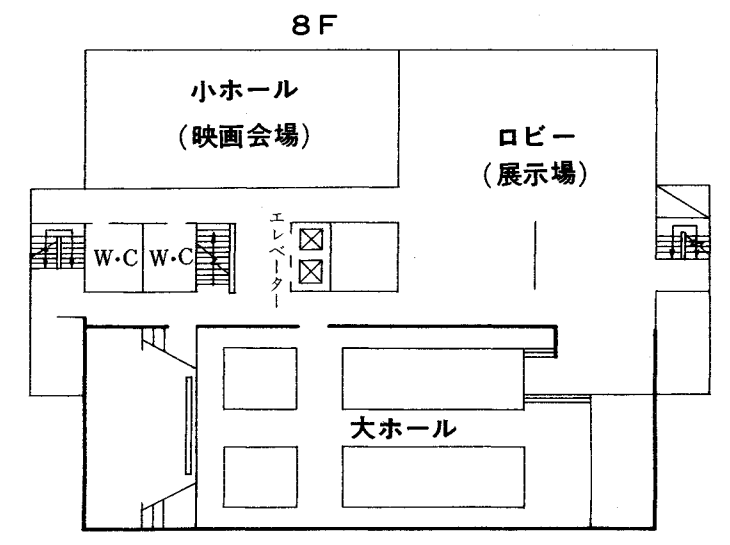
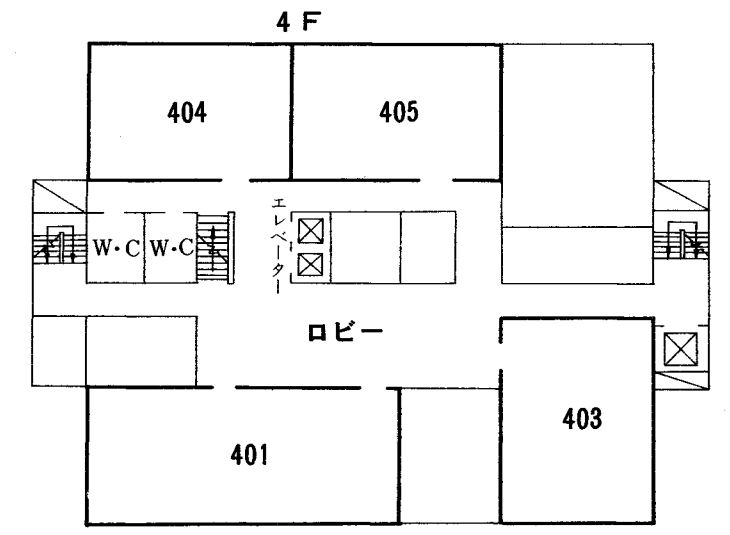
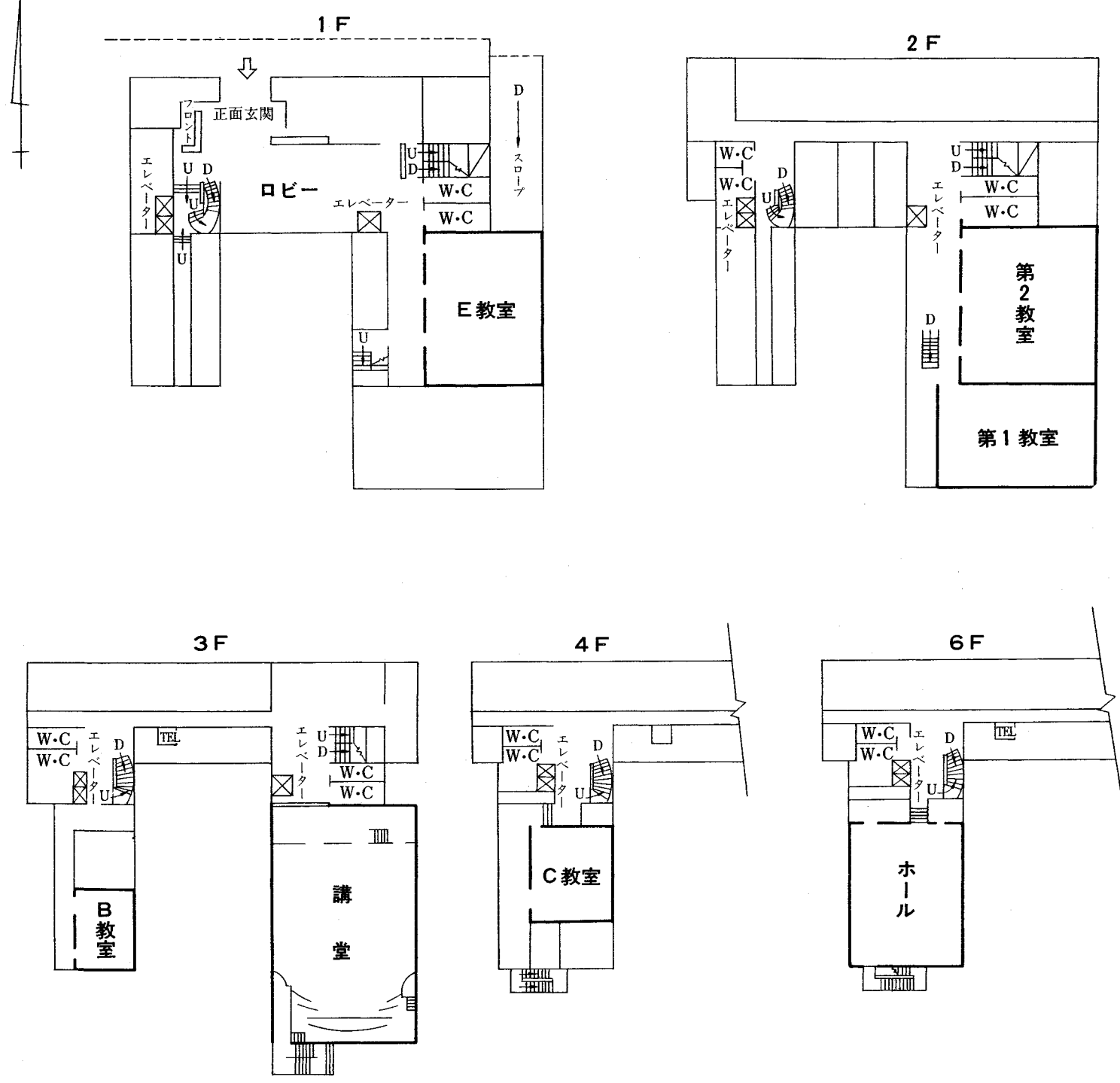
第 1 章 通則／第 2 章 保安／第 3 章 測量／第 4 章 掘さく／第 5 章 爆破／第 6 章 ずり処理／第 7 章 坑内運搬／第 8 章 支保工／第 1 節 鋼アーチ支保工／第 2 節 ロックボルト／第 3 節 吹付けコンクリート／第 4 節 木製支柱式支保工／第 9 章 型わく／第 10 章 覆工／第 11 章 裏込め注入

体 裁：A 5 判 160 ページ 定 価：800 円 会員特価：700 円 送 料：70 円

会場案内図

日本生命中之島研究所

大阪科学技術センター



第 25 回 年次学術講演会 司会者, 副司会者および総括報告者一覧表(2)

(会場: 大阪科学技術センター)

		11 月 6 日 (金)			11 月 7 日 (土)				11 月 8 日 (日)							
		午 後			午 前		午 後		午 前			午 後				
第 II 部 門	401号 4 F	項 目	波 動 ・ 碎 波			波の打上げ・越波・波力および消波工		漂砂・海浜変形・河口閉塞・密度流		流 出			水文統計・計画			
		司 会 者	岩 崎 敏 夫			永 井 莊 七 郎		尾 崎 晃		西 畑 勇 夫			篠 原 謹 爾			
		副 司 会 者	室 田 明			細 井 正 延		土 屋 義 人		石 原 安 雄			角 屋 睦			
		総括報告者	個 人	首 藤 伸 夫	榎 木 亨	富 永 正 照	野 田 英 明	堀 川 清 司	和 田 明	高 瀬 信 忠	豊 国 永 次	金 丸 昭 治	高 橋 裕	岸 力	個 人	
		番 号	1~6	7~13	14~20	21~26	27~32	33~38	39~42	43~48	49~53	54~58	59~63	64~68	69~75	
	404号 4 F	項 目	活性汚泥・汚泥処理			下 水 処 理		上水・下水計画と設計		廃水処理・放射性廃棄物・都市・産業廃棄物			騒音・大気汚染・水質汚濁			
		司 会 者	岩 井 重 久			寺 島 重 雄		石 橋 多 聞		高 松 武 一 郎			久 保 赴			
		副 司 会 者	川 島 普			川 島 普		末 石 富 太 郎		筒 井 天 尊			大 塩 敏 樹			
		総括報告者	松本順一郎	個 人	個 人	神 山 桂 一	個 人	丹保憲仁	個 人	末石富太郎	個 人	個 人	個 人	個 人	個 人	杉木昭典
		番 号	146~151	152~153	154~156	157~163	164~166	167~171	172~176	177~180	181~182	183~184	185~188	189~193	194~198	199~200
	405号 4 F	項 目	掃流砂・浮遊流砂			河床変動・粗度・水制・洗掘		乱流と噴流・不定流		局所流・発電水力			浸 透 流			
		司 会 者	椿 東 一 郎			杉 尾 捨 三 郎		林 泰 三		吉 川 秀 夫			田 中 茂	村 幸 雄		
		副 司 会 者	芦 田 和 男			足 立 昭 平		岩 佐 義 朗		中 川 博 次			嶋 祐 之			
		総括報告者	土屋昭彦	大 同 淳 之	河村 三郎	村 本 嘉 雄	松 梨 順 三 郎	個 人	日 野 幹 雄	山 岡 勲	安 芸 周 一	千 秋 信 一	上 田 年 比 古	個 人		
		番 号	76~82	83~87	88~92	93~98	99~102	103~108	109~114	115~120	121~128	129~134	135~140	141~145		
	第 IV 部 門	大ホール 8 F	項 目	人口分布・土地利用・道路網計画・その他			駐車場・交通制御		パーソントリップ・需要予測・交通配分・その他		交 通 流			舗装およびアスファルト		
司 会 者			井 上 孝			八 十 島 義 之 助		小 川 博 三		武 部 健 一	高 田 弘			内 田 一 郎		
副 司 会 者			天 野 光 三			三 品 武 司		毛 利 正 光		枝 村 俊 郎			三 瀬 貞			
総括報告者			新谷洋二	個 人	個 人	加藤 晃	個 人	越 正 毅	個 人	五十嵐日出夫	鈴 木 忠 義	個 人	個 人	個 人	菅 原 照 雄	個 人
番 号			1~4	5~9	10~14	15~19	20	21~27	28	29~32	33~39	40~47	48~53	54~59	60~67	68~74
403号 4 F		項 目						鉄 道 ・ 測 量 ・ そ の 他 ・ 施 工 計 画		交 通 事 故			観 光 ・ 空 港 ・ 港 湾			
		司 会 者						安 山 信 雄		渡 辺 新 三		伊 吹 山 四 郎			長 尾 義 三	
		副 司 会 者						広 井 生 馬		吉 川 和 広			吉 川 和 広			
		総括報告者						個 人	個 人	個 人	塙 克 郎	個 人	個 人	個 人		
		番 号						75~80	81~89	90~91	92~96	97	98~102	103~107		

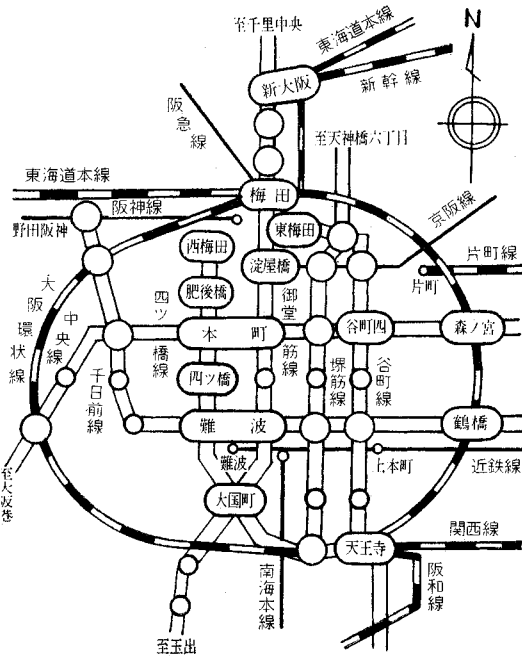


土木学会昭和45年度全国大会

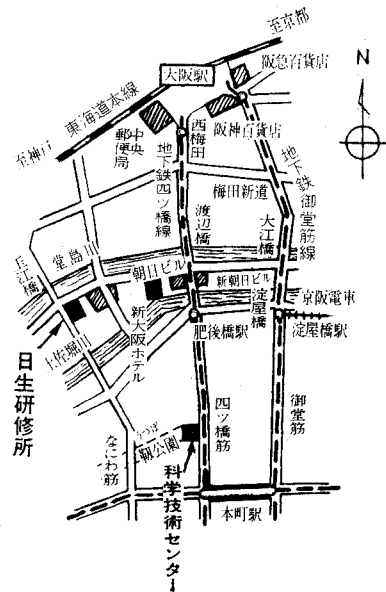
会場行案内

行 事	日 時	会 場	会 場 経 路
特別講演会	11月6日(金) 9.00~12.00	日本生命中之島研修所	○日本生命中之島研修所 大阪市北区常安町 29 電話 大阪 (06) 443-3131 ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車 (御堂筋線新大阪駅乗車梅田駅下車、西梅田駅へ乗替)、肥後橋駅下車徒歩10分 ・市営バス：国鉄大阪駅前より市バス(53)船津橋または(特53)大阪港行乗車、玉江橋下車
第25回年次 学術講演会	11月6日(金) 13.00~16.10 7日(土) 9.00~17.25 8日(日) 9.00~16.20	日本生命中之島研修所 大阪科学技術センター	
合同部門 研究討論会	11月6日(金) 16.30~18.30 8日(日) 16.30~18.30	日本生命中之島研修所	○大阪科学技術センター 大阪市西区靱1丁目 118 電話 大阪 (06) 443-5321 ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車、本町駅下車徒歩5分(御堂筋線新大阪駅乗車、本町駅下車) ○新大阪ホテル 大阪市北区中之島3丁目 5 電話 大阪 (06) 441-1431 ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車、肥後橋駅下車徒歩5分
懇親会	11月7日(土) 18.30~20.30	新大阪ホテル	
PR展示会	11月6日(金) 9.00~17.00	大阪科学技術センター	○新大阪ホテル 大阪市北区中之島3丁目 5 電話 大阪 (06) 441-1431 ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車、肥後橋駅下車徒歩5分
	7日(土) 9.00~17.00		
	8日(日) 9.00~17.00		
PR映画会	11月6日(金) 10.00~16.00	大阪科学技術センター	○新大阪ホテル 大阪市北区中之島3丁目 5 電話 大阪 (06) 441-1431 ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車、肥後橋駅下車徒歩5分
	7日(土) 10.00~16.00		
	8日(日) 10.00~16.00		

地下鉄路線図



会場略図



1 日程一覽

行事名	会場名	11月6日(金)		11月7日(土)		11月8日(日)		11月9日(月)
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	
特別講演会	日本生命中之島研修所	9.00 ~12.00						
第25回年次 学術講演会	日本生命中之島研修所 大阪科学技術センター		13.00 ~16.10	9.00 ~12.10	13.00 ~17.25	9.00 ~12.05	13.00 ~16.20	
合同部門 研究討論会	日本生命中之島研修所		16.30 ~18.30 題目(I)				16.30 ~18.30 題目(II)	
懇親会	新大阪ホテル				18.30 ~20.30			
現場見学会			①	② ③	② ③	① ④ ⑤	① ④ ⑤	
旅行見学会								ⒶⒷⒸ
PR展示会	大阪科学技術センター	9.00~17.00		9.00~17.00		9.00~17.00		
PR映画会	大阪科学技術センター	10.00~16.00		10.00~16.00		10.00~16.00		

注：現場見学会 ①②……は①コース ②コースの意味です。

旅行見学会 ⒶⒷⒸ……はⒶコース Ⓑコース Ⓒコースの意味です。

2 特別講演会 (3題)

会場：日本生命中之島研修所

月 日	時刻	講演題目	講演者
11月6日(金)	9.00~10.00	東海道新幹線が生まれるまで 古代の土木 土木と環境変革	土木学会会長 大石 重成 奈良国立文化財研究所 坪井 清足 作家 小松 左京
	10.00~11.00		
	11.00~12.00		

3 第25回年次学術講演会

研究発表(796題)

会場：日本生命中之島研修所，大阪科学技術センター

月 日	時刻	部門別講演数				
11月6日(金)	13.00~16.10	第I部門 216題	第II部門 198題	第III部門 148題	第IV部門 105題	第V部門 118題
7日(土)	9.00~17.25					
8日(日)	9.00~16.20					

4 合同部門研究討論会 (2題)

会場：日本生命中之島研修所

月 日	時刻	研究題目	話題提供者および司会
11月6日(金)	16.30~18.30	(I) 土木工学における不規則現象とその評価 (話題提供) 1. 土木計画における不確実性とその評価 2. 水工学における不規則現象とその評価 3. 構造工学における不規則現象とその評価	司会 京都大学 後藤 尚男 副司会 大阪大学 神田 徹 京 都 大 学 長尾 義三 京 都 大 学 岩垣 雄一 東 京 大 学 伯野 元彦
11月8日(日)	16.30~18.30	(II) 土木工事における騒音振動問題 (話題提供) 1. 現場の第一線における諸問題(その2) 2. 現場の第一線における諸問題(その2) 3. 騒音の問題に関する総括 4. 振動の問題に関する総括	司会 大阪大学 伊藤 富雄 副司会 大阪府 中村 隆一 大 阪 市 道田 淳一 (株)大 林 組 大北 五郎 京 都 大 学 山本 剛夫 立 命 館 大 学 畠山 直隆

注：話題提供の内容は学会誌 55 巻 9号で予告いたします。

5 懇 親 会

会場：新大阪ホテル

月 日	時 刻	参加費	方 式
11月7日(土)	18.30~20.30	1000円	立食パーティ

参加申込：本号添付の申込書に参加費 1000 円を添えて 9 月 30 日(水)までにお申し込み下さい。
(申込み後の取消しによる返金はいたしません)

6 P R 展 示 会

会場：大阪科学技術センター

月 日	時 刻	内 容
11月6日(金)	9.00~17.00	見学会に関連するプロジェクトの模型・パネルの展示
7日(土)	"	
8日(日)	"	

7 P R 映 画 会

会場：大阪科学技術センター

月 日	時 刻	上 映 映 画
11月6日(金)	10.00~16.00	(題 未 定)
7日(土)	"	
8日(日)	"	

8 見 学 会

(1) 現場見学会

コース名	名 称	期 日	定員	参加費	見 学 コ ー ス
第1コース	高速道路 めぐり	11月6日(金)午後	50名	300円	(午前の部) 科学センター 9.30 (午後の部) 科学センター 13.00~阪神高速堂島
		8日(日)午前	50名	300円	~堺~近畿道~吹田~千里~日生~科学セン
		" 午後	50名	300円	ター 12.00 15.30
第2コース	大阪高潮 対策事業	11月7日(土)午前	50名	300円	(午前の部) 技術センター 9.30 (午後の部) 技術センター 13.30~安治川水門~
		" 午後	50名	300円	科学センター~日生 11.30 15.30
第3コース	大阪市高速 電気軌道工 事	11月7日(土)午前	50名	300円	(午前の部) 科学センター 9.30 (午後の部) 科学センター 13.30~第三建設事務
		" 午後	50名	300円	所・現場~日生~科学センター 11.30 15.30
第4コース	臨海開発 めぐり	11月8日(日)午前	50名	300円	(午前の部) 科学センター 9.00 (午後の部) 科学センター 13.00~南港水路橋~
		" 午後	50名	300円	コンテナ埠頭~連絡橋架設地点~臨海センタ ービル~7区先端~石油コンビナート~科学 センター~日生 12.00 16.00
第5コース	寝屋川流域 下水道工事	11月8日(日)午前	50名	300円	(午前の部) 科学センター 9.30 (午後の部) 科学センター 13.30東大阪流通セン
		" 午後	50名	300円	ター~寝屋川流域~下水道大東幹線現場~門 真守口幹線下水管きょ工事現場~日生~科学 センター 11.40 15.40

(2) 旅行見学会

コース名	名称	期 日	定員	参加費	見 学 コ ー ス
A コース	美浜原子力発電所	11月9日(月)	50名	2000円	阪神電鉄本社前 8.00～名神～161号・303号・27号～三方五湖レインボーライン(梅丈岳)～関電美浜原子力発電所～敦賀駅 16.20～米原駅 18.00～大阪駅 20.00(昼食・夕食つき)
B コース	防災研究所琵琶湖	11月9日(月)	50名	1500円	阪神電鉄本社前 8.30～京大防災研宇治川水理実験所～京大防災研究所～天ヶ瀬ダム～喜撰山発電所～瀬田川洗堰～琵琶湖大橋～奥比叡ドライブウエー～比叡山ドライブウエー～京都駅 18.30(昼食つき)
C コース	山陽新幹線ポートアイランド	11月9日(月)	50名	1500円	阪神電鉄本社前 9.00～高倉山工事現場～須磨栈橋～ポートアイランド・神戸大橋～摩耶埠頭～山陽新幹線六甲トンネル～三宮駅 17.10(昼食つき)

参加申込：本号添付の申込書に参加費を添えて 9月30日(水)までにお申し込み下さい。

9 宿 泊

日本生命中之島研修所宿泊室を下記の数に限り先着順申込受け付けいたします。その他の宿泊の取扱いは、いっさいいたしませんからご了承下さい。

宿 泊 所	宿 泊 費	宿 泊 数(先着順)
日本生命中之島研修所宿泊室 (1泊朝食つき, 個室)	1泊につき 1400円(前納) (サービス料不要)	第1日(11月5日) 30名 第2日(11月6日) 135名 第3日(11月7日) 135名 第4日(11月8日) 10名

宿泊申込：本号添付の申込書に宿泊費を添えて 9月30日(水)までにお申し込み下さい。宿泊規則を厳守して下さい。
(申込み後の取消しによる返金はいたしません)

10 切 符

乗車券等のお世話はいたしません。各自でお手配下さい。

11 第25回年次学術講演会講演概要集

講演会に出席できない方でも、ある程度内容がわかるように、B5判にオフセット印刷した講演概要を、部門別分冊として頒布いたします(10月上旬土木学会本部内・全国大会講演概要集係より送本予定)。

	部 門 別 内 容	頒 価
第Ⅰ部	応用力学・構造力学・橋梁など 216題 約650ページ	1200円
第Ⅱ部	水理・水文・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生など 198題 約560ページ	1100円
第Ⅲ部	土質・基礎・土木機械・施工・トンネルなど 148題 約442ページ	900円
第Ⅳ部	道路・鉄道・都市計画・交通・測量など 104題 約260ページ	600円
第Ⅴ部	土木材料・施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など 119題 約330ページ	700円

購入申込：本号添付の申込書に代金を添えて 9月30日(水)までにお申し込み下さい。
期限内申込みに関り送料サービス(期限後送料各冊 100円)

12 申 込 先

郵便番号 541 大阪市東区船場中央2丁目2番地 船場センタービル4号館409号
土木学会関西支部内全国大会講演係あて
電話 大阪(06)271-6686番

13 第 25 回年次学術講演会プログラム

第 I 部門 (応用力学・構造力学・橋梁など)

注 勤務先 C はコンサルタントを示す

日本生命中之島研修所 1 階 E 教室
11 月 6 日 (金)

個人発表 (桁橋) 13:00~14:00

- (I-1) クロノイド曲線桁の断面力特性
北 大 学 杉 本 博 之
- (I-2) 曲線格子桁の横構に関する実験的研究
北 大 正 稼 農 知 徳
- (I-3) 曲線げた橋の有効幅に関する研究
阪 市 大 正 中 井 博 行
大 学 北 田 俊
- (I-4) 斜曲線げた橋の静的特性
阪 市 大 正 中 井 博 昭
大 阪 大 市 " 〇 中 西 正
- (I-5) 斜合成桁橋の立体解析
阪 工 大 正 岡 村 宏 一 功
大 阪 設 計 C " 〇 島 田

個人発表 (桁橋) 14:00~15:00

- (I-6) 連続合成桁の床版コンクリート打設によるたわみと打設時の μ 値の仮定
滝 上 工 業 正 〇 高 木 録 郎 明
" " " 〇 熊 沢 周
- (I-7) 波形軸線を有する連続合成桁について
阪 工 大 正 赤 尾 親 助 光 年
近 畿 大 正 〇 栗 宮 田 脇 秀
- (I-8) プレストレスしない連続合成げたの静的実験 (第 2 報)
阪 市 大 正 中 事 井 口 博 男 里 哉
大 阪 市 " " 〇 日 上 種 彦 洋 俊
- (I-9) 模型格子げたの載荷実験
岐 阜 高 専 正 〇 鎌 田 相 互 郎
" " " 〇 渡 部 卓
- (I-10) ねじりを考慮した 2 主変断面桁の荷重分配について
北 水 大 学 佐 伯 昇 満
清 水 建 設 正 〇 小 野

(休憩 10 分)

個人発表 (床組) 15:10~16:10

- (I-11) 橋床の横剛性について
信 州 大 正 吉 田 俊 弥 司
" " " 〇 三 井 康
- (I-12) トラス橋における床構造の荷重配分作用について
徳 島 大 正 星 治 雄 行 潔 一 甫
" " " 〇 尾 嶋 尾 田 健
新 日 鉄 " 〇 三 木
- (I-13) 連続鋼床版の実用計算法
法 政 大 正 大 地 羊 三 男
川 田 工 業 " 〇 小 神 野 竹

- (I-14) 接合辺の位置が桁軸に沿い変化する合成床版の有効幅について
阪 工 大 大 正 赤 尾 親 助 年 蔵
近 畿 工 大 大 学 " 〇 高 田 脇 秀 哲

- (I-15) 斜め支承によるプレストレス構造
広 島 建 設 C 正 〇 坂 田 静 雄 勝
" " " 〇 副 島

日本生命中之島研修所 1 階 E 教室
11 月 7 日 (土)

総括報告 (座屈) 9:00~10:20

- (I-16) プレートガーダーの剪断座屈後の挙動
東 洋 大 正 浅 井 貞 重
- (I-17) プレートガーダーの耐力力についての解析法
京 大 正 山 田 辺 樹 善 英 有 一 一 吾
- (I-18) プレートガーダー曲げ強度の実験的研究
阪 大 正 前 田 幸 雄
- (I-19) 斜め補剛腹板の曲げせん断座屈 (補剛材の剛度の影響について)
関 西 大 正 三 上 市 蔵 郎 博
" " " 〇 武 米 田 八
- (I-20) 横補剛されたはりの横倒れ座屈
名 大 正 福 本 晴 士 弘 敦
" " " 〇 久 横 保 全
- (I-21) ねじり拘束のあるはりの横倒れ座屈強度
金 沢 大 学 〇 西 田 進 博
" " 正 吉 田
- (I-22) アルミ合金桁の横倒れ座屈に関する研究 (3 報)
阪 大 正 前 田 幸 雄 彦 良
大 阪 府 高 専 " 〇 三 宮 本 和 政
神 戸 製 鋼 所 " " 〇 梶

(休憩 15 分)

個人発表 (座屈) 10:35~12:00

- (I-23) 扇形板の曲げ座屈荷重
関 西 大 正 三 上 市 蔵 一 博
" " " 〇 赤 米 松 洋
- (I-24) ゲルバー梁の座屈
九 州 大 正 山 崎 德 也 毅
長 崎 大 " 〇 崎 山
- (I-25) 圧縮柱の弾塑性座屈に関する研究
阪 明 石 高 専 大 正 小 松 定 夫 幸
" " " 〇 向 山 寿
- (I-26) 鋼柱の局部座屈実験
東 大 学 〇 長 谷 川 彰 夫 雄
" " 正 西 野 文
- (I-27) 横構を持つ I 型断面桁の横倒れ座屈の実験について
北 海 土 試 正 井 藤 昭 夫
- (I-28) 構造用部材の強度分布
名 大 正 福 本 晴 士 彦 彦
" " 学 〇 青 木 徹

(I-29) 板のせん断強度に関する研究
東洋大 正高 田孝 信生
" " " 〇新 延泰

(休憩 60分)

総括報告 (箱桁)

13:00~14:30

(I-30) 2次せん断変形を考慮した箱桁のねじり解析について
北三井大 学〇佐伯 昇
" " " 〇横 田道 勝雄

(I-31) 二次剪断変形を考慮した連続曲線箱桁橋の解析
鳥取大 正神 部俊 一

(I-32) 隔壁で補強された閉断面薄肉構造物の解析
早大 正平 嶋政 治司
" " " 〇矢 島

(I-33) 隔壁で等区画に区切られた曲線箱桁の応力解析について
北海大 正吉 田敏

(I-34) 2主構型斜め箱桁橋について
名古屋大 正中 村卓 次

(I-35) 2-ボックス桁橋の応力分布について
日大理工 正〇遠藤 篤康 康紀
" " " 〇若 下 藤

(I-36) 2-ボックス桁橋の実験による応力分布の研究
日大理工 正遠藤 篤康 康紀
" " " 〇若 下 藤

(I-37) 分岐を持つ3径間連続曲線箱桁橋の載荷実験について
阪神大 正小松 松田 定照 夫敏 努守
" " " 〇川 杉 越崎
石川島播磨

(休憩 15分)

個人発表 (桁・トラス)

14:45~15:45

(I-38) 箱型梁における中間ダイアフラムの影響
——膜理論の適用について——
東川大 正〇奥村 敏 恵一
" " " 〇坂 井 藤

(I-39) 箱断面桁の隔壁上のそり応力の特性について
室蘭工大 正能 町純 雄
" " " 〇尾 崎 針 憲 司

(I-40) 曲線桁橋の床版応力について
広島大 正大 村裕 裕
" " " 〇上 野 谷 実

(I-41) 平面トラスのはりへの置換
宮地鉄工所 正〇清川 水口 裕昌 朝宏
" " " 〇日大理工 " 〇戸 倉

(I-42) トラスの耐荷力におよぼす2次応力の影響
金沢大 正〇中村 昭 英博 敏
" " " 〇吉 野 田 内

(休憩 15分)

個人発表 (トラス)

16:00~17:00

(I-43) 材料の非線型力学特性を考慮したトラスの有限
変位解析
信州大 正吉 沢孝 和

(I-44) 漸化変形法による任意トラスの解析
信州大 正〇谷本 勉之 助
" " " 〇夏目 野正 太郎
" " " 〇阿久 野 浩 幹司

(I-45) マトリックス法による曲線立体トラス橋の構造
特性について
北大 正渡 辺子 昇
" " " 〇学 金 野 吉 国
" " " 〇学 高 野 護

(I-46) ドームトラスの解析
信州大 正〇谷本 勉之 助
" " " 〇学 夏野 野正 太郎
" " " 〇学 浜的 場 浩 幹司

(I-47) 補剛トラスを有する煙突の解析
信州大 正〇谷本 勉之 助
" " " 〇学 夏土 屋 正 太郎
" " " 〇学 士 屋 正 太郎

日本生命中之島研修所 1階 E 教室
11月8日 (日)

個人発表 (実験・設計施工)

9:00~10:40

(I-48) 折れ曲り梁の実験的研究
駒井鉄工所 正〇今村 能 久守
" " " 〇佐 藤 藤

(I-49) シールドセグメントの継手剛性に関する実験
石川島播磨 正〇結城 皓三 敏三
" " " 〇安 藤 皓三

(I-50) コンクリート充填ボックス鋼床版の実験的研究
阪大 正〇前田 幸繁 雄之次
" " " 〇学 松 井 良 正 正

(I-51) 鈴ヶ滝橋アクリル樹脂模型実験
愛知大 正〇江川 口上 昂 三悟 右一
" " " 〇名 井 建 大 小 菊 小 島 池 基 洋

(I-52) 神戸大橋の下部工の設計と施工
神戸市 正〇安孫子 享 一郎 郎
" " " 〇中 島 田 喜 五 十

(I-53) 神戸大橋の設計と製作
神戸市 正〇永島 田安 彦 一郎 一房
" " " 〇川崎重工 " 〇繁 村 喜 武 安

(I-54) 神戸大橋の架設工事
神戸市 正〇安孫子 享 一郎 満
" " " 〇川崎重工 " 〇吉 村 田 喜 五 十

(I-55) 神戸大橋第4突堤側取付道路上部工の設計と施
工
神戸市 正〇中村 喜 五十 郎 男 隆
" " " 〇日建設計 " 〇戸 倉 喜 意

(休憩 10分)

個人発表 (実験・施工)

10:50~11:50

(I-56) 豊里大橋の載荷試験について
阪大 正〇小松 松林 定敏 夫 士 夫
" " " 〇大 阪 市 " 〇松 川 昭 三

(I-57) 3径間連続立体ラーメン橋の静的載荷実験につ
いて
阪神高速 正〇越智 俊将 夫 徳 隆 三 郎
" " " 〇日本橋梁 " 〇久保 田 隆 三 郎

(I-58) 曲線I型格子桁の実験的研究
阪神高速 正〇小松 松田 定照 夫 敏 道 行
" " " 〇阪神 " 〇野 呂 野 繁
" " " 〇春本鉄工所 " 〇山 野 繁 行

- (I-59) 大型圧延H形鋼の曲げ性状
東 大 正○西野文 雄
" " " 奥村 敏 惠
- (I-60) コンクリートと鋼板を合成したプレハブ床版の
施工例
群馬県 正 田 村 達
石川島播磨 " " 成 瀬 男
" " " 初 沢 夫

(休憩 70 分)

総括報告 (構造総合)
13:00~14:30

- (I-61) 移動荷重をうける連続ばりの最小重量設計
信 州 大 正○草間 孝俊 志
" " " 吉 田 弥 弥
- (I-62) 移動荷重を受ける変断面連続ばりのDPによる
最適設計
信 州 大 正 吉 田 俊 弥
" " " 長 松 正 尚
阪神高速 " " 堀 松 正 尚
- (I-63) 最適設計に用いる線形計画法の改良
信 州 大 正 長 尚
- (I-64) SUMT 法による鋼構造物の最適設計について
京 大 正 山 田 善 一
新日本技術C " " 岡 田 鉄 三
- (I-65) 桁の最適設計
京 大 正 山 田 善 一
川崎重工 " " 国 田 昌 史
- (I-66) シールドセグメントの自動設計
石川島播磨 正○結城 皓 眩
" " " 安 藤 紘 三
- (I-67) 図形処理言語開発による現図作業の自動化
日本鋼管 正 田 中 久 登
" " " 高 渡 達 将 孝
- (I-68) 数値制御を用いた橋梁の原寸製作法
三井造船 正 福 井 康 二
" " " 安 芸 佳 夫
" " " 鹿 野 頭 一

(休憩 15 分)

個人発表 (構造総合・リライアビリティ)
14:45~15:45

- (I-69) 移動荷重を受けるトラスの最適設計法に関する
研究
愛媛大 正 大 久 保 禎 二
- (I-70) 吊橋上部構造設計のシステム化 (第2報)
阪 大 正 小 松 定 夫
" " " 西 村 宣 男
" " " 学 小 山 次 郎
- (I-71) 3径間連続桁式逆ローゼ橋の最適弦材分配率に
ついて
室蘭工大 正 中 村 作 太 郎
- (I-72) 格子桁の最小重量設計について
阪 大 正 倉 田 宗 章
" " " 園 田 惠 一 郎
- (I-73) 道路橋の疲労寿命の一推定法
金沢大 正○小堀 為 雄
" " " 篠 塚 正 宣
" " " コロンビア大 篠 塚 正 宣
- (I-74) Reliability Analysis of a Tainter Gate (テ
ンターゲートの信頼性について)
バージニア工大 正 星 谷 勝

日本生命中之島研修所 2 階第 1 教室
11 月 6 日 (金)

個人発表 (弾性・塑性)
13:00~14:25

- (I-75) 構造物の弾塑性変形について
九 大 正 山 崎 徳 也
宮 宮 崎 大 大 正 太 藤 田 本 俊 昭
" " " 崎 大 大 正 太 藤 田 本 俊 昭

- (I-76) 補強円孔を有するはりの弾性応力
九 大 正 村 上 正
" " " 学 後 梅 本 惠 明 輔 宏

- (I-77) 任意形状の孔を有する異方性弾性梁内の応力状
態
京 大 正○平 島 健 一
" " " 丹 羽 義 次

- (I-78) Y型ラーメン隅角部の応力解析
名 工 大 正 岡 林 稔 宣
" " " 学 長 谷 部 男 昌

- (I-79) キャストレーテッド・ビームの解法
九 大 正 山 崎 徳 也
" " " 後 藤 惠 之 輔

- (I-80) 十字形板の応力解析 (曲げ, ねじり荷重)
名 工 大 正 岡 林 稔 宣
" " " 学 長 谷 部 男 昌

- (I-81) 一様な振りモーメントを受ける棒の弾塑性応力
について
宮崎大 正 太 田 俊 昭
鹿島建設 " " 伊集院 久 光

個人発表 (桁-クリープ)
14:25~14:50

- (I-82) 複鉄筋コンクリートばりのクリープおよび乾燥
収縮応力の解法
九 大 正 山 崎 徳 也
" " " 学 彦 坂 坂 照

- (I-83) 合成桁のクリープに関する 2, 3 の考察
九 大 正 山 崎 徳 也
" " " 学 彦 坂 坂 照 良 明

(休憩 10 分)

個人発表 (桁-衝撃)
15:00~15:25

- (I-84) 衝撃を受けた 2, 3 のはりの塑性変形について
山 口 大 正 最 上 幸 夫
" " " 学 具 誠 雄

- (I-85) 衝撃によるはりの塑性変形におよぼすせん断変
形の影響について
石川高専 正○出村 禎 典
金沢大 " " 小 堀 為 雄

個人発表 (桁-崩壊)
15:25~16:10

- (I-86) 部材分割による弾塑性ばりの簡易解法
九 大 正 山 崎 徳 也
" " " 学 黒 木 健 実

- (I-87) 格子桁の崩壊に関する 2, 3 の性状について
徳 島 大 正 児 嶋 弘 行

- (I-88) 軸力を考慮した平面棒構造物の崩壊荷重の自動
追跡について
徳 島 大 正 星 児 治 雄
" " " " 嶋 尾 弘 行 潔

- (I-89) 鋼アーチの耐荷力について
東 北 大 正○倉 西 茂
" " " " 矢 吹 哲 也

日本生命中之島研修所 2 階第 1 教室
11 月 7 日 (土)

個人発表 (スラブ)
9:00~9:35

- (I-90) 固有函数法による変断面板の曲げ解析
信州大正谷本勉之助
" " "学〇河原正太郎
- (I-91) 固有函数法による板の解析(混合境界値問題)
信州大正谷本勉之助
" " "学〇中原正太郎
- (I-92) 固有函数法による複合板の解析
福山C正〇小川泰造
信大" "〇谷本勉之助
" " "学〇夏目正太郎

個人発表(スラブ)
9:35~10:35

- (I-93) 四辺形板の曲げ解析(つづき)
阪市大正倉田宗章
" " "〇谷平勉
- (I-94) 周辺が柱または弾性ばりにて支持される矩形板の解法
道路公団正山田喜四夫
- (I-95) 剛結された正多角形柱をもつ無限床版の解析
九"大正山崎徳也
" " "学〇中後藤惠之輔
" " " "〇沢隆雄
- (I-96) 無梁板構造の影響面解法
九"大正山崎徳也
" " "〇樗木徳武
- (I-97) 一辺が壁で支持されたフラットスラブの解法
金沢大正小野一良
(休憩 10 分)

個人発表(スラブ)
10:45~11:45

- (I-98) 帯板を要素とする平板の解法(第2報)
室蘭工大正能町純雄
" " "学〇堀米昇士一郎
- (I-99) スパン方向のヒンジで結合された棒状要素による面構造の応力について
室蘭工大正能町純雄
" " "学〇沢田知一之
- (I-100) 変形法による鋼床版の解析
信州大正〇竹内勉宏
" " "学〇夏目正太郎
- (I-101) 円弧格子げたと直線格子げたとの解析について
九州工大正山本宏
- (I-102) 弾性支持ばりをもつ曲線直交異方性連続扇形板の解法
九"大正山崎徳也
" " "学〇金子徳忠男

個人発表(スラブ)
11:45~12:10

- (I-103) リブ付き板の弾塑性立体解析
阪工大正岡村宏一
大阪設計C" "〇吉田藤泰男
- (I-104) Membrane Actionを有する矩形板の弾塑性解析
阪工大正岡村宏一
大阪設計C" "〇吉田藤泰男
(休憩 50 分)

個人発表(有限要素法)
13:00~14:00

- (I-105) 二次元有限要素法の適用における二、三の問題
名大正〇川本脩万
" " "学〇梶田建夫
" " " "〇宮口友延
中部電力正〇宮口友延

- (I-106) 有限要素法に関する二・三の考察
間組正長野匡純
- (I-107) 有限要素法による2, 3の二次元非線型解析
名大正川梶田脩
" " "学〇宮本池克
" " " "〇宮本池克
- (I-108) 有限要素法による粘弾性体の解析
早大正〇川原陸
" " "学〇内藤井健一
" " " "〇堀井健一
- (I-109) 有限要素法による頭部拡大鋼管杭の継手部の解析について
北北海大正渡辺昇久
北秋田大" "〇大田武大川島三
" " " "〇大田武大川島三
" " " "〇大田武大川島三

個人発表(有限要素法)
14:00~14:40

- (I-110) 板の弾塑性問題における有限要素解析
名大正〇梶田建夫
" " "学〇成岡昌夫
- (I-111) 有限要素法による板の曲げにおける一考察
法政大正大武地田羊三
伊藤忠電子計算" "〇渡辺隆洋
" " " "〇渡辺隆洋
- (I-112) 平板の曲げ問題に対する有限要素法と差分法の組合せについて
都立大正〇安井将文
電大研正〇岩井楯敵文
(休憩 10 分)

個人発表(数値解析)
14:50~15:55

- (I-113) 構造解析におけるウェイトマトリックスに関する研究
東北大正佐武正雄
" " "学〇新関正茂
- (I-114) 圧縮供試体中に含まれる初期欠陥からの亀裂の発生および伝播について
京大正小林昭一
- (I-115) Hermitian 階差法による構造物の解析
岐阜大正井上肇
- (I-116) 部分荷重を担う扇形平板の曲げについて
北北海大正〇芳村仁也
北海学園大" "〇本村祐
北大" "〇奥村祐也
- (I-117) ゲル状材料を用いた動的弾塑性実験について
埼玉大正岡本舜三
東大生研" "〇森本地重暉

個人発表(光弾性)
15:55~16:45

- (I-118) 光弾性皮膜の補強効果に関する実験的研究
九"大正村上正
" " "学〇斎藤利一郎
- (I-119) 2次元光弾性によるデープビームに関する基礎実験
関東学院大正〇高橋賞
" " " "〇中川英意
- (I-120) 一様引張を受ける直交異方性板内の双設円孔の周辺応力解析
都立大正〇安井将文
" " " "〇安井将文
- (I-121) 海中ケーソンの位置決めに対する一提案
川崎重工正〇宮尾克巳
" " " "〇赤尾宏
" " " "〇佐岡暖也

日本生命中之島研修所 2階第1教室
11月8日(日)

個人発表 (継手)
9:00~9:50

- (I-122) 鋼製橋脚隅角部の拘束と溶接割れについて
 阪大 佐藤 邦彦 彦明典治 久松平
 " " 藤井 繁宏 義
 阪大 高速 正 和元 井原 璋
 " " " " 水橋 高
 松尾 橋梁 " " " "
- (I-123) 打込式高力ボルト接合性状への孔加工誤差の影響
 神戸大 正 山西 田村 稔昭夫 弥
 " " " " 西三 哲
 神戸製鋼所 " " " " 山下
- (I-124) ねじりをうけるT型接手の応力解析
 東大 正 奥村 敏 惠
 埼玉大 大 秋山 成 興
 " " " " " "
- (I-125) 水圧鉄管とライザー接合部の応力解析
 東大 正 奥村 敏 惠
 埼玉大 大 秋山 成 興
 電源開発 " " " " 高橋

個人発表 (継手)
9:50~10:30

- (I-126) スタッドジベルの品質に関する研究
 川崎製鉄 正 石渡 正 夫
 " " " " 高橋 千代 丸
- (I-127) スタッドジベルの押し抜き疲労強度について
 ——高さ 180 mm, 50 mm の場合——
 運輸省 正 伊藤 隆 夫
 " " " " 成岡 昌 夫
- (I-128) 異形棒鋼を用いたズレ止めについて
 都立大 正 山本 稔

(休憩 10 分)

個人発表 (疲労)
10:40~11:30

- (I-129) プレートガーダーの疲労に関する実験的研究
 阪大 正 前田 幸 雄
 川崎製鉄大 学 村宮 田村 勝隆 弘夫
 阪大 " " " " " "
- (I-130) 高張力鋼溶接H型桁の疲労挙動
 名大 正 菊池 洋 一
 " " " " 山田 健太 郎
 " " " " 安田 敏 雄
- (I-131) 軟鋼材の疲れ強さに及ぼす応力波形の影響について
 東工大 正 西村 俊 夫
 " " " " 丸山 嘉国 高太
 " " " " 丸山 荒 井
- (I-132) 隅肉溶接継手の疲労特性に関する研究
 東都立大 正 奥村 敏 惠
 都立大 大 学 奥村 川 浩淳 甫志
 東大 " " " " 奥村 川 浩淳 甫志

(休憩 90 分)

個人発表 (シェル・その他)
13:00~13:25

- (I-133) 多面殻の応力解析について
 室蘭工大 正 能松 町岡 純 雄
 " " " " 学 田 岡 健 照 義
 " " " " " " " "
- (I-134) トポロジカル一致を有する構造物間の応力について
 室蘭工大 正 能松 町岡 純 雄
 " " " " 学 田 岡 健 照 義
 " " " " " " " "

個人発表 (骨組)
13:25~14:15

- (I-135) 立点骨組構造物の力学的相似条件について
 熊本大 正 福井 武 弘
 " " " " 大三 池田 亮 次
 大成建設 " " " " 石 田 泰 弘
- (I-136) 立体剛接構造の解法 (第1報)
 日大工学部 正 安田 禎 輔
- (I-137) 立体骨組構造の安定解析
 八戸高専 正 学 齋藤 進
 " " " " 大 森 原 繁
 " " " " " 川 堀 井 健 一
 " " " " " 陸 一郎
- (I-138) 任意立体ラーメンの解析
 信州大 正 谷本 勉 助
 " " " " 学 夏赤 本 目 正 明 太郎 信

(休憩 10 分)

個人発表 (骨組)
14:25~15:15

- (I-139) 演算子法によるラーメンの厳密解と挫屈
 信州大 正 石川 清 志
 " " " " 谷 本 勉 正 太郎 助
 " " " " " " " "
- (I-140) 群遷移マトリクスによる骨組構造解析
 熊本大 正 吉村 虎 蔵
 " " " " " " 池村 亮 重 範
 " " " " " " 学 吉村 村 健 範
- (I-141) 応力法による骨組構造物の解法
 法政大 正 大地 羊 三
- (I-142) 漸化変形法による骨組構造物の解析
 信州大 正 浜野 浩 幹
 " " " " 学 夏谷 本 正 勉 太 之 助

個人発表 (骨組)
15:15~16:05

- (I-143) 骨組構造物の弾塑性解析
 京大 正 小白 西 一 郎
 " " " " 学 谷 石 口 成 健 人 男
- (I-144) 骨組構造の弾塑性解析法
 早大 学 小川 杉 溥
 " " " " 正 堀 原 健 一 陸 一郎
 " " " " " " " "
- (I-145) ステージコンストラクションにおける立体ラ
 ーメン構造物の挙動
 神戸大 正 西村 村 昭
 神大 " " " " 中 池 村 田 田 夫 勉
 " " " " " " 永 田 五 貞
 石川島播磨 " " " " 学 永 田 五 貞
- (I-146) (欠番)

日本生命中之島研修所 2 階第 2 教室
11 月 6 日 (金)

個人発表 (耐風・吊橋)
13:00~14:30

- (I-147) 実在吊橋における自然風的作用の一観測例
 中央大 正 岡内 功
 東大 " " 学 村 望 田 月 正 倫 信 也
 " " " " " " " "
- (I-148) 構造断面における風圧分布と風力
 東大 正 伊藤 藤 学
 " " " " 学 矢 野 善 章

- (I-149) 補剛桁に作用する空気力に関する基礎的考察
徳島大正宇都宮英彦
- (I-150) 平板状構造物に作用する非定常空気力に関する研究
京大正小西一 郎人
" " " " " " 弥成秀
- (I-151) 曲げ一振れフラッタ解析における準定常空気力について
九大応力研 正中村 泰治
- (I-152) 箱型断面の耐風応答に関する2, 3の基礎的研究
京大正小西一 郎人
" " " " " " 勝成一
- (I-153) 乱れた流れの中の構造物の耐風応答に関する実験的研究
京大正○白石 成人
" " " " " " 勝成一

(休憩 10 分)

個人発表 (耐風・吊橋)

14:40~16:10

- (I-154) 翼型吊橋風洞実験結果についての2, 3の考察
石川島播磨 正原 公
- (I-155) トラス補剛桁を用いた斜張橋の耐風安定性に関する研究
三菱重工 正 田中 博 喜悟
" " " " " " 智巳
- (I-156) 吊形式橋梁の渦励振
東大正 伊藤 藤 学
" " " " " " 宏浩
日本鋼管 " " 戸井 田
- (I-157) 構造断面後流中の風速変動
東大正 田中 宏夫
" " " " " " 康輝
国鉄 森根 光
- (I-158) 鉄塔支持型煙突の風による振動
秋田大正 色部 誠三
" " " " " " 征三
- (I-159) ケーブルスティンダンパーをもつ吊橋の強制振動について
東北工大 正○高橋 龍夫
" " " " " " 西茂
- (I-160) 補剛ケーブルを有する吊橋の弾性挙動
中央大正○竹間 弘弘
" " " " " " 野弘

日本生命中之島研修所 2階第2教室

11月7日(土)

個人発表 (橋梁の振動・衝撃)

9:00~10:30

- (I-161) 曲線げた橋の衝撃係数に関する研究
阪市大正小松 定夫
" " " " " " 寿博男
- (I-162) 荷重及び車頭間隔が不規則な分布をなす道路橋の応答解析
早大正 平嶋 治
" " " " " " 政一
首都高速 " " 多田 正
- (I-163) 自動車荷重の走行状態と主ゲタ応力との相関について
北海土試 正大 島久
- (I-164) 鉄道橋の衝撃係数に及ぼす載荷周期の効果
鉄道技研 正松 浦章夫

- (I-165) 走行荷重による長大吊橋の動的応答
京大正小西川 一郎
" " " " " " 北角 貴志
- (I-166) ムアリング・ドルフィン(斜組杭構造)の振動減衰性状
鹿島技研 正野尻陽 一郎
" " " " " " 三村八三 雄生
- (I-167) 5径間連続曲線ラーメンの震動模型実験について
北大正 芳村 仁
" " " " " " 北海道開発局 " " 藤七
" " " " " " 北海道電力 " " 荒木 洋

(休憩 10 分)

個人発表 (橋梁の振動・衝撃)

10:40~12:10

- (I-168) 5径間鋼床版ゲルバー橋の振動実験について
京大正 山田 善一
" " " " " " 神高速 " " 今井 宏久
" " " " " " 宮地鉄工所 " " 石沢 義成
- (I-169) 大谷橋(6径間連続曲線桁橋)の振動実験
新日鉄 正 宮島 信雄
" " " " " " 福山 C " " 佐藤 進
- (I-170) 中路式全溶接パイプランガートラス橋(伊達橋)の静荷重ならびに動荷重特性について
三井造船 正 福井 康二
" " " " " " " " 高田 中 絃昇
- (I-171) 豊里大橋の振動特性について
阪大正 小松 定夫
" " " " " " " " 小林 絃
- (I-172) 立体ラーメン構造物の現地振動試験
神戸大正 西島 昭郎
" " " " " " 神戸市 " " 池田 喜十
" " " " " " 三菱重工 " " 湯治 貞秀
- (I-173) 軟弱地盤における橋の振動応答について
北大正 渡辺 昇吉
" " " " " " " " 金子 孝
- (I-174) Dynamic Response of Berthing Structures Under the Impact of Berthing Ships.
阪大正小松 定夫
" " " " " " " " アブドハミド・サルマン

(休憩 50 分)

総括報告 (耐震)

13:00~14:00

- (I-175) 地震時における構造物の最大応答の確率分布と平均応答スペクトルについて
京大正 亀田 弘行
- (I-176) 構造物-地盤系のランダム応答
防衛大正 岡元 北海
" " " " " " " " 学○岩 石 瀨 隆啓
- (I-177) 常時微動による構造物の振動モード解析について
九大正 小坪 清真
" " " " " " " " 学○山 泉 弥治
" " " " " " " " 荒 牧 純
- (I-178) 塔状構造物の動的設計に関する一考察
福山 C 正 田中 純輔
" " " " " " " " 山口大 " " 川 健治
- (I-179) 非線型復元力特性を持つ構造物の地震応答
都立大学 国井 隆弘

(休憩 10 分)

個人発表 (耐震)
14:10~15:25

- (I-180) 日本で得られた強震記録に関する二、三の考察
 中央大 正片山 恒 雄
- (I-181) 大阪市内ビルの SMAC 強震計による測定結果
 について
 立命館大 正 島山 直 隆
 大阪産業大 " " 〇岸生 正忠 吉男
 木村基礎工事 " " " 小出 忠
- (I-182) 本州四国連絡吊橋の地震応答
 解析計算並びに模型実験
 建士研 正 栗林 栄 一
 " " " " 〇飯山 田 欣 裕
- (I-183) 塔と多柱基礎の連成立体振動
 阪市大 正 倉岡 田村 宗 章
 阪工路多 〇多田 藤 浩 彦
 大阪設計 C " " 〇進 藤 泰
- (I-184) 基礎に大きな減衰を有する橋脚の振動特性につ
 いて
 大林組技研 正 〇後藤 洋 三
 京大 " " 〇山田 善
- (I-185) 長大つり橋タワー・ピアー系の減衰機構につ
 いて
 京大 正 山竹 田宮 善 一
 " " " " 〇土谷 谷 忠 和温

(休憩 10 分)

個人発表 (耐震)
15:35~17:00

- (I-186) 多層地盤の剪断波動による地震応答および振幅
 分布について
 北 大 正 金子 孝 吉
- (I-187) 構造物の振動に及ぼす地盤の影響について
 建士研 正 栗林 栄 一
 " " " " 〇辻崎 敏 男
 " " " " 〇辻崎 敏 成
- (I-188) 斜張橋の耐震特性
 北 " 大 工 渡 辺 昇
 " " " " 〇宮本 裕
- (I-189) 三径間吊橋の地震応答
 建士研 正 栗林 栄 一
 " " " " 〇小山 田 欣 裕
- (I-190) 電子計算による橋梁の地震時挙動解析結果の動
 画化
 新潟大 正 〇松野 操 平
 建設大 " " 〇川正 昭
- (I-191) 沈埋管に生ずる地震時応力の観測について
 東大生研 正 田村重 四
 " " " " 〇加藤勝 郎
 " " " " 〇中川良 隆
- (I-192) (欠番)

日本生命中之島研修所 2 階第 2 教室
11 月 8 日 (日)

個人発表 (振動)
9:00~10:40

- (I-193) 代表点法による連続弾性体の固有値計算法
 九州大 正 小坪 清 真
 九州工大 " " 〇高西 照 彦
 九 大 学 川 人 達 彦

- (I-194) 3 連モーメントをフレキシビリティとするディ
 スクリートな振動モデルについて
 室蘭工大 正 能松 町 純 雄
 " " " " 〇佐松 岡 健 一 明
- (I-195) 片持梁の非線型自由振動
 都立大 正 奥国 田井 夫
 " " " " 〇植松 井 隆 弘
 " " " " " 〇植松 井 隆 弘
- (I-196) 直線材よりなる任意格子桁および変断面桁の動
 的解析
 熊本大 正 吉平 村 虎 蔵
 " " " " 〇宮吉 井 村 村 重 男
 " " " " " 〇宮吉 井 村 村 健 健
- (I-197) 中間にて点支持される直交異方性矩形板の自由
 振動
 九 大 正 樽 木 武
 神戸製鋼所 " " 〇篠 崎 正
- (I-198) 扇形板の非線形振動
 九 大 正 樽 木 武
 長崎大 " " 〇高 橋 和 雄
- (I-199) (欠番)
- (I-200) 側径間をもつ上路式補剛アーチ橋の動的解析
 熊本大 正 吉有 村 虎 蔵
 京大 " " 〇大野 野 夫
 佐伯鶴城高 " " 〇河庄 野 司 和 健 清 夫
 " " " " 〇河庄 野 司 二 美
- (I-201) 骨組構造物の振動特性 (その 1)
 東京電力 正 野堀 口 俊 郎
 " " " " 〇横太 口 手 田 潤 敏 一郎
 " " " " " 〇横太 口 手 田 敏 一郎 孝

(休憩 10 分)

個人発表 (振動・波動)
10:50~12:05

- (I-202) 分岐構造の応力波伝播解析
 広島大 正 佐藤 藤 誠
 " " " " 〇岩原 重 之
- (I-203) 振れ波動の伝播について
 九 大 正 小島 坪 清 真
 " " " " 〇鳥荒 野 牧 軍 清 治
- (I-204) 微小な非線形性を有する弾性層の振動性状につ
 いて
 京大 大 正 後藤 藤 尚 男
 京大防災研 " " 〇土佐 岐 藤 憲 三
 京大 " " " " 〇土佐 岐 藤 憲 三
- (I-205) 地面上の剛構造物の回転振動における方向性
 について
 京 大 正 秋 吉 卓
- (I-206) 土中構造物の振動
 岐阜大 正 井上 肇
 " " " " 〇久保田 領 一郎
- (I-207) 周期荷重を受ける弾性地盤上の板の波動解析
 九 大 正 山崎 徳 出
 " " " " 〇横 田 崎 田 徳 漢

(休憩 55 分)

個人発表 (斜張橋・吊橋)
13:00~14:15

- (I-208) (欠番)
- (I-209) 斜張橋の応力調整に関する二、三の考察
 阪大 正 前田 幸 雄
 " " " " 〇林田 治 正 行
 " " " " 〇林田 治 正 行
- (I-210) 有限変形還元法によるケーブル解析
 本四公団 正 林 有 一郎

- (I-211) 滑車を有するケーブルトラスの解析
 法政大 正 大野 地村 羊国 三
 川工大 田大 〇中 崎 俊 勝三
 大日本 C " " " " " "
- (I-212) つり橋の振れに関する研究
 京 大 正 小 西 一 郎
 " " " 〇 石 成 人
 学 〇 永 田 智 康
- (I-213) 吊橋に導入される誤差について
 横河橋梁 正 長 谷 川 緒 一
 " " " 〇 菅 田 七 郎
 " " " 原 田 康 夫
- (休憩 15 分)

個人発表 (吊橋・その他)
 14:30~16:00

- (I-214) 斜ハンガー吊橋の静力学的特性について
 阪 大 正 小 松 定 夫
 " " " 〇 西 村 宣 一
 " " 学 南 兼 郎

- (I-215) 吊橋の測定と解析
 名 大 正 島 田 静 雄
 " " " 〇 宮 下 力
 鳥羽市役所 " " 小 川 庄 一 郎
- (I-216) 偏分布荷重を受ける PCT の解法について
 九州工大 正 〇 出 光 隆
 " " 学 本 山 裕 三
- (I-217) 吊橋の静力学的構造解析について
 信州大 正 〇 眞 目 正 太 郎
 " " " 谷 本 勉 助
- (I-218) 多径間吊橋の静力学的解析法についての 2, 3 の考察
 北 大 正 渡 辺 昇
 " " " 〇 佐 藤 浩 一
 " " 学 〇 川 瀬 健 夫
- (I-219) 塔の変形を考慮した多径間吊橋の構造特性について
 北 大 正 渡 辺 昇
 " " " 〇 佐 藤 浩 一
- (I-220) 橋梁基礎の剛性マトリックス
 建 土 研 正 〇 栗 林 栄 一
 " " " " 飯 田 裕

橋

1967-1968

A4判カラー
 入り・特上製
 82ページ

1500円
 (〒150円)

■本州四国連絡橋技術調査報告書の概要 ■福島第1高架橋 ■名護屋大橋 ■鋼橋1967年の展望・箱ヶ瀬橋 / 舞鶴跨線橋 / 瀬詰大橋 / 谷町インターチェンジ / 竜頭の橋 / 水道道路架道橋 / 狭間第6架道橋 / 越ヶ谷架道橋 およびハツ道越ヶ谷架道橋 / 姥久保橋 / 大天橋 ■コンクリート橋 1967年の展望・想影橋 / 大呼戸沢橋梁 / みなど大橋 / 有田川橋梁 / 瀬田川橋梁 / 小高瀬高架橋 ■1967年竣工主要橋梁一覧 ■Response of Suspension Bridge to Moving Vehicles.

土木学会田中賞設立を記念して刊行されたユニークな橋の年報

橋

1968-1969

A4判カラー
 入り・特上製
 96ページ

1600円
 (〒150円)

■東名高速道路の橋梁 ■尾道大橋 ■浜名湖橋 ■第3綾瀬高架橋 ■鋼橋1968年の展望・多摩川橋梁 / 無意根大橋 / 荒川・中川橋梁 / 新桂川橋梁 / 第一江戸川橋梁 / 新石狩大橋 / 安芸大橋 / 新瀬戸橋 / 飯田橋歩道橋 / 川崎ターミナル歩道橋 / 横浜駅東口歩道橋 / 新伊東線・熱海駅地下道架道橋 / 福島仮設架道橋 ■コンクリート橋1968年の展望 矢作川橋梁 / 荒川P.C下路鉄道橋 / 荒川東高架橋 / 地震滝橋 ■1968年竣工主要橋梁一覧 ■長大吊橋の地震応答と耐震設計法に関する研究

東名高速道路建設誌

11500円 45年6月刊行 B5上製 1024ページ (口絵カラーとも 48ページ・付図入り)

〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会刊行物頒布係 振替 東京 16828 番 電話 351-4131

第 II 部門 (水理・水文・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生など)

大阪科学技術センター 4階 401号室

11月6日(金)

個人発表

13:00~14:20

- (II-1) 風洞水槽を利用した海岸波浪シミュレーターの試作について
京大防災研 正 土 屋 義 人
- (II-2) 電気油圧式不規則波発生機について
京 大 正 〇岩 垣 雄 一
" " 学 村 上 仁 士
" " 酒 井 井 哲 郎
" " 木 村 村 晃 晃
- (II-3) ピアソン I 型分布曲線による潮位基準面について
日大理工 正 久 宝 雅 史
" " 〇竹 沢 三 雄 雄
- (II-4) 津波模型による高知港の振動特性について
京大防災研 正 中 村 重 久
- (II-5) 千葉運河計画案
芝浦工大 正 〇氏 家 文 弥
" " 〇嶋 田 清 清
- (II-6) 自己上昇式海上足場の機能調査について
鉄道公団 正 大 町 武 司
鉄道建設業協会 " 〇松 本 正 志
" " 中 西 正 志

(休憩 10 分)

総括報告 (波動・碎波)

14:30~16:00

- (II-7) 一樣斜面上における波動理論による波高変化の計算について
北 大 正 佐 伯 浩
水産庁漁港部 " 〇長 野 澤 章
北 大 学 大 吉 吉 耿 介
- (II-8) 進行波の砕波限界に関する実験
京 大 正 岩 垣 雄 一
" " 学 〇酒 井 井 哲 郎
京 都 府 正 〇開 井 沼 淳
京 大 学 正 川 島 毅 毅
- (II-9) 二次波峯現象における非線型性の解析
名 工 大 正 細 井 正 延
" " " 〇石 田 昭 昭
- (II-10) 流れを遡上する波の減衰について
東 北 大 正 岩 崎 敏 夫
" " 学 〇佐 藤 道 郎
- (II-11) 流れをさかのぼる波の変形に関する実験的研究
農 業 土 試 正 中 村 充
" " " 〇白 石 石 彦
" " " 〇佐 木 泰 雄
- (II-12) 単純隅角周辺の波高分布の近似解法
徳 島 大 正 三 井 井 宏
" " 学 〇筒 井 井 茂 明
- (II-13) 回折波の簡易計算法
徳 島 大 正 〇三 井 井 宏
" " 学 〇筒 井 井 茂 明

大阪科学技術センター 4階 401号室

11月7日(土)

総括報告 (波の打上げ・越波)

9:00~10:30

- (II-14) 現地海岸における波のうけあげに関する一考察 (第4報)
日大理工 正 久 宝 雅 史
" " " 〇竹 沢 三 雄 雄
日大生産工 " " 藤 藤 三 茂 勝
- (II-15) 波の打ち上げ高さに及ぼす海洋構造物の形状効果について
阪 大 正 樺 木 亨
" " " 〇岩 田 好 一 朗
" " " 〇周 子 純 純
- (II-16) 越波水量と遡上波形との相関性について
中 部 工 大 正 高 田 彰
- (II-17) 護岸に沿う走り波の研究
東 洋 大 正 本 間 仁
" " " 〇吉 沢 正 広
" " " 〇荻 原 国 国
- (II-18) 斜め入射波による越波に関する実験
関 西 大 正 〇井 上 雅 夫
京大防災研 " 土 屋 義 義 夫人
- (II-19) 孤立波の越波量に関する実験的研究
北 京 大 学 〇花 安 繁 郎
東 京 都 大 正 佐 佐 木 真 真
北 京 大 正 佐 佐 木 真 真 浩
- (II-20) 消波のりおおいブロックの越波に関する実験
日大理工 正 〇久 宝 雅 史
東 京 都 大 正 〇久 宝 雅 史
日大理工 " 〇久 宝 雅 史
" " " 〇久 宝 雅 史

(休憩 10 分)

総括報告 (波力および消波工)

10:40~12:00

- (II-21) 円柱に作用する波力の分布に関する研究
京大防災研 正 土 屋 義 人
" " " 〇山 口 正 隆
- (II-22) 透過層による波力の減衰について
阪 工 大 正 〇久 保 弘 一
" " " 〇井 田 保 夫 夫
- (II-23) 波動中の物体の振動に関する 2, 3 の実験
東 工 大 正 吉 川 秀 夫
大 林 組 " 〇坪 野 井 二 夫
" " " 〇坪 野 井 二 夫 修
- (II-24) 異形ブロックの抵抗係数について
建 土 研 正 富 永 正 照
" " " 〇坂 本 本 忠 彦
- (II-25) 消波工を内蔵した岸壁の消波効果について
北 海 土 試 正 鴻 上 川 三
" " " 〇時 高 松 雄 夫
" " " 〇時 高 松 雄 夫 幸
- (II-26) 反射率に関する研究
阪 工 大 正 久 保 弘 一
" " " 〇井 田 保 夫 夫

(休憩 60 分)

総括報告 (漂砂)

13:00~14:20

- (II-27) 波による水平床での砂の移動特性
建 土 研 正 富 永 正 照
" " " 〇橋 本 本 宏 宏
- (II-28) 進行波による dune の発生に関する研究
名 工 大 正 細 井 正 延
" " " 〇石 田 昭 昭
関 西 大 " 〇平 山 秀 夫
- (II-29) 碎波帯内の浮遊砂と碎波形態
東 大 正 堀 川 清 司
" " 学 〇福 井 井 直 治

- (II-30) 防波堤沿いの漂砂に関する実験的考察
室蘭工大 正 境 隆 雄
" " " 〇近藤 藤間 俊 郎
" " " 〇藤 藤 間 俊 郎
- (II-31) 富山県宮崎漁港の漂砂に関する研究(1)——底質および埋没の特性について——
京大防災研 正 土 屋 義 人
鳥取大 " 〇野 田 英 明
京大防災研 " 〇芝 野 田 英 明
- (II-32) 飛砂における砂粒の運動機構に関する実験的研究(1)——砂粒の saltation について——
京大防災研 正 土 屋 義 人
京大 " 〇河 田 英 明

(休憩 10 分)

総括報告(海浜変形・河口閉塞)

14:30~15:50

- (II-33) 風波による海浜変形に関する実験的研究(1)
京大防災研 正 土 屋 義 人
京大 " 〇吉 岡 大 茂
- (II-34) 海浜変形の研究——汀線付近の水平方向の変動——
名城大 正 青 木 保 雄
" " " 〇伊 藤 政 博
- (II-35) 部分重複波による質量輸送と防波堤基部の洗掘
京大防災研 正 野 田 英 明
- (II-36) 石狩川の河口特性に関する 2, 3 の実測例
北海土試 正 鴻 上 雄 三
" " " 〇高 松 光 幸
- (II-37) 河口部における砂の堆積現象に関する一実験
東大 正 堀 川 清 司
" " " 〇銚 川 仁 登 嗣
- (II-38) 河口閉塞にともなう河道内水位変動の解析的研究
阪大 正 樫 木 亨
港湾技研 " 〇小 舟 浩 治

(休憩 10 分)

総括報告(密度流)

16:00~17:00

- (II-39) 風波に対する密度成層の安定性(2)
電研 正 和 田 明
" " " 〇片 野 尚 明
- (II-40) 流水中での放流水脈の挙動について
埼玉大 正 嶋 祐 之
- (II-41) シリンダーゲートの温水取水効率に関する研究
日本工営 正 〇林 憲 吉
" " " 〇藤 野 利 夫
- (II-42) 成層流からの取水について——流れに及ぼす障害物の影響——
京大 正 岩 佐 義 朗
" " " 〇野 野 正 人

大阪科学技術センター 4 階 401 号室

11 月 8 日(日)

総括報告(流出 1)

9:00~10:00

- (II-43) 航空写真と電子計算機を利用した雨水流出解析方法の開発
東大生研 正 丸 安 隆 和
" " " 〇村 井 俊 治
- (II-44) 融雪出水に関する基礎的研究
金沢大 正 高 瀬 信 忠
" " " 〇野 村 継 男

- (II-45) 融雪流出のシミュレーションモデルについて
北大 正 山 岡 勲
" " " 〇藤 田 博 博
" " " 〇学 加 島 陸 哲
- (II-46) 降雨域およびその移動が流出に及ぼす影響(第 2 報)
東大 正 高 橋 裕
建土研 " 〇虫 橋 明 功
" " " 〇橋 本 臣 健

(II-47) (欠番)

- (II-48) 基本高水決定における降雨波形の処理について
京大 正 石 原 藤 次 郎
" " " 〇田 中 雄 作

総括報告(流出 2)

10:00~10:50

- (II-49) 損失雨量の推定について
九大 正 篠 原 謹 爾
" " " 〇高 橋 英 邦
- (II-50) 等価粗度法による流出解析について
建土研 正 〇松 原 重 昭
" " " 〇横 尾 将 位
- (II-51) 山腹斜面浸透と浸透水が斜面安定に及ぼす影響について
水資源公団 正 〇橋 恒
名大 " 〇西 畑 勇 夫
- (II-52) 山岳斜面における表面流出発生機構
建土研 正 〇青 木 佑 久
" " " 〇前 山 利 雄
- (II-53) 山腹からの流出観測
京大防災研 正 石 原 安 雄
" " " 〇小 葉 竹 重 機

(休憩 10 分)

総括報告(流出 3)

11:00~11:50

- (II-54) 河道分布系と洪水ピークの変換過程
京大 正 〇高 樺 塚 馬
" " " 〇学 横 田 穰 二
- (II-55) 流量減衰部の特性に関する一考察
広島大 正 金 丸 昭 治
" " " 〇三 島 隆 明
- (II-56) 貯留関数法における遅滞時間について
九大 正 篠 原 謹 爾
" " " 〇北 島 崇 雄
- (II-57) 非線型流出系における流出核の計算
東工大 正 〇鋤 柄 徹
" " " 〇正 日 野 野 夫
" " " 〇吉 川 秀 夫
- (II-58) 土地利用の転換にともなう流出形態の変化
京大 正 高 植 塚 馬
" " " 〇学 池 周 一
" " " 〇柴 田 正 治

(休憩 70 分)

総括報告(水文統計・計画 1)

13:00~13:50

- (II-59) 二変数指数分布とその適用に関する研究
京大防災研 正 〇長 尾 正 志
" " " 〇角 屋 陸 隆
- (II-60) 降水量の多重相関分析について
北鴻池組 正 〇星 清
" " " 〇大 泉 正 太 郎
" " " 〇大 泉 正 太 郎
- (II-61) 日降水量系列のシミュレーションに関する研究
京大 正 石 原 藤 次 郎
" " " 〇学 池 周 一

- (II-62) 台風性降雨のシミュレーションに関する研究
 阪 大 正 室 田 明
 " " " 端 野 夫
 大 阪 府 " " 〇 岩 城 道 正
 (II-63) 大雨および洪水発生の特に関する研究
 金 沢 大 正 高 瀬 信 忠
 " " " 学 〇 鈴 木 秀 忠

総括報告 (水文統計・計画 2)
 13:50~14:40

- (II-64) 貯水池群の取水操作に関する検討
 九 大 正 上 田 年 比 古
 " " " 学 〇 小 川 康 彦
 (II-65) 近畿圏における水文量の解析
 阪 大 正 室 田 明
 " " " 学 〇 神 江 剛 正
 " " " " " 〇 角 湯 剛 正
 (II-66) はんらん確率論的評価について
 京大防災研 正 石 原 安 雄
 " " " " " 〇 瀬 能 邦 雄
 (II-67) 河道貯留の表現法について
 京 大 正 岩 佐 義 朗
 " " " " " 〇 井 上 松 和 昭
 " " " " " 学 〇 常 松 芳 昭
 (II-68) 貯水池による水供給の信頼性 (第1報)
 阪 大 正 室 田 明
 " " " " " 学 〇 白 井 信 雄
 (休憩 10 分)

個人発表
 14:50~16:20

- (II-69) 山地水源部における流出の観測
 新 潟 大 正 岡 本 芳 美
 (II-70) 利根大堰のオンラインリアルタイムコントロ
 ル
 水 資 源 公 団 正 和 田 浩 伸
 (II-71) (欠番)
 (II-72) 降雨量確率計算の一方法
 建 設 技 研 正 〇 阿 部 勝 久
 " " " " " 〇 赤 木 川 村 晏 雄 博
 (II-73) 流域の起伏に関するスペクトル解析
 岐 阜 大 正 増 田 重 臣
 " " " " " 学 〇 久 保 田 重 臣
 (II-74) 都市河川の基本思想に関する一研究
 東 京 都 正 西 沢 賢 二
 " " " " " " 〇 山 本 弥 四 郎
 (II-75) 入間川流域の災害史
 東 洋 大 正 本 間 仁
 " " " " " " 〇 萩 原 国 宏
 " " " " " " 〇 福 井 吉 孝

大阪科学技術センター 4 階 405 号室
 11 月 6 日 (金)

総括報告 (掃流砂)
 13:00~14:30

- (II-76) 二、三の掃流砂量公式の比較検討
 武 蔵 工 大 正 王 方 一
 (II-77) 掃流砂の移動に関する基礎的研究
 東 大 学 池 田 駿 介
 (II-78) 移動床付近の流れ
 神 戸 大 正 箕 源 亮
 " " " " " 学 〇 浦 川 和 男

- (II-79) (欠番)
 (II-80) 急流河川の流出土砂の推算について
 徳 島 大 正 〇 堀 勝 也
 " " " " " 〇 杉 尾 捨 三 郎
 徳 島 県 " " 〇 富 士 捨 武 治
 (II-81) 大礫の限界掃流力に関する実験的研究
 建 土 研 正 〇 田 畑 清
 " " " " " 〇 市 瀬 榮 彦
 (II-82) 溪流における巨れきの移動機構について
 大 阪 府 高 専 正 〇 大 同 淳 一
 " " " " " " 〇 坂 本 吉 一
 (休憩 10 分)

総括報告 (浮遊流砂)
 14:40~16:00

- (II-83) 浮遊流砂に関する雑考 (その 2)
 建 土 研 正 須 賀 亮 三
 (II-84) 浮流砂量について
 九 大 正 橋 東 一 郎
 " " " " " 〇 平 野 宗 訓 夫 甫
 (II-85) 浮遊砂の浮上機構について
 建 土 研 正 〇 土 屋 昭 彦
 " " " " " " 〇 星 畑 国 彦 松
 (II-86) 浮遊砂濃度の測定方法について
 京大防災研 正 〇 道 上 正 規
 兵 庫 県 " " 〇 白 川 清
 (II-87) 貯水池の濁度に関する考察
 名 大 正 〇 足 立 昭 平
 中 部 電 力 " " 〇 近 藤 寛 通

大阪科学技術センター 4 階 405 号室
 11 月 7 日 (土)

総括報告 (河床変動・その 1)
 9:00~10:00

- (II-88) 河床の波の形成について
 東 北 大 正 坂 本 龍 雄
 " " " " " 学 〇 三 王 英 寿
 (II-89) 河床変動に対する境界条件の影響
 京大防災研 正 芦 田 和 男
 (II-90) 流路の変動特性に関する研究
 京大防災研 正 芦 田 和 男
 " " " " " " 〇 村 本 嘉 雄 二
 " " " " " " 〇 奈 良 井 修
 (II-91) 河川蛇行における曲率変化の統計的解析
 北 大 正 〇 長 谷 川 和 義
 十 条 紙 " " 〇 木 村 正 博 敷
 北 大 " " " " 〇 山 岡 正 敷
 (II-92) 満砂砂防堰の調節砂量の算定
 名 大 正 西 畑 勇 夫
 " " " " " 学 〇 伊 藤 藤 夫
 " " " " " " 〇 鍵 富 彦 夫

総括報告 (河床変動・その 2)
 10:00~11:10

- (II-93) 分級作用を伴う河床変動
 九 大 正 〇 平 野 宗 夫
 " " " " " " 〇 碓 碓 謙 三
 (II-94) 河道横断形状の表現法についての一試案
 建 土 研 正 〇 星 屋 昭 彦
 " " " " " " 〇 浜 谷 国 武 彦 松 治
 (II-95) 沖積流路変動における流路幅変化の特性
 名 大 正 〇 足 立 昭 平
 " " " " " 学 〇 中 藤 達 昭

- (II-96) 流路の拡幅について
九 大 正 樁 東 一 郎
" " 学 平 野 宗 夫
" " " 田 中 耕 夫
- (II-97) 洪水時河床変動の実測と計算
雲 研 正 白 砂 孝 夫
" " 研 " 安 芸 周 一
" " " 齋 藤 茂 夫
- (II-98) ダムの堆砂に関する実験(補足)
日 大 正 粟 津 清 蔵
日 大 工 " 木 村 喜 代 治

(休憩 10 分)

総括報告(粗度・水制・洗掘)
11:20~12:10

- (II-99) テトラポッドの粗度に関する実験
東 工 大 正 吉 川 秀 夫
テトラポッド " 遠 藤 泰 夫
" " " 前 田 建 夫
- (II-100) 護岸法覆工の粗度について
北 開 土 試 正 小 川 芳 昭
" " " 竹 本 成 行
" " " 村 端 克 巳
- (II-101) 弯曲部における水制の作用について
九 大 正 樁 東 一 郎
" " 学 長 江 元 義 夫
- (II-102) 橋脚の囲りの洗掘について
日 大 理 工 正 粟 津 清 蔵
" " " 大 津 岩 夫
長 崎 県 " 中 谷 忠 臣

(休憩 50 分)

個人発表

13:00~14:20

- (II-103) 超音波による河川流速測定の実用化
建 土 研 正 木 下 武 雄
- (II-104) 開水路における超音波の到達距離におよぼす垂
直温度勾配の影響
東 工 大 樁 密 研 正 奥 島 基 良
- (II-105) M系列変調超音波ドブラ流速計とそれによる実
測例
東 工 大 樁 密 研 正 奥 島 基 良
" " " 大 槻 茂 雄
- (II-106) 河の中に障害物の置かれた流れ
神 戸 大 正 杉 本 修 一
明 石 高 専 " 西 村 益 夫
- (II-107) 流体の中におかれた円柱の干渉について
東 工 大 正 吉 川 秀 夫
" " " 河 野 二 夫
- (II-108) 壁面に衝突する球の仮想質量
東 工 大 正 沢 本 正 樹
新 日 鉄 " 石 谷 邦 治

(休憩 10 分)

総括報告(乱流と噴流)

14:30~15:50

- (II-109) 自由落水脈の水クッション中における噴流拡
散の相互干渉に関する実験的研究
北 大 正 山 岡 敷 義
" " " 長 谷 川 和 信
北海道庁 " 野 村 昌 信
- (II-110) 鉛直上向き噴流による Water Curtain の基礎
的研究(第4報)
傾斜密度噴流の水理特性について——
阪 大 正 村 岡 浩 爾
" " 学 芳 田 利 春
" " " 赤 井 親 也
- (II-111) 河川における乱子の広がりについて
京 大 防 災 研 正 余 越 正 一 郎

- (II-112) 開水路流れにおける乱れの相似性について(第
2報)
京 大 防 災 研 正 今 本 博 健
- (II-113) 濃尾用水における乱れ計測について
京 大 防 災 研 正 今 本 博 健
" " " 上 野 鉄 男
- (II-114) 河川の乱れと流量測定 of 精度に関する研究
北 大 正 岸 力
" " 正 森 山 健 一
" " " 平 明 健

(休憩 10 分)

総括報告(不定流)

16:00~17:20

- (II-115) 台形水路の跳水について(2)
日 大 理 工 正 粟 津 清 蔵
" " " 大 津 岩 夫
- (II-116) (欠番)
- (II-117) ダム放水路流れの不安定現象について
日 立 進 船 正 巻 幡 敏 秋
- (II-118) 不規則断面河道の洪水流
京 大 防 災 研 正 高 橋 保
- (II-119) 自然河川における不定流解析についての考察
電 研 正 秋 元 保
- (II-120) 開水路と管路とが共存する複雑な水路系のサー
ジングについて
日 本 工 営 正 林 憲 吉
" " " 廣 瀬 典 昭

大阪科学技術センター 4 階 405 号室

11 月 8 日(日)

総括報告(局所流)

9:00~10:30

- (II-121) (欠番)
- (II-122) シル周辺における開水路流れの特性
京 大 正 中 川 博 次
" " 学 鈴 木 幸 一
- (II-123) 円形水路における自由流出口付近の流れにつ
いて
日 大 理 工 正 粟 津 清 蔵
" " " 近 藤 勉 夫
- (II-124) く形橋脚前面の流況について
京 大 防 災 研 正 宇 民 正
- (II-125) 河川合流点における流れの機構の研究
北 大 正 板 倉 志 興
" " 学 須 藤 靖 彦
- (II-126) 水路合流点における水面形について
岐 阜 大 正 河 村 三 郎
" " " 小 沢 功 一
- (II-127) 複断面わん曲水路の水理特性(その1)
建 土 研 正 馬 場 洋 二
- (II-128) 開水路弯曲部の流れの研究
神 戸 大 正 松 梨 順 三 郎

(休憩 10 分)

総括報告(発電水力)

10:40~12:00

- (II-129) (欠番)
- (II-130) 水撃圧の負圧について(第2報)
山 梨 大 正 荻 原 能 男
" " 学 砂 田 憲 春
" " " 小 原 仁 宏
- (II-131) ゲートに働くアップリフト消去法について
東 洋 大 正 本 間 仁 宏
" " " 林 国 栄
建設技研 " 萩 原 港

- (II-132) 長径間ゲートの振動解析及び水理実験と実測の比較
水資源公団 正 荒 木 正 夫
- (II-133) 傾斜底水門の圧力分布特性
広島大 正〇名 合 宏 之 司
島 学 桐 原 圭
- (II-134) 流出渦に関する研究
山梨大 正 荻 原 能 男
(休憩 60 分)

総括報告 (浸透流)
13:00~14:20

- (II-135) 間引き水圧性からみた飽和砂層の安定性について
京 大 正 石 原 藤 次 郎 勝
" " "〇尾 島
- (II-136) 浸透層内の流れの分散機構について
京 大 正 岩 佐 義 朗 等
" " "〇武 内
- (II-137) 多孔媒体中の分散に関する基礎的研究
東 大 正〇玉 井 信 行 哺
" " "〇広 沢
- (II-138) 長方形領域の中央軸上にない暗きよの取水量解析
九 大 正 上 田 年 比 古 哲
" " "〇杉 尾
- (II-139) 自由地下水面がある有限領域内の暗きよの取水量解析
九 大 正 上 田 年 比 古 哲 二
" " "〇神 野 健
- (II-140) アースダム浸透流の三次元解析
京大防災研 正 岡 太 郎
(休憩 10 分)

個人発表
14:30~15:40

- (II-141) 海水飽和地盤内部の暗きよからの淡水浸透 (第2報)
九州産業大 正 崎 山 正 常
- (II-142) 土木設計における地形情報処理の役割
東大生研 正〇丸 安 隆 和 治
" " "〇村 井 俊
- (II-143) 砂防ダムの鳴音の研究
三井造船 正 西 川 秀 利
- (II-144) 破碎帯と接続している累層中の地下水の研究
神戸大 正 田 中 茂
- (II-145) 地下水流の浸透機構について (第4報)
大阪府高専 正 佐 藤 邦 明

大阪科学技術センター 4 階 404 号室
11 月 6 日 (金)

総括報告 (活性汚泥)
13:00~14:30

- (II-146) (欠番)
- (II-147) 活性汚泥法における基質の動向 (3) 吸着反応を主とする有機物除去について
北 大 正 寺 島 重 雄 一 基 賢
" " "〇真 柄 桂 泰 光
" " "〇宇 士 沢 光
- (II-148) 活性汚泥法の酸素摂取挙動について (その1)
北 大 学 〇加 善 盛 壯
住友重機 正 松 藤 並
- (II-149) 浮遊物質濃度の呼吸速度に及ぼす影響
東 大 正 松 尾 友 矩 博
" " "〇太 田

- (II-150) 壁面に沿う気泡噴流の性質
九 大 正 粟 谷 陽 一 則
" " "〇北 野 義
- (II-151) 種々の大きさのオリフィスから発生する気泡の性状と酸素吸収について
東北大 正 松 本 順 一 郎 正 穂
" " "〇中 菅 村 田 文 秀
仙台市 正

個人発表 (活性汚泥)
14:30~15:00

- (II-152) 活性汚泥法処理における負荷変動の影響について
京 大 正 宗 宮 功 吉 純 洋
" " "〇中 野 村 野 弘 正
" " "〇河 津
- (II-153) 表面曝気による酸素吸収と攪拌について
東北大 正 松 本 順 一 郎 夫
東北工大 "〇羽 田 守 夫
(休憩 15 分)

個人発表 (汚泥処理)
15:15~16:00

- (II-154) 汚泥消化におよぼすクロム, 亜鉛, カドミウムの影響
東北大 正 松 本 順 一 郎 也
" " "〇野 池 達
- (II-155) 汚泥の熱処理に関する研究
早 大 正 遠 藤 郁 夫 和 也
" " "〇兵 頭 和 也
- (II-156) スラッジの熱処理, 脱水プロセスの最適化に関する研究 (第1報)
京 大 正 平 岡 正 勝 織 彦 弘 明
" " "〇橋 本 内 上 伊 政 忠
" " "〇村 長 谷 川

大阪科学技術センター 4 階 404 号室
11 月 7 日 (土)

総括報告 (下水処理)
9:00~10:45

- (II-157) 流入下水の組成について
建 土 研 〇小 堀 和 夫 明
" " "〇岡 沢 邦 明
- (II-158) 下水処理場に流入する負荷量とその変動について
建 土 研 正〇安 中 德 二 也
" " "〇及 川 直 也
- (II-159) 最終沈殿池特性に及ぼす曝気操作の影響
京 大 正 高 松 武 一 郎 明 司
" " "〇内 藤 正 勝
" " "〇色 藤 摩
- (II-160) 粒状活性炭による下水処理水のろ過
東 大 正 綾 日 出 教
- (II-161) 散水ろ床の酸素移動について
早 大 正 遠 藤 郁 夫 平 夫 敏 夫
八戸高専 "〇阿 部 中 敏 夫
" " "〇学 田
- (II-162) 散水ろ床生物の浄化機能に関する基礎的研究
公衆衛生院 〇南 部 沢 一 乘 義
" " "〇黒 南 沢 一 乘 義
- (II-163) し尿の好気性消化に関する温度と負荷について
東北大 正 松 本 順 一 郎 至
" " "〇桃 井 清
- (休憩 15 分)

個人発表 (下水処理)
11:00~11:45

- (II-164) 曝気循環型ろ床による汚水処理の研究
京 大 正 岩 井 重 久
" " " 北 尾 高 嶺
" " " 〇 浦 辺 眞 郎
- (II-165) 下水の凝集処理における有機物の除去特性について
栗田工業 栗山光央
" 正〇向井常雄
- (II-166) 海水添加による濁質の電解凝集処理に関する研究
函館高専 正〇丸山俊朗
" 国鉄 藤田組 " 渡部隆修
" " " " 山浦隆芳
(休憩 75 分)

総括報告 (上水)
13:00~14:15

- (II-167) 懸濁物質の陽イオン交換容量と凝集剤必要量との関係について
公衆衛生院 正中村文雄
- (II-168) 複層ろ過の除去特性に関する一実験的研究
立命館大 正村岡治
- (II-169) 沈澱池最適設計に関する一考察
京 大 正 高 松 武 郎
" " " 内 藤 正 明
" " " 学 〇 芝 正 定 孝
- (II-170) 固液系流動層における粒子挙動の不安定性
九 大 正 粟 谷 陽
" " " 〇 桶 田 哲 一
- (II-171) 上水汚泥の脱水に関する研究
北 大 正 〇 丹 保 憲 仁
" " " 小 笠 原 一
千代田化工 " 小川上 二元

個人発表 (上水)
14:15~15:30

- (II-172) マイクロブロック法について
東 北 大 正 佐 藤 敦 久
" " " 〇 浜 谷 光 昭
- (II-173) 沈澱池短絡流の周辺流との水量・水質交換量について
京 大 正 末 石 富 太 郎
" " " 住 友 善 恒
" " " 〇 栄 田 久
- (II-174) 弾力的処理能を考慮した施設設計について
京 大 正 末 石 富 太 郎
" " " 〇 住 友 善 恒
- (II-175) 配・給水系統における水質変化について (1)
京 大 学 〇 海 老 瀬 潜 一
" " " 正 合 田 健
- (II-176) 配水管網の設計
北 大 正 高 桑 哲 男
(休憩 15 分)

総括報告 (下水計画と設計)
15:45~16:45

- (II-177) 住宅地における雨水流出量について
北 大 正 寺 島 重 雄
" " " 学 〇 神 山 桂 一郎
" " " " 高 畑 征 三
- (II-178) 都市域の雨水出現象に影響する2,3の要素の実態的検討 (第1報) —— 雨水損失の影響とその評価 ——
建設省 正〇稲場紀久雄
" 研 " 〇 横 尾 将 位
- (II-179) 都市域の雨水出現象に影響する2,3の要素の実態的検討 (第2報) —— 都市化による流出ハイドログラフの予測と問題点 ——
建設省 正 稲 場 紀 久 雄
" 研 " 〇 松 原 松 昭
" " " " 〇 横 尾 将 位

- (II-180) 市街地排水区域における表面工種分布図作成の自動化
鳥取大 正 寺 西 靖 治
- 個人発表 (下水計画と設計)**
16:45~17:15
- (II-181) 広域下水道システムの最適計画 (そのI)
京 大 正 〇 高 松 武 一 郎
" " " 〇 藤 正 明
- (II-182) 広域下水道システムの最適計画 (そのII)
京 大 正 高 松 武 一 郎
" " " 〇 内 藤 正 明
" " " 学 〇 岡 藤 本 正 雄

大阪科学技術センター 4階 404号室
11月8日 (日)

個人発表 (廃水処理)
9:00~9:30

- (II-183) 排油の処理について
日大生産工 正学 金岡 井田 昌 邦
" " " 〇 大 野 山 元 郎
" " " 〇 小 目 寺 一 喜
" " " " 久 滋
- (II-184) 畜産排水の処理について
日大生産工 正 金坪 井松 昌 邦
" " " 〇 大 木 寺 宣 章
" " " 学 〇 大 木 寺 宣 章

個人発表 (放射性廃棄物)
9:30~10:30

- (II-185) 遠心分離法による放射性汚泥の脱水について
京大電子炉実験 正 筒 井 天 尊
" " " 〇 下 金 浦 川 一 邦
" " " " 昭
- (II-186) 重金属の水産生物への濃縮機構——その確率論的考察——
京 大 正 岩 井 重 久
" " " 学 〇 青 井 山 山 川 重 頼
" " " " 吉 山 川 重 頼
- (II-187) ⁶⁰Co の地下水中での移動
京大電子炉実験 正 筒 井 天 尊
" " " 〇 西 井 牧 研 壮
- (II-188) 放射性廃棄物の地中処分に関する一試算
京 大 正 井 上 頼 輝
" " " 学 〇 森 沢 真 輔

(休憩 15 分)

個人発表 (都市・産業廃棄物)
10:45~12:00

- (II-189) 都市ごみの性状の変化について
京 大 正 岩 井 重 久
" 立 造 大 船 " 〇 春 高 竹 鴻
" " " " 〇 高 山 月 紋
- (II-190) 廃棄物の流動を指標とした環境計画の研究
京 大 正 〇 末 石 富 太 郎
" " " 学 〇 盛 岡 通
- (II-191) ごみの炭化とその固型化について
福 岡 大 正 〇 花 島 正 孝
" " " " 〇 大 林 和 竹
" " " " 〇 三 好 千 鶴
" " " " 〇 三 好 サチ 史 枝 子
- (II-192) プラスチック廃棄物焼却処理に関する実験的考察
京 立 大 正 岩 井 重 久
" 日 造 大 船 " 〇 春 高 山 山 川 鴻
" " " " 〇 大 学 岡 田 宏 道

(II-193) 固形廃棄物埋立地盤の性状と土地利用に関する
考察

三井共同建設C 正 前 田 慶 之 助
" " " 〇 齋 藤 征 剛

(休憩 60 分)

個人発表 (騒音・大気汚染)

13:00~14:15

(II-194) 市街地における騒音伝播の模型実験

京 大 正 山 本 剛 夫
" " " 〇 高 橋 興 和
京都市衛研 " 〇 橋 本 本 井
大 阪 府 " 〇 厚 井 弘 平

(II-195) 自動車排ガスによる環境汚染の一例

京 大 正 平 岡 正 勝
" " " 〇 高 池 内 正 彦
" " " 〇 村 上 田 有 光
" " " 〇 村 上 忠 弘

(II-196) 大気環境基準について (その3)

関 西 大 正 庄 司 光
京大電子研実験 " 〇 塚 谷 恒 雄

(II-197) 大気汚染濃度計算モデルについて

京 大 正 高 松 武 一 郎
" " " 〇 平 池 岡 正 勝
" " " 〇 学 北 田 有 光
" " " 〇 学 北 敏 弘

(II-198) 都市の局地汚染に関する風洞実験

京 大 正 山 本 剛 夫
" " " 〇 西 小 寺 敦 太
" " " 〇 学 佐 藤 誠 正
" " " 〇 学 近 藤 宏 文

個人発表 (水質汚濁)

14:15~14:45

(II-199) ダム構築による水質変化の予想法

建 土 研 正 〇 山 本 晃 一 夫
東 工 大 " 〇 吉 川 秀

(II-200) 寝屋川汚濁の解析

京 大 正 岩 井 重 久 輝
" " " 〇 井 上 頼

総括報告 (水質汚濁)

14:45~16:15

(II-201) 感潮域における硫化水素の発生について

建 土 研 正 〇 長 谷 川 清 健
" " " 〇 村 上

(II-202) 下水処理水の藻類生産力に関する実験

東 大 学 大 垣 真 一 郎

(II-203) ヨーロッパの緩流河川 (運河) 中の溶存酸素濃度曲線について

東 大 正 市 川 新

(II-204) 有機汚濁河川の自浄作用について

北海土試 正 伊 藤 洋 二

(II-205) (欠番)

(II-206) 水質汚濁の面制御に関する基礎的考察

京 大 正 末 石 富 太 郎
" " " 〇 学 塩 崎 康 弘

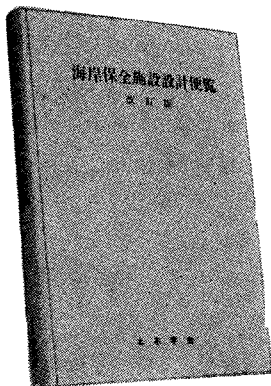
海岸保全施設設計便覧

土木学会海岸保全施設設計便覧改訂小委員会編

改訂版

昭和 32 年以来、丸 12 年ぶりに全面改訂された決定版、36 名におよぶ執筆者が、それぞれ得意な分野を手分けして執筆。とくに現場に直接役立つよう設計施工面に重点をおいて記述した。

B5・304 ページ 2300 円 (全冊 2000 円・〒100 円)



〈主要目次〉 第1章 海岸における水理現象 1. 概論 2. 波の概説 3. 深海波 4. 浅海波 5. 波力 6. 潮位 7. 津波 8. 流れ 9. 漂砂 10. 飛砂
第2章 海岸調査 1. 気象観測 2. 波の観測 3. 漂砂の調査 4. 土質調査 5. 流れの観測
第3章 1. 概論 2. 材料 3. 消波工 4. 堤防と護岸 5. 突堤と離岸堤 6. 導流堤 7. 養浜 8. 防潮水門 9. 特殊海岸工事
付表・索引

東京都新宿区四谷1丁目
電話 03-351-4131番

発行：社団法人 土木学会
振替 (東京) 16828 番

第 III 部門 (土質・基礎・土木機械・施工・トンネルなど)

日本生命中之島研修所 6 階ホール
11 月 6 日 (金)

総括報告 (杭・矢板)

13:00~14:20

- (III-1) ゆるい砂層における杭の支持力試験
九州産業大 正 石 堂 稔
三信基礎 " 野間口 明
" 後藤 重 義典
- (III-2) 杭の水平抵抗に関する 2, 3 の考察 (第 3 報)
立命館大 正 勝 見 雅
- (III-3) 土の状態と杭の貫入抵抗との関係について
武蔵工大 正 成 山 元 一
- (III-4) 杭周囲の粘土のクリープに関する実験
阪大 正 伊藤 富 雄
大阪府高専 " 庄 子 徹
- (III-5) 群杭のネガティブフリクションに関する実験的研究
阪大 正 伊藤 富 雄
" " 学 平 井 孝 保典
- (III-6) 杭の動特性に関する波動論的考察
東工大 正 白本 砂 健
住友建設 " 野 秀 世
東大震研 " 伯 元 彦
- (III-7) 土の弾性特性の行列表示について
早大 正 宮 原 玄
- (III-8) 杭座屈に関する研究 (その 1)
法政大 正 山 門 明 雄
" " 学 徳 田 永 親 弘 博

(休憩 10 分)

個人発表 (杭・矢板)

14:30~16:00

- (III-9) 先端円錐角度の異なる杭の杭周地盤の破壊領域
名城大 正 柴 田 道 生
- (III-10) 振動荷重を受けた基礎杭の挙動
道路公団 正 佐藤 昭
大成建設 " 荒向 川 直 浩
室蘭工大 正 能 町 純 雄
北開土試 " 森 康 夫
- (III-11) 鋼管矢板の応力計算について
川崎製鉄 正 嶋 文 雄
" " 加 藤 親 男
" " 齊 藤 恂
- (III-12) 鋼管矢板井筒の曲げ剛性に関する実物実験
住友金属技研 正 久 光 文
" " 白 川 潔
- (III-13) 鋼管矢板井筒の剛性について
川崎製鉄 正 嶋 文 雄
" " 加 藤 親 男
" " 齊 藤 恂
- (III-14) 各基礎形式に共通する基本的設計法
国鉄構設 正 森 重 龍 馬
" " 高 橋 光 昭
" " 志 村 直

日本生命中之島研修所 6 階ホール
11 月 7 日 (土)

個人発表 (岩盤)

9:00~10:30

- (III-15) 岩盤内のジョイント機構に関する一考察
京大 正 山本 和 夫
- (III-16) 弾性波速度による岩石の強度推定および 2, 3 の応用
熊本大 正 井上 康
" " 大 見 美 智 人
" " 新 川 健 二
- (III-17) 岩盤せん断試験における破壊機構について
阪大 正 伊藤 富 雄
大成建設 " 藤井 秀 司
" " 小 寺 則 則
- (III-18) 応力状態の変化にともなうぜい性材料の変形定数の変化
中日本建設 C 正 富 田 和 政
" 大 " 秋 本 昌 胤 嵐 方
" " " 川 本 本
- (III-19) 異方性粘弾性体に対するレオロジー方程式について
神戸大 正 桜井 春 輔
- (III-20) 硬質粘土の土的性質および岩石の性質
阪市大学 柳 大 夏

(休憩 10 分)

個人発表 (砂の変形・強度)

10:40~11:55

- (III-21) 粒状体力学の解析に関する一考察
東北大 正 佐武 正 雄
- (III-22) 粒状体の力学的性質に関する実験
東大震研 正 浅野 照 雄
東北大 " 佐武 正 雄
- (III-23) 砂の応力・変形理論について
京大防災研 正 村山 朔 郎
- (III-24) 土質材料構成方程式の多相混合体としての考察
京大 正 足立 紀 尚
- (III-25) 改訂された「土質試験法」におけるセン断試験法の考え方と問題点
阪市大 正 笠 正 人

(休憩 65 分)

個人発表 (砂の変形・強度)

13:00~15:15

- (III-26) 粒状体のせん断時の体積変化について
九大 学 落合 英 俊
" " 正 山 内 豊 聡
- (III-27) 砂の変形特性
東大 学 龍岡 文 夫
- (III-28) 粒状体の間ゲキ分布に関する実験的研究 (第 1 報)
明石高専 正 福本 武 明
- (III-29) 粒状体の変形機構について
東大 正 最上 武 雄
- (III-30) 乾燥砂の強度と変形特性について
北大 正 中村 耕 次
" " 土 岐 祥 介
- (III-31) 高拘束圧下における砂のセン断特性について
九州工業技試 正 三浦 彦
九 " 大 " 山 浦 豊 聡
" " 学 中 村 豊 裕
- (III-32) (欠番)
- (III-33) えびの・吉松地域のシラスのセン断特性について
鹿児島大 正 春山 元 寿
九 " 大 吉 岩 松 元 行 賢

- (III-34) 有限要素法による一面せん断試験機内の応力解析
 東 工 大 正 山 口 柏 樹
 " " " " 村 田 村 孟
 " " " " 学 小 倉 迫 朝
 (休憩 10 分)

総括報告(砂の変形・強度)
 15:25~17:10

- (III-35) 砂質土の構造とせん断強さについて
 阪 市 大 正 三 笠 正 人
 " " " " 〇高 田 直 俊
 " " " " " 木 下 哲 生
- (III-36) 粒状土のせん断抵抗と粒子構造について
 京大防災研 正 村 山 朔 郎
 " " " " 学 〇松 岡 元
- (III-37) せん断中の粒子の移動方向の分布について
 九 大 正 山 内 豊 聡
 " " " " 学 〇青 山 低 宏
- (III-38) 直接せん断時における砂の動き
 東 洋 大 正 赤 木 俊 允
- (III-39) 粒子形状が力学特性に及ぼす影響について-第1報-
 阪 市 大 正 三 笠 正 人
 " " " " 〇望 田 月 直 俊
 " " " " " 秋 利
- (III-40) 乾燥砂のせん断特性について-第2報-
 函館高専 正 佐 野 信 房
- (III-41) 粒状体のせん断強さにおよぼす粒子破碎の影響について
 東 大 学 吉 越 洋

日本生命中之島研修所 6 階ホール
 11 月 8 日 (日)

総括報告(地盤の動的性質)
 9:00~11:00

- (III-42) 動的な地盤反力係数(その1)
 東 電 技 研 正 〇野 口 俊 郎
 " " " " " 堀 口 潤 敏 一
 " " " " " 横 太 郎 郎
 " " " " " 太 孝 孝
- (III-43) 地盤構成と常時微動の性質について
 立 命 館 大 正 〇 山 直 隆
 " " " " " 〇早 川 清 清
- (III-44) (欠番)
- (III-45) 軟弱地盤上盛土の常時微動特性について
 東 北 工 大 正 浅 田 秋 江
 " " " " " 〇森 山 芳 信
 " " " " " 学 神 真
- (III-46) 打撃応力測定による土の動的挙動(2)
 東 海 大 正 森 田 定 市
 " " " " " 〇赤 都 都 一 馬
 " " " " " 学 石 勝 勝
- (III-47) 爆破によるS波の発生機構について
 関 西 大 正 〇谷 口 敬 一 郎
 " " " " " " 野 野 正 征 吉
 " " " " " " 市 村 直 郎 子
 " " " " " " 学 正 浩 正 幸
- (III-48) 地盤内応力波伝播問題の粘弾性学的アプローチ
 京 大 正 〇赤 井 浩 正 一
 " " " " " 学 堀 井 幸 幸
- (III-49) 地震時設計土圧の特性
 名 大 正 〇市 原 松 平 宏
 " " " " " 学 松 沢 宏 平
 (休憩 10 分)

個人発表(地盤の動的性質)
 11:10~11:40

- (III-50) 衝撃的荷重による砂中の応力伝播および分布特性について
 防 衛 大 正 〇佐 藤 紘 志
 " " " " " " 谷 小 谷 平 至 章
 " " " " " " 〇大 大 徳 徳
- (III-51) 間隙率の異なる砂中の音速の測定
 東工大精密研 正 〇 奥 島 基 良
 " " " " " " 〇本 跡 岡 部 誠 一
 " " " " " " " 跡 部 淳 夫
- (休憩 80 分)

総括報告(粘土の変形・強度)
 13:00~14:20

- (III-52) 粘性土の三軸圧縮クリーブ試験とその応力緩和への適用について
 徳 島 大 正 〇小 田 英 一
 " " " " " " 大 阪 府 〇木 村 一 享
- (III-53) ベーンせん断試験による軟弱粘土の強度および流動特性について
 阪 大 正 伊 藤 富 雄
 " " " " " " 〇松 井 信 保
 " " " " " " 学 阿 倍 信 晴
- (III-54) 粘性土の圧密時間とせん断強さについて
 阪 市 大 正 三 笠 正 人
 " " " " " " 〇木 下 哲 生
- (III-55) 平面歪条件のもとでの軟弱粘土のせん断変形について
 広 島 大 正 網 千 寿 夫
 " " " " " " 建 土 研 " 〇石 橋 正 穂
 " " " " " " 北 岡 組 正 〇八 戸 村 裕
 " " " " " " 大 静 岡 県 " " 〇三 松 田 英 明
 " " " " " " 北 大 " " " 〇三 田 地 利 之
- (III-56) 飽和粘性土の非排水せん断試験における最適ヒズミ速度と透水係数との関係について
 北 陸 大 正 〇三 田 地 利 之 宏
 " " " " " " 北 陸 地 建 " 〇納 田 宏
- (III-57) 飽和粘土の強度におよぼす異方圧密・膨張の影響について
 神 戸 大 正 〇軽 部 大 常 蔵
 " " " " " " 群 馬 高 専 正 〇宇 津 木 愛 正
 " " " " " " " 長 谷 川 博 博
- (休憩 5 分)

個人発表(粘度の変形・強度)
 14:25~16:10

- (III-60) 粘土の平面ひずみ-応力-ひずみ関係
 京 大 正 〇島 昭 治 郎
 " " " " " " 学 〇太 田 秀 樹
- (III-61) 三軸(応力状態の) Simple Shear 装置による粘土のせん断特性
 日 大 工 正 杉 内 祥 泰
 " " " " " " 信 州 大 正 川 上 浩
 " " " " " " 長 野 高 専 学 〇阿 部 信 浩
 " " " " " " 信 州 大 学 〇阿 部 信 浩
- (III-62) 不飽和土における近似的 ϕ' の決め方について
 信 州 大 正 〇川 上 浩 雄
 " " " " " " 長 野 高 専 学 〇阿 部 信 浩
- (III-63) (欠番)
- (III-64) 軟弱粘土の温度応答特性に関する実験的研究
 京 大 正 〇松 尾 新 一 郎
 " " " " " " 学 〇嘉 門 雅 史
- (III-65) 固結させた土の変形に伴う強度成分の分担率の変化
 早 大 正 森 藤 麟
 " " " " " " 〇遠 藤 博 博
- (III-66) エネルギー的立場よりの粘性土の性質
 早 大 正 〇後 藤 正 恵 司
 " " " " " " 学 〇綿 引 正 恵 司

日本生命中之島研修所 4階 C 教室

11月6日(金)

総括報告(土の動的性質)

13:00~14:20

- (III-67) 振動三軸圧縮試験による乾燥砂の強度と変形について
北 大 正 〇 土 岐 祥 介
" " " " 〇 鈴 木 輝 之
電 源 開 発 " " 村 良 平
- (III-68) 動的平面ひずみ三軸圧縮試験機による砂のせん断特性
名 大 正 市 原 松 平
" " 学 〇 松 沢 沢 宏
道 路 公 団 正 山 渡 辺 公 夫
" " " " " " 眞 吾
- (III-69) 飽和砂の振動三軸試験について
新 潟 大 正 小 川 正 二
- (III-70) 砂の流動化に対する微視的要因の役割について
九 大 正 山 内 豊 聡
- (III-71) 真砂土の液状化発生条件について
神 戸 大 正 谷 本 喜 一
" " 学 " 〇 菅 菅 好 徳
" " " " " " 浦 智
- (III-72) 砂の液状化に関する一考察
京 大 防 災 研 正 〇 柴 田 徹
川 崎 製 鉄 " " 行 友 浩
- (III-73) 繰返し載荷を受ける粘性土の変形について
早 大 正 後 藤 正 司
" " 学 " 〇 橋 橋 英 男
- (III-74) 繰返し応力を受ける飽和粘土のせん断特性
新 潟 大 大 正 小 川 正 栄 二
東 北 大 〇 柳 沢 沢 司
鹿 島 建 設 " " 渡 辺 彦 豊

(休憩 5分)

個人発表(土の動的性質)

14:25~16:10

- (III-75) 地盤の力学的性質とS波速度との関係
阪 市 大 正 〇 竹 中 準 之 介
" " " " " " 〇 西 垣 垣 好 彦
- (III-76) 三軸ねじり装置を用いた土の動的性質の測定
東 大 正 〇 石 原 研 而
" " " " " " 〇 吉 田 喜 忠
- (III-77) ロックフィルダムの振動破壊実験について
埼 玉 大 正 岡 本 舜 三
東 大 生 研 " " 〇 田 村 重 四
" " " " " " 加 藤 勝 郎 行
- (III-78) 繰返し荷重を受けるセメント処理真砂土の強度特性について
神 戸 大 正 〇 西 井 勝 陽
" " 学 " " 〇 石 井 陽 勝
- (III-79) 動的コンテストと標準貫入試験・一軸圧縮強度との関係
中 堀 ソイル 正 中 堀 和 英
" " 学 " 〇 速 水 水 俊 行
- (III-80) 任意方向振動をうける粒状体の実験について
東 北 大 正 佐 武 正 雄
" " " " " " 〇 田 野 野 久 貴
" " 学 " " " " 関 田 治 貴
- (III-81) ホブキンソン棒法による土の動的挙動
東 海 大 森 田 定 市
" " " " " " 〇 冬 木 都 一 馬 衛

日本生命中之島研修所 4階 C 教室

11月7日(土)

総括報告(施工)

9:00~10:45

- (III-82) ベントナイト・セメント混合土の工学的特性
——泥水工法に関する研究——
大林組技研 正 齋 藤 二 郎
" " " " " " 〇 平 間 二 邦 興
- (III-83) 止水ならびに土留用地中連続壁造成に関する研究(第2報)
大林組技研 正 齋 藤 二 郎
" " " " " " 〇 西 林 清 茂
- (III-84) 流水下における凍結止水実験(1)
藤 田 組 正 石 山 和 雄
" " " " " " 〇 石 井 武 博 美
- (III-85) 土工機械作業部分の土砂礫による摩耗について
京 大 正 島 昭 治 郎
福 井 大 " " 〇 室 昭 達 朗
- (III-86) 切削刃の貫入抵抗係数について
京 大 正 島 昭 治 郎
" " " " " " 〇 岡 村 徳 見
- (III-87) 堤防の破壊原因と補強対策の一試み
建 土 研 〇 山 村 和 也 行
" " " " " " 久 楽 勝 也
- (III-88) 調査・施工管理へのRIの新しい利用法について
鹿 島 技 研 正 有 泉 昌
" " " " " " 〇 山 本 本 毅 史

(休憩 15分)

個人発表(施工)

11:00~11:45

- (III-89) 京葉線多摩川河底沈埋工法の問題点
鉄 道 公 団 正 大 平 拓 也
" " " " " " 〇 鳥 取 取 孝 雄
- (III-90) 圧気掘さくによる砂れき層の発熱について(その2)
大 阪 市 正 〇 道 田 淳 一
" " " " " " 〇 八 木 正 一
- (III-91) 玉石の打撃破砕に関する実験的研究
大林組技研 正 齋 藤 二 郎
" " " " " " 〇 芳 賀 賀 孝 成

(休憩 75分)

個人発表(トンネル・土圧)

13:00~14:30

- (III-92) サイロ内の弾性応力について
東 工 大 正 木 村 井 孟
" " " " " " 〇 藤 井 齊 昭
- (III-93) トンネル切羽周辺に応用解析
名 大 正 〇 齋 藤 敏 明
" " " " " " 〇 川 本 本 明 方
- (III-94) 粘性土の流動に基づくトンネル土圧について
京 大 防 災 研 正 村 山 朝 郎
熊 谷 組 技 研 " " 〇 藤 本 本 徹 徹
- (III-95) セグメントの継手による断面力の伝達について
都 立 大 正 山 本 稔 夫
明 星 大 " " 〇 孤 島 法 夫
- (III-96) レート積分ジャイロを使用した探北装置について
電 々 電 通 研 正 岩 崎 博 弥
- (III-97) めがね形駅シールドの設計——8号線永田町駅の場合——
帝 都 交 通 営 団 正 渡 辺 健

(休憩 10分)

総括報告 (トンネル・土工)

14:40~16:40

- (III-98) 滞水砂礫層におけるシールド推進について
電々東通局 正○小竹 繁文
日本通信建設 宮 沢 俊
- (III-99) 既設地下構造物に作用する土圧へのシールド掘進による影響に関する研究
早大 正 村上 博 智弘
鹿島技研 "○万 木 正
- (III-100) セグメントリングの耐荷機構に関する研究
早大 正 村上 博 智弘
佐藤工業技研 " " 石橋 博 智弘
国土館大 " " 菊田 正 智弘
佐藤工業技研 "○岩 藤 正 智弘
- (III-101) 圧気シールド工事における空気消費量の現場測定について
鹿島技研 正 木島 詩利 一郎
" " ○菰 本 田 義
- (III-102) シールド工事における現場透気試験について
鹿島技研 正○木島 詩利 一郎
" " " 橋 本 田 義
- (III-103) (欠番)
- (III-104) シールドセグメントに作用する土圧に関する実験的研究 (粘性土地盤)
大林組技研 正 斉藤 二 郎章夫
" " "○藤 原 紀 夫
- (III-105) 内圧をうける素掘円形トンネル周辺地山の弾塑性問題について
徳島大 正 小山 英 一男
" " "○山 橋 上 本 正

日本生命中之島研修所 4階 C 教室

11月8日 (日)

総括報告 (土質改良)

9:00~10:30

- (III-106) 地盤注入したケミカルグラウトの浸透性と浸透圧
東大生研 正 三木五三 郎徳平
" " "○今村 芳 宏
東邦化学 " 佐野 宏
- (III-107) 加水反応型地盤注入薬液の固結に関する模型実験について
大林組技研 正 斉藤 二 郎章夫
" " "○内藤 純 二
- (III-108) 弾性波による安定処理土の推定
広島工大 正 鈴木 健 夫
- (III-109) MAIS 工法と、その効果測定について
広島工大 正 鈴木 健 夫
" " "○島 重 章
- (III-110) ソイルブロック工法の研究 (5)
千葉工大 正 清水 英 治勉
" " "○渡 辺 勉
- (III-111) 極めて軟弱な地盤の改良における 2, 3 の施工管理法について
鹿島技研 正 木島 詩利 一郎
" " "○山 橋 上 本 正
" " "○野 村 幸

(休憩 10 分)

個人発表 (土質改良・施工)

10:40~11:55

- (III-112) 地盤改良工事における砂ぐい打設時の粘性土の乱れについて
港湾技研 正○木堀 庭江 宏 美保
" " " " 江 宏
- (III-113) 土被り厚さと薬液の注入圧について
間組技術局 正 藤田 主 一基衛
" " "○上下 村 嘉 平
- (III-114) 凍上変位計算法
精研冷機 正 高 志 勤暢
" " "○戸 部 志
- (III-115) 海中型棒工法における型枠漏洩防止実験
鉄道公団 正 藤森 房 司郎志
鉄道建設業協会 " " 宗 村 武
" " "○今 村 志
- (III-116) コンクリート破砕薬による材料の破壊について
京大 正 伊藤 藤 一郎
" " "○佐藤 々 本 親
西松建設 " " 谷 本 親
(休憩 65 分)

総括報告 (土性・特殊土)

13:00~14:20

- (III-117) 関東ロームのコンシステンシー限界に関する二、三の考察 (その 2)
中央大 正 久野 悟 郎夫
木更津高専 "○飯 竹 重
 - (III-118) 関東ロームの静的圧縮成形について (報告 2)
中央大 正 久野 悟 郎夫
藤田組技研 "○和 泉 四
 - (III-119) 溶脱作用を受けた関東ロームの土性変化
日大理工 正 浅川 美 利樹
" " "○宮 森 建 樹
 - (III-120) マサ土粒子の破砕性について
京大 正 松尾 新一 郎平
" " "○澤 新 孝
 - (III-121) 黒ボクの工学的特性の一考察——各務原・桔梗原地域について——
名城大 正 河内 睦 雄夫
" " "○岡田 富 士司
" " " 稲 垣 隆
 - (III-122) 沖積洪積粘性土の粒度特性及び活性について
松江高専 正○鈴木 鹿 央肇夫
" " " 学 江 島 光
 - (III-123) 砂の最大間ゲキ比の測定法
北水資源公団 正○北郷 繁 敏介
" " " 大 正 土 上 岐 一 祥
 - (III-124) 礫混り土の間隙比特性について (その I)
福岡大 正 吉田 信 夫
(休憩 10 分)
- 個人発表 (土性・特殊土)
14:30~16:00
- (III-125) 日本特殊土の分類方法について
東大生研 正 三木五三 郎
 - (III-126) 土質分類に関する考察
名大 正○植下 協 正
" " " " 野々垣 一
 - (III-127) 砂質土の表面構造と工学的性質の相関性に関するミクロ的研究——特にマサ土の破砕性に関する電子顕微鏡の所見について——
京大 正 松尾 新 郎焜
" " "○宋 永 永
 - (III-128) 粒度試験に必要な空気乾燥試料重量について
山梨大 正 箭内 寛 治
 - (III-129) 火山灰質粘性土の透水性について (1)
中藤 大 正 久野 悟 郎雄孝
" 田 組 " " 石 山 和 正
" " " " 鎌 田 正

(III-130) マサ土の土粒子特性とセン断特性について
 関西大 正西田 彦
 " " " 香川 満

日本生命中之島研修所 3階 B 教室
11月6日(金)

総括報告(圧密・沈下)
13:00~14:00

- (III-131) 複合地盤の圧密に関する研究
 広島大 正網千寿夫 彦
 " " " 吉原 邦 雄
 不動建設 " " " 木谷 陽 夫
- (III-132) ペントナイトおよび木節粘土の粘弾性特性につ
 鹿島技研 正 鈴木 木 音 彦
 " " " 横 谷 英 夫
 " " " 太 田 陽 夫
- (III-133) 土の側方流動模型実験について
 鹿島技研 正 鈴木 木 音 彦
 " " " 横 谷 英 夫
 " " " 太 田 陽 夫
- (III-134) 地盤の側方流動について
 京大防災研 正 柴 田 徹
 清水建設 " " 井 原 之
 京大防災研 " " " 井 原 正 紀
- (III-135) 圧密に及ぼす粘土構造の影響
 日大理工 正 浅 川 美 利
- (III-136) 粘土の圧縮性の一考察——物理化学的観点よ
 り——
 金沢大 正 西 田 義 親
 首都高 学 中 小 川 誠 志
 福井大 正 西 浦 志 比 兵 衛

(休憩 10分)

個人発表(圧密・沈下・地下水)
14:10~16:10

- (III-137) 繰返し圧密試験機の試作について
 建土研 正 佐々木 康
- (III-138) 著しい圧縮性を示す土の非線型圧密理論
 西日本工大 正 安 原 一 哉
 九 大 " 山 内 豊 聡
- (III-139) (欠番)
- (III-140) 有機質地盤の沈下特性についての考察
 三井共同建設 C 正 前 田 慶 之 助
 " " " 池 花 園 生
 " " " 広 川 宗 征 和
 " " " 岡 藤 田 和 憲
- (III-141) 被圧地下水圧変動の地盤沈下に及ぼす影響
 京大防災研 正 村 山 朗 郎
 " " " 八 木 則 男

(III-142) 複層からなる滞水層中の地下水位変動の考察
 京大正 松尾新一郎
 " " " 河野伊一郎

(III-143) 粒度からの透水性算定値と現地透水性試験値との
 関係について
 中堀ソイル 正 中 堀 和 英
 " " " 謙 訪 靖 二

(III-144) 土中の浸透と排水に関する考察
 岐阜大 正 宇 野 尚 雄

日本生命中之島研修所 3階 B 教室
11月7日(土)

総括報告(支持力・斜面)
9:00~11:00

- (III-145) 不均一地盤の支持力
 東 大 正 今 井 五 郎
 " " " 深 井 紘 敏
- (III-146) 軸対称としての浅い基礎の支持力について(第
 2報)
 立命館大 正 勝 見 雅
 " " " 学 神 野 広 巳
- (III-147) 複合地盤内応力分布に関する実験(その2)
 京大正 松尾新一郎
 " " " 黒 田 勝 彦
 応用地質調査 " 西 川 誠 誠
- (III-148) K_0 値を考慮した弾性異質及び異方性地盤の応
 力
 新 潟 大 正 小 川 正 二
 東 北 大 学 諸 戸 靖 史
- (III-149) 弾性率が深さとともに直線的に変化する有限深
 さ地盤内の応力及び変位について
 東 工 大 正 山 口 柏 樹
 " " " 木 村 田 孟 朝
 " " " 学 成 村 上 幸 利

(III-150) 単純斜面の安定解析について
 日大理工 正 川 北 米 良

(III-151) (欠番)

(III-152) 分割法における分割細片側面に作用する力の影
 響
 信州大 正 川 上 浩
 (休憩 10分)

個人発表(支持力・斜面)
11:10~11:55

- (III-153) (欠番)
- (III-154) 岩層中の地すべり粘土と先行圧密荷重との関係
 西日本工大 正 玉 田 文 吾
- (III-155) 斜面安定に及ぼすイオン交換の影響
 京大正 松尾新一郎
 " " " 富 田 武 満

第 IV 部門 (道路・鉄道・都市計画・交通・測量など)

大阪科学技術センター 8 階大ホール
11 月 6 日 (金)

総括報告 (人口分布)
13:00~13:50

- (IV-1) 夜間人口分布の動態予測モデルについて
京 大 正 飯 田 恭 敬
" " 学 〇 萩 原 達 朗
- (IV-2) 人口移動現象の巨視的な考察
名 " 大 正 毛 利 正 光
" " 学 〇 渡 辺 千 賀 恵
- (IV-3) 商店従業人口分布に関する基礎的研究
福 山 C 正 三 宅 秀 隆
" " " 〇 田 中 信 男
- (IV-4) 都市地域における人口分布の予測方法について
金 沢 大 正 松 浦 義 満

個人発表 (土地利用)
13:50~14:50

- (IV-5) 国土計画における土地と人口の地域適正分布に関する研究
東 大 正 八十島 義之助
- (IV-6) 土地利用形態の要因分析
京 大 正 〇 森 杉 寿 芳
" " " 〇 青 山 吉 隆
- (IV-7) 土地の価値と価格に関する研究
東 工 大 学 稻 村 肇
- (IV-8) 都市内高層住宅の立地に関する調査研究
京 大 正 天 野 光 三
" " " 〇 柏 谷 増 三
" " 学 〇 中 島 浩 浩
- (IV-9) 決定理論的にみた住宅適地選定過程
東 工 大 正 中 村 英 夫
" " " 〇 内 山 久 雄

(休憩 10 分)

個人発表 (道路網計画・その他)
15:00~16:00

- (IV-10) 道路網整備効果に関する一考察——札幌市を例として——
北 大 正 小 川 博 一
札 幌 市 " 〇 高 谷 俊 清 臣
- (IV-11) 街路システムからみた交差点評価について
岐 阜 大 正 加 藤 晃
- (IV-12) 最適道路網の探索法について——最適解と近似解——
京 大 正 飯 田 恭 敬
- (IV-13) パーク・アンド・ライド、キス・アンド・ライド方式の通勤目的自動車交通について
日 大 理 工 正 〇 山 田 清 臣
" " " 〇 高 田 邦 彦
酒井不動産部 " 〇 酒 井 凌 介
- (IV-14) 海外でのボーキサイト鉱開発計画の検討
三井共同建設 C 正 前 田 慶 之 介
" " " 〇 池 田 花 宗 生
" " " 〇 齊 藤 敬 敏

大阪科学技術センター 8 階大ホール
11 月 7 日 (土)

総括報告 (駐車場)
9:00~10:05

- (IV-15) 駐車場計画に関する一考察
福 山 C 正 三 宅 秀 隆
" " " 〇 木 村 俊 夫
- (IV-16) 送迎方式と駐車場計画
京 大 正 〇 佐 佐 木 綱
" " " 〇 岡 本 利 章
- (IV-17) 都心部駐車施設の規模決定に関する一考察
名 工 大 正 松 井 寛
- (IV-18) 帯広市に於ける駐車実態調査について
北 大 正 塩 田 行
三 菱 地 所 " 〇 石 津 保 彦
- (IV-19) (欠番)

個人発表 (駐車場)
10:05~10:20

- (IV-20) 駐車需要の発生過程に関する考察
建 土 研 正 小 浪 博 英
(休憩 10 分)

総括報告 (交通制御)
10:30~11:45

- (IV-21) 広域交通制御に関する基礎的考察
名 工 大 大 学 〇 増 田 典 行
福 井 大 大 〇 正 小 本 野 義 弘
名 福 名 大 大 〇 正 小 本 野 義 弘
" " " 〇 小 野 多 田 義 典 明 行
- (IV-22) 広域交通制御の評価について
名 工 大 大 学 〇 小 野 多 田 義 典 明 行
福 井 大 大 〇 正 小 野 多 田 義 典 明 行
- (IV-23) D.P. による系統式信号制御の最適化
神 戸 大 正 枝 村 俊 郎 守
" " " 〇 久 井 俊 郎 守
- (IV-24) D.P. による系統式信号制御の最適化
その 2: 枝分れ、ループのある場合
神 戸 大 正 枝 村 俊 郎 守
" " " 〇 藤 井 登 史 雄
- (IV-25) 工事施工区域と交通制御
奥 村 組 正 西 山 和
- (IV-26) 信号制御における交通損失について
京 大 正 米 谷 栄 二
" " " 〇 奥 谷 二 蔵
- (IV-27) 非線型制御理論による編織モデル解析
京 大 正 嶋 昭 治 郎 彦
鹿 島 建 設 " 〇 荒 井 治 克 彦

個人発表 (交通制御)
11:45~12:00

- (IV-28) バス運転ダイヤのコントロールに関する一考察
京 大 正 高 岸 節 夫 稔
" " " 〇 戸 松 節 夫

(休憩 60 分)

総括報告 (パーソントリップ)
13:00~13:50

- (IV-29) パーソントリップに関する 2, 3 の考察
福 山 C 正 〇 三 宅 秀 隆
" " " 〇 井 田 秀 隆
- (IV-30) パーソントリップの交通機関利用率に関する解析
四 国 地 建 正 赤 松 惟 央
福 山 C " " 〇 福 川 井 山 俊 優 郎

- (IV-31) パーンソトリップの交通機関別OD分布
京 大 正 佐 佐 木 綱章
" " " 岡 本 利
- (IV-32) 秋田市における通勤、通学交通について
秋 田 大 正 清 水 浩 志 郎

総括報告 (需要予測・交通配分)
13:50~15:20

- (IV-33) 都市内のゾーン別発生量・集中量の推計方法について
東 大 正 新 谷 洋 二 洗
" " " 〇 黒 川
- (IV-34) 高速道路利用交通の発生について
東 大 学 浦 井 哲 夫
- (IV-35) 物資流動における交通需要推計について
東 大 正 山 川 仁
- (IV-36) OD交通量の特性と交通量予測について
名 大 正 河 上 省 吾
- (IV-37) 札幌市における配分交通量に関する実証的研究
北 大 正 山 村 悦 夫 一
神 奈 川 県 " 〇 橋 本 謙
- (IV-38) 交通量の需要推計で用いる最短経路探索
東 大 正 井 上 孝 寧
" " " 〇 杉 原 頼 頼
- (IV-39) カット法を用いた等時間原則による交通量配分
——一般道路網における応用——
京 大 正 飯 田 恭 敬 彰
" " " 〇 魚 住 隆 彰
- (休憩 10 分)

個人発表 (需要予測・交通配分・その他)
15:30~17:20

- (IV-40) 集合住宅地域における自動車の利用形態について
日 大 理 工 正 〇 高 田 邦 道 臣 三
" " " 〇 山 森 下 庄 清
- (IV-41) 貨物輸送量の予測モデル
岐 阜 大 正 加 藤 晃 二
" " " 〇 岡 昭
- (IV-42) 貨物輸送に関する 2, 3 の考察
名 城 大 正 水 野 弘
- (IV-43) 不完全OD表に基づいて完全OD表を推定する方法
道 路 公 団 正 三 野 定 哉 徹
海 外 事 業 団 " " 〇 井 田 正
- (IV-44) ODパターンと道路網容量について
阪 市 大 正 西 村 昂
- (IV-45) 輸送計画の配分および等時間原則による配分に関する研究
京 大 学 井 上 博 司
- (IV-46) 札幌市における道路除雪の経済効果について
北 大 正 五 十 嵐 日 出 夫
- (IV-47) 交通機関の競争条件に関する研究
東 工 大 正 菅 原 操

大阪科学技術センター 8 階大ホール
11 月 8 日 (日)

個人発表 (交通流)
9:00~10:30

- (IV-48) 都市高速道路出路の交通状態について
阪 神 高 速 正 石 橋 金 一 郎 司 雄
" " " 〇 松 品 武 為

- (IV-49) 交通流の小時間変動について
東 工 大 大 正 〇 片 倉 正 彦 謙 人 一
都 立 大 大 大 〇 鍋 島 正 泰 征 健
武 蔵 工 大 大 〇 岩 浦 倉 島 崎 田

- (IV-50) 登坂車線設置に関する一考察
北 大 正 板 倉 忠 三 俊 一
" " " 〇 堀 加 堀 清
- (IV-51) 都市における通過交通の質について
東 京 都 正 垂 沢 璋 治
- (IV-52) 車輛走行速度の測定法について
北 關 土 試 正 〇 高 橋 毅 一
" " " 〇 佐 藤 馨
- (IV-53) 交通容量解析の一方法
武 蔵 工 大 " 〇 川 浦 深 人 子
" " " 〇 岩 崎 美 征 智
- (休憩 10 分)

個人発表 (交通流)
10:40~12:00

- (IV-54) タクシーの運行挙動に関する考察
京 大 正 〇 米 谷 栄 二 証 雄
" " " 〇 野 村 孝 孝
- (IV-55) 交通仕事量保存の法則に関する研究
北 大 正 五 十 嵐 日 出 夫
海 道 開 発 局 " 〇 平 野 道
- (IV-56) 地区内街路網に関する研究
名 福 井 大 大 正 〇 毛 利 正 光 明 宏
" " " 〇 学 本 三 星 昭
- (IV-57) 街路の交通容量について
北 大 正 板 倉 忠 三 俊 二
" " " 〇 学 加 小 笠 原 晋
- (IV-58) 山間部における交通騒音伝播性状について
名 大 正 〇 毛 利 正 光 郎
" " " 〇 青 島 正 縮 次 郎
- (IV-59) (欠番)
- (休憩 60 分)

総括報告 (舗装およびアスファルト)
13:00~14:30

- (IV-60) カラー舗装の試験施工について
阪 市 大 正 三 山 瀬 貞 優 太 信
" " " 〇 学 森 田 光 良 正
万 博 協 会 正 西 正
- (IV-61) たわみ性舗装の構造特性
東 京 都 正 〇 秋 山 政 敬 男
" " " 〇 細 田 昌 昌
- (IV-62) アスファルト混合物の加熱貯蔵について
日 大 理 工 正 〇 三 浦 裕 二 古
" " " 〇 権 代 長 比
- (IV-63) 目地のある舗装の熱膨張座屈
日 大 理 工 正 川 口 昌 宏
- (IV-64) アスファルトのレオロジー
セ ン トラ ル C 正 〇 間 山 正 一 雄
北 大 " 〇 菅 原 照 一 雄
- (IV-65) アスファルト舗装用骨材の最大寸法に関する一実験
立 命 館 大 正 学 吉 川 本 上 彰 史 嗣
" " " 〇 松 品 武 為 野 正 正

(IV-66) アスファルト混合物における凍結融解後の安定度
度に及ぼすファイラーの影響
函館高専 正○宮内 光一
北開大 " " 大内 政秀
函館高専 " " 大藤 秀

(IV-67) 軟弱粘性土におけるタワミ性舗装の厚さ設計について
九 大 正 山 内 豊 聡
" " " " " " 卷 内 勝 彦
(休憩 10 分)

個人発表 (舗装およびアスファルト)
14:40~16:00

(IV-68) Outflow meter による路面の粗さ測定について
建土研 正 溝 口 忠

(IV-69) 舗装の寿命とワイブル分布
鹿島道路技研 正 遠 藤 靖

(IV-70) アスファルト舗装のフレッキング破損の評価と試験方法
日本舗道 正 山 之 口 浩

(IV-71) 繰返し衝撃をうけるアスファルト合材の性状について
山口大 正○樋上 渡 正 美
鹿島建設 " " 空 田 安 満 弘

(IV-72) 道路の動的載荷試験
道路公団 正 土 肥 正 彦
" " " " 持 長 竜 一 郎
大林組技研 " " 木 藤 村 二 寛 継
" " " " ○若 松 藤 洋 三
" " " " 後 藤 洋

(IV-73) オラグ砕石路盤と切込み砕石路盤の供用4年後における調査について
大 有 道 路 正○吉 兼 亨
名 道 大 " " 植 下 協

(IV-74) 北陸高速道路における防風・飛砂対策に関する調査
金 沢 大 正 柳 場 重 正
道 路 公 団 " " 石 井 滋 之
金 沢 大 学 " " ○本 江 裕

大阪科学技術センター 4階 403号室
11月7日(土)

個人発表 (鉄道)
13:00~14:20

(IV-75) 模型軌道における落錘実験
岐阜高専 正○渡部 卓 郎
" " " " 鎌 田 相 互

(IV-76) 渦電流式レールブレーキの軌道に及ぼす影響
鉄道技研 正 佐 藤 吉 彦

(IV-77) 吊橋軌道上の車輛走行運動への転送装置を用いたシミュレーション
東 大 正 松 本 嘉 司
" " " " 学 藤 沢 沢 伸 光
" " " " ○井 上 貞 文

(IV-78) 軌道水平角折れ通過時の二軸車の運動
東 大 正 学 松 本 嘉 司
" " " " ○中 藤 原 伸 有 光
" " " " " " 原 有 策

(IV-79) 工場軌道における横圧の研究
東 大 正 八 十 島 義 之 助
" " " " " " ○大 嶋 孝 二

(IV-80) 直線区間のレール重量が道床の上下振動におよぼす影響について
関東学院大 正 古 高 谷 寅 雄
新 潟 大 大 " " ○中 橋 村 憲 久 人
関東学院大 " " " " 村 久 人
(休憩 10 分)

個人発表 (測量・その他)
14:30~16:50

(IV-81) 道路透視図の幾何学的構造
東 大 正 中 村 良 夫

(IV-82) 各種地形表現形式による既選定路線の検討
京 大 正○森 尾 忠 次
" " " " 学 高 尾 善 昭

(IV-83) 自由曲線のフーリエ級数による表現とその応用
東工大社会工 正○中 村 英 天
東 大 理 学 都 司 嘉 宜

(IV-84) 濃度測定による色彩地図の面積々算法
京 大 正 星 仰

(IV-85) 視準するポールの太さと視準誤差との関係について
日大理工 正 亀 田 和 昭

(IV-86) 近距離の測定用カメラのキャリブレーションの方法
東大生研 正 丸 安 隆 和
" " " " 学 ○田 中 総 太 郎

(IV-87) 測量観測精度と風力に関する実験的研究(1)
福井工大 正 長 浜 友 治

(IV-88) マトリクス演算による条件付間接測定の解法について
熊 本 大 正 三 池 亮 次
" " " " ○星 田 義 治

(IV-89) 北海道全島地図完了に到る技術の史的経過について
北海道産短大 正 平 野 吉 之 助

個人発表 (施工計画)
16:50~17:20

(IV-90) 施工計画の作成法に関する一考察
京 大 正 吉 川 和 広
" " " " 学 ○春 春 名 嶋 攻
" " " " " " ○笹 嶋 攻

(IV-91) 最適スケジュールの決定法について
京 大 正 吉 川 和 広
" " " " 学 ○春 春 名 嶋 攻

大阪科学技術センター 4階 403号室
11月8日(日)

個人発表 (交通事故)
10:40~11:45

(IV-92) 事故発生時の交通現象について
阪神高速 正 三 品 武 司
" " " " " " ○中 大 志 万 和 雄 也
" " " " " " " " 大 志 万 和

(IV-93) 交通事故発生のシミュレーション・モデルについて(その2)
阪 市 大 正 三 瀬 貞
大 阪 市 " " ○村 井 哲 夫

(IV-94) 線型判別関数による交通事故解析
名 大 正 毛 利 正 光
福 井 大 大 学 ○三 本 多 星 義 昭 明 宏

(IV-95) 交通事故発生の変動に影響する因子のマクロ的分析
室 蘭 工 大 正○齊 藤 和 夫
" " " " " " ○石 井 和 憲 一

(IV-96) 横断歩道橋の利用についての一考察
阪 市 大 正○三 瀬 貞
大 阪 市 " " 村 井 哲 夫

個人発表(交通事故)

11:45~12:00

- (IV-97) 自動車運転者の注視行動
東工大社会工 正 村 田 隆 裕
(休憩 60 分)

個人発表(観光)

13:00~14:00

- (IV-98) 観光需要予測に関する研究
東工大社会工 正 村 田 隆 裕
" 〇 森 地 裕 茂
- (IV-99) 海浜の観光利用の需要予測
名 大 正 河 上 省 吾
古 屋 市 〇 村 瀬 勝 美
- (IV-100) 海岸のレクリエーション利用の研究
東工大社会工 正 〇 鈴 木 忠 義
運輸省港湾局 " 〇 鈴 金 子 影
- (IV-101) 観光地の土地利用評価についての考察
山 梨 大 正 花 岡 利 幸
東京都市部局 " 〇 河 部 又 博
山 梨 県 " 〇 深 沢 男

(IV-102) 遊園地における歩行者の流動に関するシミュレーション

東 工 大 学 永 井 護
(休憩 10 分)

個人発表(空港・港湾)

14:10~15:10

- (IV-103) 福岡, 宮崎空港旅客数の月間変動を考慮した予測について
福 岡 大 正 吉 田 信 夫
鴻 池 組 " 〇 坂 東 和 意
- (IV-104) 福岡, 宮崎空港旅客数変動の要因について
福 岡 大 正 吉 田 信 夫
" " " " 〇 井 久 保 均
- (IV-105) 輸送手段の分担率推定に関する行動科学的考察
京 大 正 木 保 昇
- (IV-106) 泊地の静穏度に関する一考察
京 大 正 長 尾 義 三
" " " " 〇 黒 森 杉 寿 秀
港 湾 技 研 " " 〇 黒 森 杉 秀 彦
- (IV-107) 航空機タイヤの平均接地圧に関する考察
港 湾 技 研 正 〇 須 佐 藤 勝 久
空 港 公 団 " " 〇 須 佐 藤 部 洋 一

土木計画学講習会 テキスト 1

B5・122 800 円 会員特価 700 円(〒70)

- 土木計画問題のシステム化
一ネットワークシステムを例にとつて一 吉川和広
- 調査方法および資料整理 高橋 裕
- 道路計画の基礎資料 山根 孟
- 将来予測の一般論 加藤 晃
- 港湾の整備計画 高田陸朗
- 都市用水需要の将来予測 首藤和正

土木計画学講習会 テキスト 2

B5・152 1200 円 会員特価 1100 円(〒70)

- 調査計画法一特に標本調査方法について一 河上省吾
- 情報の抽出と予測 中村慶一
- 土木計画のための線形計画法 吉川和広
- バイパス計画の実施例
一国道3号線福岡バイパスの場合一 稲見俊明
- 水資源計画の手法 佐々木才朗

▶新刊発売中◀

土木計画学講習会 テキスト 3

B5・130 1200 円 会員特価 1100 円(〒70)

- 都市計画の数学的手法
一将来道路交通量推定理論一 五十嵐日出夫
- 観光計画の手法 鈴木忠義
- 建設工事のための割当て問題 吉川和広
- 待ち行列の理論とシュミレーション 越正毅
- 工程管理のためのネットワーク手法
一PERTの実施例を中心として一 河原畑良弘
- PPBSと公共施設計画 倉島取

第 V 部門 (土木材料・施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など)

日本生命中之島研修所 3 階講堂
11 月 6 日 (金)

個人発表 (吉田研究奨励金受領者報告)
13:00~15:05

- (V-1) 高張力異形鉄筋の樹脂接着継手に関する研究
東大生研 正○伊藤 利 治憲
" 芝田 "
- (V-2) 多軸曲げをうける鉄筋コンクリート柱の終局強度について
京 大 学 中 沢 征 夫
- (V-3) コンクリート部材の合成に関する研究
京 大 正 吉 岡 保 彦
- (V-4) PC 円形構造物のクリープおよび温度応力に関する研究
長大橋設計センタ 正 梶 村 雄 佑
- (V-5) 鉄筋付着強度試験における付着応力の分布に関する理論的研究
室蘭工大 正 能 町 純 雄一
" 〇松 岡 健 "
- (V-6) 軽量コンクリートを用いた鉄筋コンクリート材のせん断強度に関する基礎研究
東 大 学 松 貝 勇
- (V-7) 鉄骨鉄筋コンクリートの土木構造物への適用に関する研究——主として、偏心軸圧縮部材について——
首都高速 正 泉 満 明
" 〇山 寺 徳 "
- (V-8) 直結軌道用コンクリート構造物に関する研究
国鉄大鉄 正 宮 口 尹 守 彦
国鉄札鉄 〇 山 田 尚
国鉄構設 正 〇 官 田 尚
- (V-9) 異形鉄筋の重ね継手に関する研究
国 鉄 正 菅 生 邦 孝 夫
東 北 大 学 〇 村 山 哲
- (V-10) 大寸法の砕石を用いたプレバックドコンクリートについての実験的研究——実験-I. モルタル流動特性実験——
鉄道公団 正 〇 桜 井 紀 郎 郎 孝 敏
西松建設 " " 太 田 和
大 林 組 " " 賀 清
佐藤工業 " " 古 賀 清
- (V-11) 軽量コンクリートの耐火性に関する基礎的研究
国鉄山陽新幹 正 向 井 軍 治 朗
国鉄大工 " 〇 西 川 由

(休憩 5 分)

個人発表 (コンクリート部材の疲労)
15:10~16:00

- (V-12) 鉄筋コンクリートげたの疲労変形について
北 大 正 藤 田 嘉 夫 信 司
" " 〇 西 堀 井 忠 忠
- (V-13) 鉄筋のループ状の重ね継手について
北 大 正 藤 田 嘉 夫 信 規
" " 〇 西 堀 尾 忠 友
- (V-14) 過大繰返し荷重を受ける PC はりの挙動
九 大 正 徳 光 善 治 通
" " 〇 松 下 博 博
- (V-15) コンクリートの繰返し衝撃とその疲労度について
立命館大 学 桂 木 正 雄 喜 樹
" " 〇 竹 内 正 喜 樹
" " 明 石 外 世

日本生命中之島研修所 3 階講堂
11 月 7 日 (土)

個人発表 (硬化コンクリート)
9:00~10:25

- (V-16) コンクリートの引張強度におよぼす高温度の影響について
電 研 正 〇 河 原 友 純 晃
" " " 〇 原 口
- (V-17) 高温を受けるコンクリートの強度変化に関する実験
九 福 岡 大 正 〇 石 川 達 夫 史
" 大 " 〇 大 和 竹
- (V-18) 超かた練りコンクリートの蒸気養生とその性質について
徳 島 大 正 荒 木 謙 一 清 生
" 〇 〇 林 野 岑
徳 島 県 " 〇 林 野 岑
- (V-19) 海水を利用したコンクリートの 60 年経過後の諸性質について
東海大海洋 正 長 崎 作 治
- (V-20) オートクレープ養生をしたコンクリートの一実験
愛知工大 正 久 保 直 志 二
阪 市 大 " 〇 佐 伯 伯
- (V-21) 細骨材の実績率がモルタルの性質に及ぼす影響について
九 大 正 徳 光 善 治 喜 象
" 〇 〇 学 大 古 賀 源 博
- (V-22) 気泡コンクリートに関する実験
九 大 正 石 川 達 夫 人 喜
" 〇 〇 学 〇 藤 村 村 達 正 宗

(休憩 10 分)

個人発表 (硬化コンクリート)
10:35~12:00

- (V-23) モルタル・コンクリートの破壊過程に関する二、三の考察
京 大 正 丹 羽 義 次 二
" " " 〇 中 川 浩 浩
- (V-24) プレレンコンクリート中のマイクロクラックと物性
防 衛 大 正 加 藤 清 志
" " " 〇 藤 清 志
- (V-25) 硬化コンクリート中の空隙と強度ならびに変形特性
鳥 取 大 正 〇 藤 村 尚 次 郎 蔵
" " " 〇 阪 田 山 憲 英 新
" " " 〇 西 林 新
- (V-26) 吹付けコンクリートの配合に関する実験研究
鹿島技研 正 〇 中 原 康 郎
" " " 〇 田 沢 雄 二
- (V-27) まだ固まらないコンクリート中の縦波速度について
立 命 館 大 学 〇 角 田 忍 樹
" " 正 明 石 外 世
- (V-28) 非破壊試験によるコンクリート版厚の測定
立 命 館 大 学 〇 山 田 啓 一 樹
" " " 〇 堀 野 谷 洋 一 樹
" " 正 明 石 外 世
- (V-29) セメントの圧縮強さ試験法に関する問題点と一提案
防 衛 大 正 加 藤 清 志 夫
" " " 〇 近 江 雅 志 夫

(休憩 60 分)

個人発表 (コンクリート部材の設計)

13:00~14:25

- (V-30) RC桁の粘弾塑性解析 (その1)
宮崎大正太田俊昭勉
" " "藤瀬
- (V-31) コンクリート矩形はりのねじりについて—有限要素法による弾塑性解析—
京大正岡田清之
" " "見島孝
- (V-32) 曲げとねじりをうけるPSコンクリートはりの挙動について
京国大鉄正岡田清彦
" " "白井幸
- (V-33) 軽量プレストレスト鉄筋コンクリートばりに関する基礎研究—主として曲げ性状について—
関東学院大正中川英憲務
" " "森島
- (V-34) プレキャストコンクリート連続合成はりの力学的性質に関する研究
岐阜大正大浜文彦夫
" " "小林和
- (V-35) ビルツ式PCゲルバー桁橋の静的載荷およびクリープ実験について
阪神高速正今井宏典学之
" " "藤井裕
阪神高速 "中島
- (V-36) コンクリート打継目付近の水和熱測定と温度応力の解析
京大正岡田清一
" " "野村春陽
阪神高速 "野村

(休憩 10 分)

個人発表 (コンクリート部材の設計)

14:35~16:00

- (V-37) 温度勾配を与えたプレストレストコンクリートはりの性状
電研正青柳征夫志夫
" " "大川沼崎道
- (V-38) PRC 桁の曲げ応力性状に及ぼすPC鋼/鉄筋比の影響
北大正横道英雄雄雄
" " "角田与史
" " "村邦
- (V-39) 支圧強度に関する理論的考察
鳥取大正阪田憲次郎
" " "西林英新
- (V-40) 円周方向のくさび作用を利用したPC定着具の応力解析
鉄道技研正岡本征夫章
" " "青戸
- (V-41) コンクリート管の打撃応力
京大正岡田清彦之
" " "久良喜代
大阪府高専 "見島孝
- (V-42) 鉄筋コンクリートパイプの軸方向集中荷重による載荷試験
九福岡大正石川達夫史
" " "大和竹
- (V-43) 最適費用設計法の鉄筋コンクリートばりへの応用
北海土試正藤井卓
" " "藤井

(休憩 10 分)

総括報告 (コンクリート部材の設計)

16:10~17:20

- (V-44) 鉄筋コンクリートラーメン隅角部の補強筋に関する実験的研究
早大正神山一男雄
" " "津野和幸
オリエンタルC "横溝

- (V-45) 光弾性によるL型ラーメン隅角部の応用解析
神奈川県工試正戸塚学
- (V-46) 軽量鉄筋コンクリート梁に関する実験
阪神高速正田井戸米好衛司
" " "吉原克寛
日本セメント "山崎
- (V-47) 光弾性によるコンクリート構造物の隅角部に関する研究
神奈川県工試正戸塚学男明
" " "津野和満
首都高速 "泉
- (V-48) PC部材の中間定着部補強に関する2,3の考察
神戸大正藤井学輔寿
" " "桜井春泰
" " "北村

日本生命中之島研修所 3 階講堂

11月8日(日)

個人発表 (コンクリートのひびわれ)

9:00~10:25

- (V-49) 軽量骨材コンクリートの乾燥による強度低下に関する考察
都立大正村山二郎男雄
" " "神大田山
" " "塚茂
- (V-50) 人工軽量骨材コンクリートの性質におよぼす乾燥の影響について
東北大正後藤幸正直郎司
" " "外原喜三
防衛庁 "藤原忠
" " "藤原
- (V-51) 軽量骨材コンクリートの乾燥収縮と拘束ひびわれ
鳥取大正阪田憲次郎
" " "阪木山
" " "西山林英新
- (V-52) 人工軽量骨材を用いた鉄筋コンクリート部材の耐熱性に関する二,三の実験的考察
電研正岡部博俊勉
" " "阿伊藤
- (V-53) モルタルの熱特性と温度ひびわれとの関係
函館高専正徳田弘彦
" " "林俊
- (V-54) RC桁の配筋法のひびわれに対する影響
北大正角田与史雄之
" " "高田宣
- (V-55) 碎石・細砂コンクリートの耐久性および収縮について
金沢大正柳場重正紀尚
" " "川大場村深
" " "大深伸

(休憩 10 分)

個人発表 (コンクリートのクリープ・耐久性)

10:35~12:00

- (V-56) 膨張セメントコンクリートのクリープ性状
東工大正長滝義司実
" " "後藤重祐
" " "今井
- (V-57) 段階的圧縮荷重を受けるコンクリートのクリープについて
九州産業大正宮川邦彦

(V-58) 軸方向繰返し荷重をうけるコンクリートのク
リープ試験

九 大 正 石 川 達 夫
" " 学 " 〇江 下 博 通
" " " " " 崎 崎 哲 郎

(V-59) コンクリートのクリープに及ぼす載荷時材令の
影響

東 大 正 〇岡 木 甫 治
" " " " " 鈴 木 正

(V-60) ディビダーク式プレストレストコンクリート橋
におけるコンクリートのクリープおよび乾燥収
縮に関する研究

東 北 大 正 後 藤 幸 正
鹿 島 建 大 〇 百 島 祐 信
東 北 " 大 学 外 大 塚 正 直 司

(V-61) 長期を経たRC橋の耐荷力調査について

北 海 土 試 正 前 川 静 男
" " " " " 〇太 藤 井 井 泉 隆

(V-62) 大煙突の現況調査

名 大 正 島 田 静 雄
" " 学 〇平 松 本 康 男 典
日 本 鋁 業 正 松 本 公

(休憩 60 分)

個人発表 (コンクリートの付着・継手)

13:00~14:20

(V-63) 鉄筋とコンクリートとの付着強度実験

名 大 正 島 田 静 男
" " " " " 学 〇田 宮 下 力 範

(V-64) 脱水コンクリートにおける鉄筋の付着強度等
について

名 城 大 正 加 藤 正 育
" " " " " 〇飯 坂 武 治 男

(V-65) 鉄筋ボンドに与えるベントナイト液の影響

群 馬 高 専 正 犬 塚 雅 生
" " " " " 学 〇岩 崎 本 敏 明 好

(V-66) ベンナイト液中に置かれた重ね継手鉄筋に
関する実験

群 馬 高 専 正 犬 塚 雅 生
" " " " " 〇古 川 川 本 茂

(V-67) 鉄筋の継手に関する実験

東 海 大 正 〇菊 本 幸 雄
" " " " " 〇久 間 雅 孝

(V-68) 異形鉄筋の重ね継手に関する 2, 3 の考察

北 大 正 藤 田 嘉 夫
" " " " " 〇松 井 井 忠 信 司

(休憩 10 分)

総括報告 (コンクリート部材のせん断強度)

14:30~16:00

(V-69) RCスラブの押抜きせん断耐力に関する一考察

京 大 " 〇小 柳 治 一
宇 部 興 産 " " 米 田 俊

(V-70) 鉄筋コンクリートスラブの押抜きせん断破壊に
関する実験および考察

九 大 正 石 川 達 夫
" " " " " 学 〇平 田 登 基 男 彦
三 井 共 同 建 設 C 正 太 田 正

(V-71) 軽量骨材を用いた鉄筋コンクリートばりのせん
断強度に関する基礎研究

名 工 大 正 吉 田 弥 智
大 成 建 設 " 〇松 井 井 裕

(V-72) 軽量鉄筋コンクリートはりのせん断強度におよ
ぼす 2, 3 の要因について

徳 島 大 正 荒 木 謙 一
" " " " " 学 〇戸 田 川 原 夫 尚

(V-73) 軽量コンクリート梁のせん断補強方法に関する
研究

広 島 大 正 〇船 越 稔 夫
" " " " " 〇米 倉 州 一

(V-74) コンクリートのせん断破壊に関する一考察

日 大 理 工 正 〇北 田 勇 輔
" " " " " 〇稲 葉 明 彦

(V-75) 鉄筋コンクリートのはりの斜引張ひびわれ強度

早 大 正 神 山 一 博
" " " " " 〇松 島

(V-76) 鉄筋コンクリートのねじりせん断応力度

早 大 正 神 山 一 博
" " " " " 〇松 島

日本生命中之島研修所 3 階 B 教室

11 月 7 日 (土)

総括報告 (アスファルト)

13:00~15:00

(V-77) アスファルト舗装体の力学と材料物性について

北 大 正 〇菅 原 照 雄
" " " " " 学 上 森 島 吉 昭 壯 博

(V-78) アスファルト・フィラー・砂系の応力緩和とパ
インダーの粘度について

北 大 学 〇森 吉 昭 博
東 京 都 大 正 学 細 野 見 隆 郎
北 大 学 〇森 吉 昭 博

(V-79) アスファルト合材の Rutting に関する基礎研
究—第 2 報

竹 中 土 木 正 神 崎 靖 一
北 大 学 〇松 浦 精 光 男
日 本 鋪 道 正 上 坂 光

(V-80) アスファルト及びアスファルト合材の緩和弾性
率に関する研究 (第 1 報)

北 大 学 〇笠 原 篤 夫
" " " " " 〇正 岡 上 田 和 壯
五 洋 建 設 " " 寺 島 一 彦

(V-81) 動的測定法によるアスファルト及びアスファ
ルト合材のスティフネスに関する研究 (第 2 報)

北 大 正 学 上 葛 原 壯
" " " " " 〇岡 田 和 篤 夫 朗
住 友 建 設 正 石 川 達

(V-82) 舗装用アスファルトにおける粘度の歪速度依存
性に関する研究 (第 2 報)

茨 城 県 正 〇北 郷 新 平
飛 鳥 建 設 " " 大 坂 山 志 一
セ ン トラ ル C " " 大 間 正

(V-83) アスファルト合材の破断時の歪に関する研究

北 大 " 〇石 井 哲 夫
" " " " " 〇森 井 吉 昭 博 壯

(V-84) アスファルト合材のぜい性破壊に関する研究
(主として配合の影響について)

北 大 正 〇上 島 杜
" " " " " 〇森 島 吉 昭 博

(V-85) アスファルト合材の脆性破壊に関する研究—
主としてパインダーの影響について—

日 本 道 路 正 〇平 井 延 次
北 大 " " 〇中 島 昭 雄

(V-86) アスファルト合材の透水、透気性と力学性状に
ついて

北 旭 大 正 〇川 野 敏 行
日 本 道 路 " " 〇梶 平 典 次
国 土 総 合 開 発 " " " 井 泰 延
京 都 府 " " " 〇加 藤 藤 隆 章

(休憩 10 分)

個人発表 (アスファルト)

15:10~16:25

- (V-87) アスファルト樹脂を混合した舗装コンクリートの研究
積水化学 正 岩井 鉦治 郎
" " " 湊松 島野 俊正 清一典
近畿大 " " 〇佐野 俊正
- (V-88) アスファルト合材の高温時における剪断挙動について(その1)
室蘭工大 正 新田 登躬
" " " 〇高橋 哲
- (V-89) アスファルト混合物の一試験
中央大 正 〇茨木 龍雄
" " " 高橋 孝
- (V-90) フィルタイプダムのアスファルトフェイシング合材の工学的特性に関する実験研究(1)
鹿島技研 正 〇重松 和男
" " " 楢原 健
- (V-91) ホット・ストレージによるアスファルトの老化の研究——主として化学的な組成変化について——
東亜道路 正 〇笠原 靖正
" " " 植村 健三
" " " 稲垣 健
- (V-92) アスファルト系舗装の防草性に関する基礎研究
鹿島道路技研 正 遠藤 靖雄
" " " 〇小池 俊

(休憩 10 分)

個人発表(プレバクドコンクリート)

16:35~17:25

- (V-93) プレバクドコンクリートの均等性について
東大 正 国分 正
" " " 〇岡村 忠 胤甫彦
- (V-94) プレバクドコンクリートの大量施工管理システムについて
鉄道公団 正 羽場 良和
" " " 〇大松 町垣 光 和司威
- (V-95) 大寸法砕石を用いたプレバクドコンクリートの大型実験体(直径 10m, 高さ 2.5m)による注入実験
国鉄東京二工 正 野口 功朗
" " " 〇原 井田 紀 宏
鉄道建設協会 " " " 〇原 井田 紀 宏
- (V-96) 大寸法砕石を用いたプレバクドコンクリートの大口径コアボーリングによる強度試験
鉄道公団 正 〇河村 泰
" " " 〇太田 田 泰 次孝
鉄道建設協会 " " " 〇太田 田 泰 次孝
広島大 " " " 〇太田 田 泰 次孝

日本生命中之島研究所 3階 B 教室

11月8日(日)

個人発表(骨材一般)

9:00~10:05

- (V-97) コンクリート用骨材としての山砂に関する一実験
木更津高専 正 植田 治二
" " " " 〇黒川 紳章
- (V-98) 軽量骨材の安定性試験と強度変化に関する二, 三の考察
鳥取大 正 吉川 敏憲
" " " " 〇阪木 次郎
" " " " 〇西林 英新
- (V-99) (欠番)

- (V-100) 骨材最大寸法とコンクリートの性質について
武蔵工大 正 小玉 克巳
- (V-101) 砕石コンクリートの粗骨材粒形の影響
大阪工大 正 児玉 武三
- (休憩 10 分)

個人発表(施工一般・その他)

10:15~12:00

- (V-102) 構造形態とその構成材料との関連について
日本建設 C 正 〇磯崎 正晴
" " " " 手塚 薫
- (V-103) ベントナイト泥水中におけるトレミーコンクリート性状
鹿島技研 正 中原 康郎
" " " 〇田沢 雄二
- (V-104) 弾性シール材の高架道路盲目地への適用
阪神高速 正 田井戸 好真
" " " 〇沖野 好真
- (V-105) ダム遮水壁用アスファルトコンクリートの空気透過量測定について
東工大 正 渡辺 隆博
" " " 〇建部 英
- (V-106) 寒中コンクリート保温養生に関する基礎的研究
室蘭工大 正 尾崎 政
" " " 〇志村 久
" " " 〇西田 政
- (V-107) 沈埋函ガasketに対する二, 三の考察
間組 正 藤田 圭一
" " " " 上村 嘉平 基衛
" " " " 〇下村 嘉平
- (V-108) 逸泥防止剤アッシュの開発——泥水工法における泥水管理に関する研究(第9報)
大林組技研 正 〇喜田 三武
" " " " 〇喜田 大
- (V-109) 工程管理曲線の求め方(ネットワークによる一例)
大林組 正 安藤 俊博
- (休憩 60 分)

個人発表(アルミナセメント)

13:00~14:05

- (V-110) 超早強セメントを用いたコンクリートの初期強度におよぼす養生温度と混和剤の影響について
日曹マスター 正 〇児玉 和巳
" " " " 〇福馬 直昭
" " " " 〇福馬 直昭
- (V-111) アルミナコンクリートの初期内部歪に関する実験的研究
近畿大 正 水野 俊一
" " " " 〇玉山 井元 治克
" " " " 〇玉山 井元 治克
- (V-112) 極寒中コンクリートへのアルミナセメントの応用
東洋大 正 岩崎 訓明
" " " " 〇黒井 登起 雄
- (V-113) (欠番)

- (V-114) 各種混和材を使用したアルミナセメントコンクリートの早期強度について
法政大 正 小林 正昭
" " " " 〇町山 延 昭
- (休憩 10 分)

個人発表(混和剤・接着・その他)

14:15~15:35

- (V-115) 超かつ練りコンクリートに対する混和剤の使用
徳島大 正 荒木 謙一
" " " " 〇竹村 和 清夫

- (V-116) グラウトの膨張圧力の測定 (第1報)
愛知工大 正久 保野 直奎 志二
" " " " " " " " " "
- (V-117) 粘土鉱物とポルトランドセメントの相互作用に
関する研究 (第3報)
金沢大 正川 村満 紀
" " " " " " " " " " 正治
- (V-118) PCパイプを用いた合成コンクリート部材に関
する基礎研究
東大 正国 分正 胤
" " " " " " " " " " 顕

- (V-119) コンクリートの樹脂接着について
大阪工大 正児 玉 武 三
" " " " " " " " " " 夫保
" " " " " " " " " " 光
" " " " " " " " " " 枝
- (V-120) 樹脂含浸法による各種窯業材料の物性改良
大成建設技研 正田 良 栄 一
" " " " " " " " " " 親元 房子
" " " " " " " " " " 元 子

コンクリートライブラリー一覽					
No.	編著者	題 目	定価	会員 特価	円
1	吉田徳次郎	コンクリートの話	200	150	60
3	委員会編	異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリート構造物の 設計例	700	600	70
7	村田二郎	コンクリートの水密性の研究	120	100	50
9	石田一郎	添えばりを用いるアンダーピンニング工法の 研究	120	100	50
10	委員会編	構造用軽量骨材シンポジウム	500	400	70
11	樋口芳朗	微細な空けきてん充のためのセメント注入に おける混和材料に関する研究	120	100	50
12	岩間 滋	コンクリート舗装の構造設計に関する実験的 研究	120	100	50
14	委員会編	第2回異形鉄筋シンポジウム	1100	900	90
15	委員会編	ディビダーク工法設計施工指針 改版	700	650	80
16	藤田嘉夫	単純曲げをうける鉄筋コンクリート桁およびプレス トレストコンクリート桁の極限強さ設計法に関する研究	150	120	50
17	委員会編	MDC工法設計施工指針	700	500	80
18	尾坂芳夫	現場コンクリートの品質管理と品質検査	700	550	80
19	赤塚雄三	港湾工事におけるプレパックドコンクリートの 施工管理に関する基礎研究	220	200	50
20	委員会編	フライアッシュを混和したコンクリートの中性 化と鉄筋の発錆に関する長期研究	500	450	50
21	委員会編	バウル・レオンハルト工法設計施工指針	700	650	80
22	委員会編	レオバ工法設計施工指針	700	650	80
23	委員会編	BBRV工法設計施工指針	900	800	80
24	委員会編	第2回構造用軽量骨材シンポジウム	1100	950	80
25	丸安 小林 阪本	高炉セメントコンクリートの研究	550	500	80
26	松本嘉司	鉄道橋としての鉄筋コンクリート斜角げたの 設計に関する研究	200	180	50
27	岡村 甫	高張力異形鉄筋の使用に関する基礎的研究	200	180	50
28	尾坂芳夫	コンクリートの品質管理に関する基礎研究	200	180	50

日本土木史 大正元年～昭和15年	12000円	会員 特価	10000円 (〒250)
Civil Engineering in Japan, 1969	1500円		(〒110)
大学土木教育の方向を探る その現状と 問題点	700円		(〒70)
明日の国土を築く力 高校土木 教育白書 新刊	700円		(〒70)
新潟地震震害調査報告	10000円	会員 特価	9000円 (〒250)
東名高速道路建設誌 新刊	11500円	会員 特価	9500円 (〒300)
土木製図基準 1970年版	1400円	会員 特価	1200円 (〒130)
土木技術者のための 振動便覧	2400円	会員 特価	2000円 (〒110)
建設技術者のための 測定法	2000円	会員 特価	1800円 (〒110)
土木技術者のための 岩盤力学	3600円	会員 特価	3000円 (〒130)
海岸保全施設設計便覧 改訂版	2300円	会員 特価	2000円 (〒100)
橋 1968～1969	1600円		(〒150)
土質実験指導書 45年改版	340円		(〒70)
土木材料実験指導書	490円		(〒70)
水理実験指導書	250円		(〒70)
構造実験指導書 新刊	450円		(〒70)
測量実習指導書 新刊	450円		(〒80)
コンクリート標準示方書	1000円	会員 特価	800円 (〒100)
コンクリート標準示方書解説	1300円	会員 特価	1000円 (〒100)
プレパックドコンクリート 施工指針	220円	会員 特価	180円 (〒50)
人工軽量骨材コンクリート 設計施工指針	300円	会員 特価	250円 (〒50)
鉄筋コンクリート工場製品 設計施工指針	650円	会員 特価	550円 (〒70)
プレストレストコンクリート 設計施工指針	350円	会員 特価	250円 (〒70)
トンネル標準示方書解説 44年改版	800円	会員 特価	700円 (〒80)
シールド工法指針	800円	会員 特価	700円 (〒80)
土木工事の積算 新刊	1800円	会員 特価	1600円 (〒100)
東京都新宿区四谷1丁目 土木学会 ☎	351-4131(販売) 振替東京16828		

祝 土木学会昭和45年度全国大会

株式會社 大林組

取締役社長 大林 芳郎

本店 大阪市東区京橋3ノ75 TEL大阪(941)0861(大代表)
東京支店 東京都千代田区神田司町2ノ3 TEL東京(292)1111(大代表)
支店 札幌・仙台・横浜・名古屋・神戸・岡山・広島・福岡・高松



鹿島建設株式会社

取締役会長 鹿島 守之助

取締役社長 渥 美 健 夫

本社 東京都港区元赤坂1丁目2番7号 電話東京(404)大代3311
支店 札幌・仙台・横浜・名古屋・大阪・広島・四国・九州



清水建設

会長 清水 正 雄

社長 吉 川 清 一

本社 東京都中央区宝町2ノ1
支店 名古屋・大阪・広島・高松
福岡・金沢・仙台・札幌



社長南 幸治

土木建築設計施工

大成建設 東京中央 567
区銀座2-5-15

一般土木  浚渫・埋立

東洋建設株式會社

取締役社長 藤 井 八 郎

本社 大阪市東区高麗橋5丁目(興銀ビル) 電話大阪(202)代表3961
東京本部 東京都千代田区神田小川町2丁目(三和ビル) 電話東京(291)代表5461
東京支店
支店 仙台・金沢・名古屋・大阪・岡山・高松・福岡

祝 土木学会昭和45年度全国大会

建設コンサルタント

橋梁、鋼構造物、コンクリート構造物の調査計画、設計ならびに理論的研究
 上記構造物の架設計画ならびに工事管理



構造計画コンサルタント株式会社

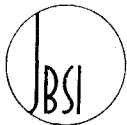
代表取締役社長 福田 武雄

本社 東京都豊島区巣鴨2丁目23番地(丸吉ビル) 電話 東京(918)7341(代)

創業50年! 橋づくりで社会に貢献する——

日本橋梁株式会社

本社・工場 大阪市淀川区長柄浜通1丁目1番地 TEL 06-358-1271(代表)
 東京支店 東京都中央区日本橋通3丁目7番地 TEL 03-272-3671(代表)
 九州営業所 福岡市天神1丁目9番17号 TEL 092-74-5088(代表)
 札幌営業所 札幌市北3条西4丁目1番地 TEL 0122-24-8457
 名古屋営業所 名古屋市中区新栄町7丁目3番地 TEL 052-971-2668



株式会社 日本構造橋梁研究所

社長 工学博士 田原 保二
 副社長 工学博士 猪股 俊司

所在地 東京都港区南青山5の12-4号(全業連ビル内)
 TEL (400) 9101~5

主要営業種目
 橋梁・道路・建築
 コンサルタント
 試験研究
 設計
 調査
 測量
 施工管理

土木・建築・線路・電気各工事調査設計施工

東鉄工業株式会社

取締役社長 根来 幸次郎

本社 東京都新宿区市谷砂土原町2丁目7
 電話 東京(268)代表4211
 支店 東京・千葉・水戸・宇都宮・高崎・仙台

道路・水路・堤防・貯水池・各種舗装施工

世紀建設株式会社

取締役社長 大島 秀信

本社 東京都港区芝公園第14号地25番
 電話 東京(434)3731(代表)
 支店 札幌・仙台・新潟・東京
 名古屋・大阪・広島・福岡
 技術研究所 相模原市鹿沼台2-17-14
 電話 0427(52)1219

橋のコンサルタント

橋梁の設計、調査、計算、工事管理
 土木建築、設計、調査、計算、工事管理
 道路河川の測量、地質調査設計

大日本コンサルタント株式会社

取締役社長 老田 務 専務取締役 吉田 四夫
 本社 東京都文京区本駒込3-29-7 電話(946)3771
 大阪出張所 大阪市西区土佐堀船町15(新肥後橋ビル) 電話(443)4540
 名古屋出張所 名古屋市中区丸の内2-8-30 電話(201)4826

土質改良と特殊工法

三信建設工業株式会社

代表取締役 市 瀬 良 男

本社: 東京都文京区後楽1-2-7 TEL 813-3521
 支店: 大阪市西区京町堀1-154 TEL 441-6401~2
 出張所: 名古屋市中区丸の内1-2-28 TEL 211-5250

祝 土木学会昭和45年度全国大会

OX JACKS リース

油圧各種ジャッキ電動、手動式・PC鋼線棒引張ジャッキ・土圧計
リングビーム工法用ジャッキ・載荷試験工事設計施工

オックス ジャッキ コンサルタント 株式会社

東京都中央区新富町1丁目2番地 電話 東京 (553) 3501 (代表)

各種グラウト工事に
各種泥水工事に!!

説明書贈呈

トイナトンベ 順豊

登録商標

シリカライト

月産能力……16,000 箱

最も古い歴史をもつ

株式会社 豊順洋行

大阪市西区靱2-2-6 電話(441)5141(代)
東京都港区芝西久保桜川町28 電話(503)4861(代)
名古屋市中村区花車町2-24 電話(581)9866(代)
工場/群馬

“橋”は川田の技術で



川田工業株式会社

取締役社長 川田 忠雄

本社 富山・福野・4610 TEL 2101

東京支社 文京・本駒込・3-29-7 TEL (942)0161

大阪支社 西・土佐堀船・15 TEL (443)6051

電気防蝕法

流電陽極方式
アラノード

高濃度亜鉛塗料
ゼッタール

鋼杭をさびから守る

建築基礎・橋梁基礎・棧橋等

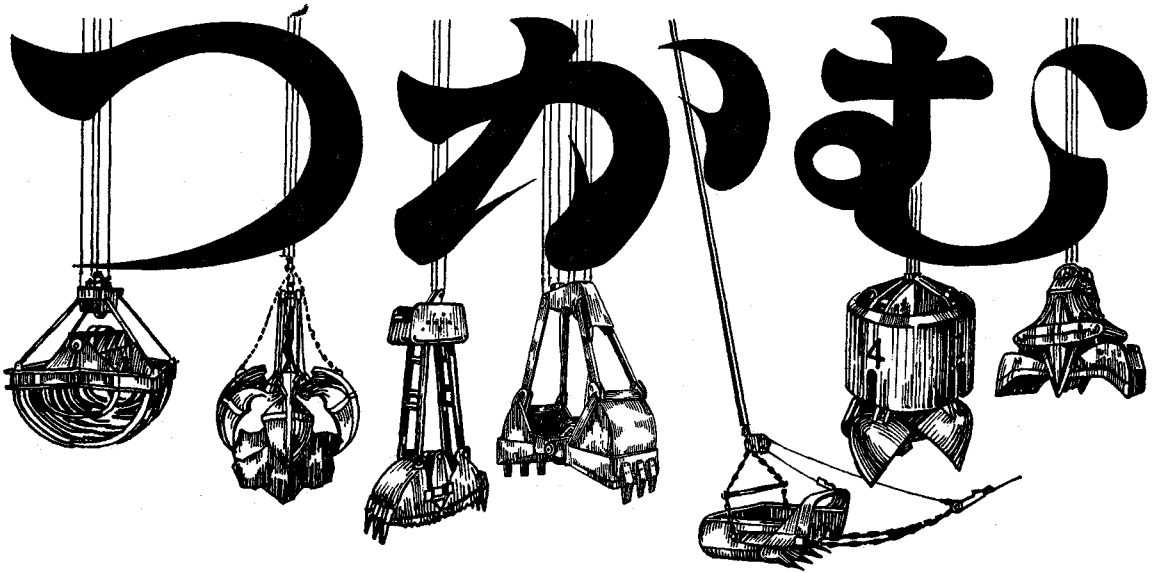
調査—設計—施工



日本防蝕工業株式会社

本社 東京都千代田区丸の内1-6-4 (交通公社ビル) 電話東京(211)5641代表
大阪事務所 大阪市西区江戸堀北通2-2-2 電話大阪(443)9271-5
出張所 名古屋・四日市・広島・北九州・長崎・仙台・千葉

祝 土木学会昭和45年度全国大会

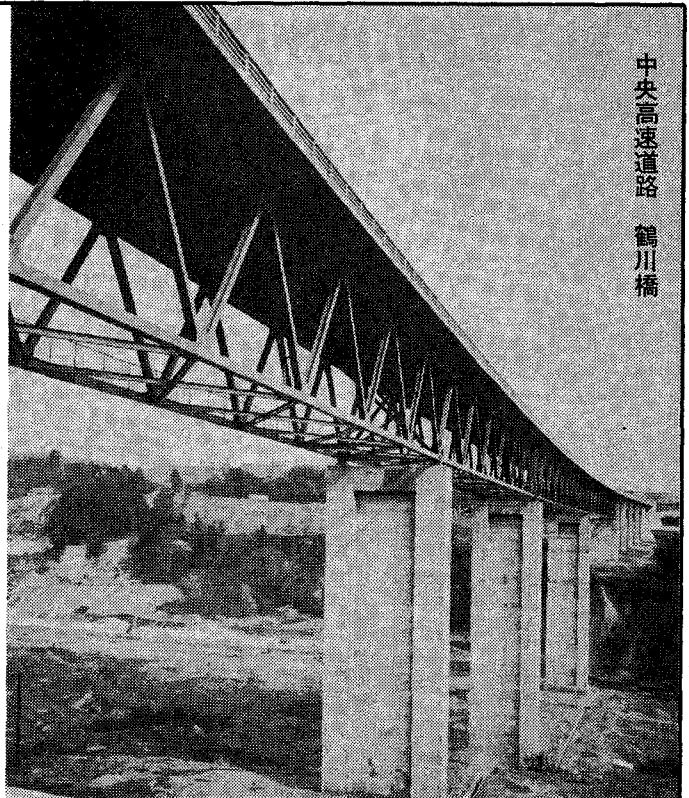


浚渫・掘削・荷役に最高の機能を誇る
まさごのバケット

真砂工業株式会社

本社 東京都足立区花畑町4074 TEL(884)1636(代)-9
 大阪営業所 大阪市北区牛丸町52(日生ビル) TEL(372)3751

中央高速道路 鶴川橋



松尾橋梁株式会社

本社 大阪市大正区鶴町三十一一〇 電話552-1551(大代表)
 支店 東京都江東区新砂一十七一 電話644-4131(大代表)
 工場 大 阪 ・ 堺 ・ 東 京 ・ 千 葉

祝 土木学会昭和45年度全国大会

日本建築学会東海支部・土質工学会中部支部
名古屋地盤調査研究会 編著

名古屋地盤図

▶ A 4・350頁(付図2)/価20,000円

本書は名古屋地区地盤調査の決定版である。名古屋地盤の解説をはじめ、ボーリング柱状図、土質試験結果一覧表および多数の付録を取録し、計画、設計、施工の必携資料として完璧を期した。

日本建築学会近畿支部・土質工学会関西支部編著

大阪地盤図

▶ A 3・356頁(付図5)/価35,000円

道路便覧

日本道路協会編 ▶ A 5・1,204頁/価4,000円

下・廃水汚泥の処理

岩井重久監著/申 丘 激・名取 真共著/価2,300円

廃水の生物学的処理

W.W.エッケンフェルダー・D.J.オコンナー原著/岩井重久訳/価1,700円

東京都文京区千石 4-46-10
郵便番号 112

コ ロ ナ 社

振替東京 14844
TEL.(03)941-3131



標準土木工学講座(全18巻)

- | | | |
|---------------|-------------|--------|
| 1. 当山道三著 | 土質力学 | 920円 |
| 2. 梶 和著 | 道路工学(上) | 950円 |
| 4. 渡部 弥 著 | 改訂 港湾工学 | 1,200円 |
| 5. 米屋秀三著 | 発電水力学 | 900円 |
| 6. 永井莊七郎著 | 改訂 水理学 | 1,650円 |
| 7. 庄 司 光著 | 衛生工学(上) | 900円 |
| 8. 丸安隆和著 | 測量学(上) | 870円 |
| 9. 丸安隆和著 | 測量学(下) | 950円 |
| 10. 本 間 仁著 | 河川工学 | 880円 |
| 11. 種 浦 大 三 著 | 橋梁工学 | 1,600円 |
| 12. 村上正 著 | 構造力学 | 1,020円 |
| 13. 吉村虎藏 著 | 都市計画 | 1,300円 |
| 15. 谷口成之 著 | 鉄道工学 | 1,030円 |
| 16. 柴田元良 著 | 改訂 コンクリート工学 | 1,000円 |
| 17. 丸安隆和 著 | 改訂 鉄筋コンクリート | 1,000円 |
| 17. 水野俊一 著 | | |
| 17. 神山 著 | | |

—以下続刊—

鉄橋 骨梁

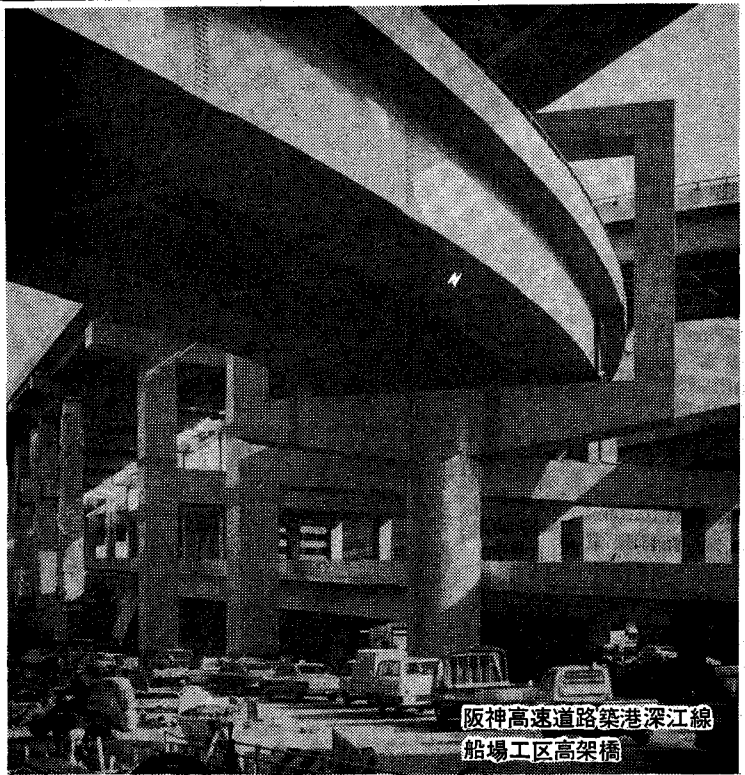


株式会社

宮地鉄工所

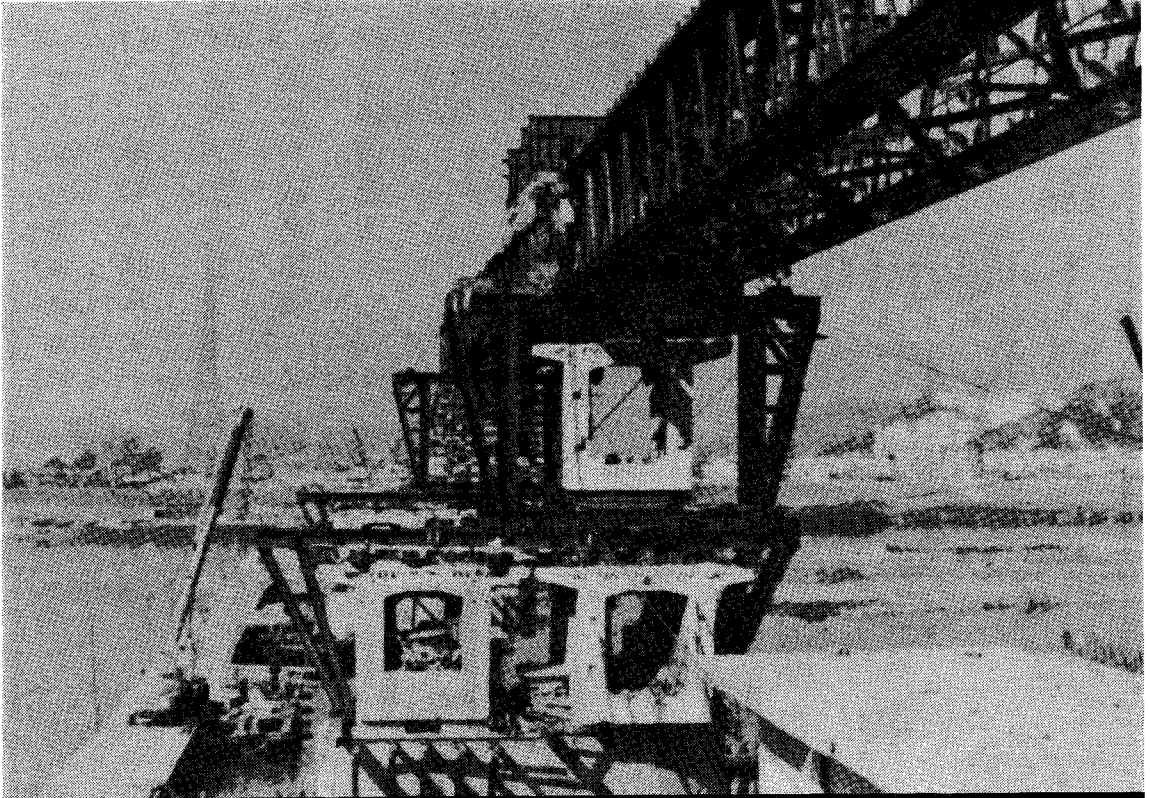
本社 東京都江東区新砂2-2-8

電話 645-1141(大代表)



阪神高速道路築港深江線
船場工区高架橋

住みよい国造りに活躍する 建設七社



熊谷組



佐藤工業



鉄建建設



飛島建設



西松建設



間組



前田建設

国際会議ニュース

(1) The Second World Congress of Engineers and Architects in Israel

上記の国際会議がイスラエルの Tel Aviv で開催されます。

期日：1970年12月14～18日

テーマ：“Dialogue in Development-Integration of Interdisciplinary Planning and its Implementation in Development Work”

1. Dialogue
2. Integration
3. Modern Development Bractice

会議用語：英語，仏語，スペイン語，ヘブライ語

費用：I.T.C.C.および Association of Engineers and Architects in Israel の会員 \$ 60.00
非会員 \$ 70.00
同伴者 \$ 40.00

連絡先：Congress Secretariat
2nd World Congress of Engineers and Architects in Israel
200 Dizengoff St., P.O.B. 3082
Tel Aviv, Israel

(2) 第5回国際金属腐食会議

主催：日本金属腐食会議を構成する21学協会
期日：1972年（昭和47年）5月21（日）～27日（土）
会場：東京プリンスホテル（東京都港区芝公園3号地）
会議テーマ（案）

- (1) 腐食過程の基礎的問題
- (2) 金属防食の工学的問題
- (3) 工業における腐食事故例と経験
- (4) 金属と合金の腐食に関するその他の問題

事務局：東京都目黒区中目黒2丁目3番12号
金属材料技術研究所 伊藤五郎気付

(3) Symposium on Mass-Produced Steel Structures

主催：International Association for Bridge and Strutural Engineering (I.A.B.S.E.)
期日：1971年9月23日，24日
開催地：Prague, Czechoslovakia
テーマ：1) Production Technology (部材，構造物の

加工，製作，架設)

- 2) Design Concepts (生産技術との関連において)
- 3) Applications in Structural Engineering (建築，鉄塔，その他における応用)
- 4) Applications in Bridge Engineering (具体的な橋梁の例，標準設計など)

会議用語：英語，独語，仏語

参加方法：参加者は I.A.B.S.E. 会員(随時入会できる)で，なるべく早く *所定の申込カードを事務局に提出する。一般参加者はあらかじめ用意された Introductory Reports に対する Prepared Discussion を前もって提出することができる。

連絡先：Secretariat of I.A.B.S.E.

“Prague Symposium”

Swiss Federal Institute of Technology
CH-8006, Zurich, Switzerland

*チェコではビザの交付期間が長くかかりますので早めにお申込み下さい。

(4) CISM (International Centre for Mechanical Science) (UDINE-Palazzo del Torso, Piazza Garibaldi 11, Italy) では，1970年度の事業として

First Session (6.15-7.31)

Micropolar Elasticity; Computational Gasdynamics; Selected Topics of Automation and Information

Second Session (9.15-10.31)

Theory of Gyroscopes with Applications*
Extremum and Variational
Principles in Mechanics; Modern Methods in Experimental Stress Analysis; Fluidic Systems

の Session を開いています。第2 Session への希望者は8月5日までに応募することになっています。

講師および題目，その他については，名古屋大学工学部 成岡昌夫教授までご連絡下さい。

(5) IXth Czechoslovak Conference on Steel Structures Steel in Civic Buildings

開催期日：1970年9月22日～25日

開催地：High Tatra Mountains

テーマ：I. Theoretical Problems

II. Elements of Structures

III. Manufacture, erectoun and protection against corrosion

IV. Fire Protection

V. Architecture and Steel Structures.

Specimens of Application

討 議 : 討議内容は、会議の開催前に下記の連絡先までお送り下さい。なお討議用のスライドは 5×5 cm のものを用意すること。

参加費 : 25 ドル (500 Kčs)

連絡先 : OBLASTNA RADA SVTS

Ing. F. Cehula CSc., Marxova 16, Kosice
Czechoslovakia

なお、最終日 25 日は、Fast-Slovakian Iron-Works の見学あり (費用は 1 名 5 ドル)。

(6) International Symposium on Shell Structures in Fluid Environment, 1971

開催期日 : 1971 年 8 月 29 日 ~ 9 月 3 日

開催地 : ハワイのホノルル

テーマ : (a) Effects of Fluid Environment

(b) Analytical, Numerical, and Experimental Methods in Static and Dynamic Analysis of Thin and Thick Shells Partially or Totally Submerged

(c) Conceptual Designs

(d) Suitable Structural Materials

(e) Construction Methods

(f) Related Special Problems

その他 : 論文申込希望者は、1970 年 9 月 1 日までに短い abstract (6000 語) をつけて下記に申込むこと。採用論文は 1971 年 3 月 1 日までに提出する。

論文申込先および詳細問合せ先 :

Professor Rudolph Szilard, Chairman
Organizing Committee of IASS Symposium
1971-Hawaii
c/o University of Hawaii
Center for Engineering Research Honolulu,
Hawaii 96822, U.S.A.

(7) International Symposium on Low Cost Housing

開催期日 : 1970 年 10 月 8 日 ~ 9 日

開催地 : アメリカ, ミズリー大学

テーマ : 1. Low Cost Housing Projects Around the World and in the United States

2. Construction Methods for Low Cost Housing

3. Analytical and Experimental Research Related to Low Cost Housing

4. Financing of Low Cost Housing

5. Sociological and Psychological Problems Related to Low Cost Housing and Management of Low Cost Housing Systems

論 文 : 上記のテーマについて論文提出希望者は、200 ~ 300 語の短い Abstract を 1970 年 8 月 15 日までに下記に提出のこと。

論文提出先 :

Dr. Oktay Ural, Associate Professor
Civil Engineering Department, University
of Missouri-Rolla
Rolla, Missouri 65401, U.S.A.

または

Dr. Joseph H. Senne, President, ASCE
Midwest Section Chairman, Civil Engineering Department University of Missouri-Rolla
Rolla, Missouri 65401

なお、正式論文は、1970 年 9 月 10 日までに提出。

(8) First International Conference on Structural Mechanics in Reactor Technology

日 時 : 1971 年 9 月 20 日 ~ 24 日

場 所 : ベルリン

Topical Scope of the Conference :

- a) Structural Analysis of Reactor Components
- b) Interaction Between Structural Mechanics Science and Practical Engineering
- c) Mathematical-Physical Characterization of Materials
- d) Boundary Fields
- e) Computer Methods in Solid and Structural Mechanics
- f) Design Conditions : Reliability of Mechanical Systems

論文申込みについて :

1970 年 10 月 15 日 要旨受付最終日

1970 年 11 月 15 日 著者に連絡

1971 年 1 月 30 日 全文受付最終日

1971 年 3 月 31 日 上記に対する改訂申込受付最終日

Executive Committee :

J.H. Argyris (スツツガルト工科大学, 有限要素法)

で著名)

Th.A. Jaeger (連邦立材料試験所およびベルリン工科大学原子核工学研究所) (Grundzüge der Strahlenschutztechnik für Bauingenieur, Verfahren-techniker, Gesundheitsingenieure, Physiker, Springer-Verlag, 1960, p. 392 の著者である一土木工学者で, こんな大著がある)

Z. Zudans (フランクリン研究所)

くわしくは, Neuclear Engineering and Degin, 11 (1969), No. 2 参照のこと.

(9) 構造物に対する風の作用に関する第3回国際会議

(通称:耐風構造国際会議, 3rd International Conference on Wind Effects on Buildings and Structures)

標記の国際会議は本学会のほか日本建築学会, 日本鋼構造協会共催, 日本学術会議などの後援のもとに東京において開催されることになりました. 主要事項は次のとおりです.

1. 日時・場所: 1971年9月6日~11日(見学旅行を含む)東京(会場未定)

2. 登録: 第1回サーキュラー(個人招待者に配布済み, 学会事務局にもあります)にある申込用紙による.

原則として参加人員は250人に制限しておりますが資格は問いません. ただし申込締切における状況に応じてオブザーバー制をとることがあります

登録受付: 〒100 東京都千代田区丸ノ内 3-2

新東京ビル 848号 日本鋼構造協会気付

耐風構造国際会議組織委員会

3. テーマ

(1) 強風の構造

(2) 強風の統計的評価および設計風速

(3) 風力の決定(過渡現象, 乱れの影響などを含む)

(4) 風の作用をうける構造物の挙動(実測, 実験, 理論)

(5) 耐風設計の規準および実際

4. 論文受付および印刷

a. 1970年9月30日までに上記2.の登録とともにテーマおよび100語程度の要旨を添えて申込む.

b. タイプ用紙1枚程度の論文概要を1971年3月31日までに提出し, これをプレプリントとして参加者にあらかじめ配布する.

c. フルペーパーは1971年4月末日までに提出し,

これはオフセットして会議当日配布される.

d. 会議当日の討議, その他の記事を含めて後日プロシーディングスを刊行する.

なお, 論文執筆要領は具体的プログラムとともに, 第2回サーキュラーでお知らせします.

5. 参加費: 40ドル(同伴者あるときは55ドル)

6. その他: 問合せは東京大学工学部土木工学科
伊藤 学助教授

(電 03-812-2111 内 3233, 3227) へお願い致します.

(10) Conference on Man-Computer Interaction

主催: Control and Automation Division of the Institution of Electrical Engineers

開催期日: 1970年9月2日~4日

開催地: イギリス, ロンドン

参加費: 会 員 19 ポンド

非 会 員 22 ポンド

学 生 9.10 ポンド

問合せ: Mrs. Ann Cook

Manager, Conference Department

The Institution of Electrical Engineers

Savoy Place

London WC 2R·OBL, England

(11) 40th Annual Meeting Institute of Traffic Engineers

期 日: 1970年9月20日~24日

会 場: Shamrock-Hilton Hotel, Houston, U.S.A.

連絡先: P.O. Box 61592

Houston, Texas 77061 U.S.A.

(12) Modern Metal Forming Short Course

期 日: 1970年10月26日~30日

場 所: アメリカ, ペンシルヴァニア大学

テーマ: Metalworking Under High Pressures

問合せ: Ernest M. Hauk, Coordinator 102 Engineering Sciences Building University Park, Pa. 16802 U.S.A.

(13) AIME World Symposium on the Mining and Metallurgy of Lead and Zinc

開催期日: 1970年10月21日~23日

開催地: アメリカ, セントルイス

連絡先: John C. Fox, Executive Secretary

Society of Mining Engineers of AIME
345 E. 47th Street
New York, N.Y. 10017 U.S.A.

U.S.A.

(または簡単なことなら東京工業大学土木工学
科 日野幹雄助教授)

論文: 原稿はシングルスペースで 25 ページ以内。
1970 年 11 月 1 日まで

**(14) New Zealand Institution of Engineers
Annual Conference, 1971**

開催期日: 1971 年 2 月 9 日~13 日
開催地: Auckland, New Zealand
テーマ: Engineering in the Seventies
連絡先: Mr. R.W.K. Stevens Secretary
The New Zealand Institution of Engineers
Molesworth House, 101 Molesworth St.
Wellington
New Zealand

**(16) Applications of Statistics and Probability
to Soil and Structural Engineering**

開催日: 1971 年 9 月詳細未定
開催地: 香港大学, 香港
論文: 1) テーマ, 1. Design Philosophy
2. Statistics of Design Parameters
3. Interaction Studies
4. Specification and Control
5. Applied Probability Theory

**(15) 「確率統計水理学に関する国際シンポジウム」
(International Symposium on Stochastic
Hydraulics)**

開催期日: 1971 年 5 月 31 日~6 月 2 日
開催地: アメリカ, ピッツバーグ大学
共催: AGU (アメリカ地球物理学会)
ASCE (アメリカ土木学会)
IAHR (国際水理学会)
IASH (国際水文学会)
連絡先: Professor Chao-Lin Chiu University of
Pittsburgh Pittsburgh, Pennsylvania 15213

2) Synopsis は 1970 年 10 月 1 日まで本論文
は 5 000 語内. コピーを 1 部つけて 1971 年
2 月 1 日までに提出.

3) 英語

登録: 1970 年 10 月 1 日までに申込みこと。
ただし, 参加費は請求するまで送らないこと。
参加費: HK \$300(ホンコンドル)米ドルで約50ドル
連絡先: Mr. P. Lumb
Engineering Statistics Conference Organizer
Department of Civil Engineering University
of Hong Kong Hong Kong

お願い: 本欄は土木に関係の深い国際会議をより多く紹介し, 多くの会員が関連分野の国際会議に論文提出または参加できる機会をもつことができるように設けたものです。会員各位に個人的に連絡のあった案内等でも結構ですから国際会議の情報がありましたら下記により海外活動委員会までご連絡下さい。

1. 会議名/2. 開催期日/3. 開催地/4. テーマ/5. 論文提出方法/6. 締切/7. 提出先/8. 連絡先

土木振動学便覧編集小委員会編

土木技術者のための振動便覧

A 5・450 2400円 会員特価 2000円 (〒110)

基礎, 応用の 2 編に分け, 13 章に分類した土木に係るあらゆる振動問題を取上げた便覧。付録として耐震規定, 耐風設計規定などを付す。機械, 建築など他分野からも評価が高い。研究者, 設計者, 実務者むき。